平成 29 年度　春期報告書

学部／学科：工学部　応用化学科　　学年：4 年　　氏名：井沢　賢人
実　習　先：CAM PLAS（THAILAND）CO.,LTD
実 習 期 間：平成 30 年 2 月 25 日㈰～ 3 月 20 日㈫

1．実習先の概要

CAM PLAS（Thailand）CO.,LTD（CPT）
700/147, Moo 1 Amata Nakorn Industrial Estate, T.Bankhao A.Panthong, Chonburi 20160
事業内容：樹脂部品製造、組み立て、塗装

2．実習内容

実習目標：樹脂成形サイクルの改善・効率向上、機械の動作を改善し効率化を目指す

2．1 習スケジュール

2 月 25 日㈰～ 3 月 2 日㈮　オリエンテーション、工場見学、成形機の観察、サイクルの学習
3 月 5 日㈪～ 3 月 9 日㈮　成形サイクル改善、品質確認 / 修正、金型図面、機械の動作
3 月 12 日㈪～ 3 月 15 日㈭　成形サイクル改善、アームの動作の改善、発表資料作成
3 月 16 日㈮～ 3 月 17 日㈯　社員旅行
3 月 19 日㈪～ 3 月 20 日㈫　発表準備、社内発表

2．2 実習内容詳細

⑴　オリエンテーションおよび工場見学

オリエンテーションでは会社の説明や安全管理などについて講習を受け、工場見学をした。工場内は大きく分けて倉庫・金型・組み立て・成形・塗装のエリアがある。倉庫には材料となる樹脂を保管または製品をためておくのに使う。金型は金型の清掃や修繕、管理などを行う。組み立ては、製品の必要なものの組み立てを行う。成形は樹脂を製品の形に成形する。自動車、光学機器、印刷機器などのパーツを製造している。塗装はロゴなどを製品に塗装する。

図 1　製造ライン

⑵　機械について

成形は材料の計量と射出をする機械と金型に圧力をかけて成形する機械と完成した製品を冷却しつつ製品を整理するストッカーと呼ばれる機械によって行われる。材料の計量はスクリューによって製品が冷却している間に行われる。材料の射出後、そのまま一定圧力で保圧する役割も持つ。成形機は金型にかけられる圧力によって分類される。CPT には 15,30,40,50,100,180,220 トンの成形機があり、それぞれ用途によって使い分けられている。大量生産は全自動で行われていることが多いが、一部人の手を必要とするものもあった。成形後、ロボットアームによって製品は金型内から取り出されてストッカーに並べられる。

⑶　成形サイクルについて

成形の一連の流れをまとめてサイクルとし、1 サイクルの時間を短くすることが製造の利益へ直結することを学んだ。1 サイクルの捉え方は色々あるが、今回は金型が閉じてから再び閉じるまでを 1 サイクルとした。金型が閉じてから、材料の樹脂が金型内に射出される。射出された後にある一定の圧力で保圧され、製品の品質をコントロールする。その後金型は閉じたまま製品の冷却作業に移り、同時にスクリューで次の製品の分の材料を計量する。冷却後に金型が開き、ランナーと製品が切り分けられてアームによって回収される。回収された後に再び

金型が閉じてサイクルが繰り返される。大まかな流れとしてはだいたいどの製品でも同様だが金型が開くスピードや距離、射出の圧力や保圧される時の圧力、冷却時間などは大きく異なる。そのため製品にはサイクルタイムというものがあり、生産力を決定する一つの指標となっている。例えば、このとき生産していたカメラのシャッターのパーツであるセクターレバーと、カメラのフードの製造ではサイクルタイムがそれぞれ 14．35 秒と 25．02 秒と大きな差があることがわかる。一番の要因はフードの方が大きいため冷却時間がより多く必要とされているためである。その他にもフードは金型の動作は 3 段階に分かれて制御されているのに対し、セクターレバーは 1 段階のみであったりと細かい部分で時間に差が生じている。このサイクルタイムは短ければ短いほど早く大量に生産できるということであり、サイクルタイムを短縮することが一つの大きな目標である。

⑷ 金型について

技術部門においては図面の解析が必要不可欠である。各部名称と役割について調査した。製品を実際に成形する凹凸の部分をそれぞれキャビティ、コアと呼ぶ。この部分は直接金型に作ったほうが耐久性や安定性が高いが、再加工時の取り出しの利便性などから別のパーツにして金型に入れ子するという形をとることもある。入れ子にすることによって凹凸の部分のみを良質の金属することもできる。次に、金型はプレートと呼ばれる金属の板が何枚か重ねてできている。金型を成形機に固定するための板を固定側取り付け板（Adopter Plate)、可動側に固定するための板を可動側取り付け板（Adopter Plate）という。間に成形するためのキャビティプレート､コアプレートがあり、製品を取り出すためのイジェクタープレート及びイジェクターピン、可動する側の補強や加工しやすさのための受け板などもある。また、より製品がより複雑な形状をしている場合は金型内に金型の開閉に合わせてスライドする板もあり、単純な金型の水平な動きだけでは成形できない部分を成形するために使われる。その他にも各可動部の距離を確保するためのスペーサーブロックや金型と射出ノズルが合うところにあるロケートリング、金型の動きを制御するガイドピンなど実に様々なパーツによって構成されていることを学んだ。

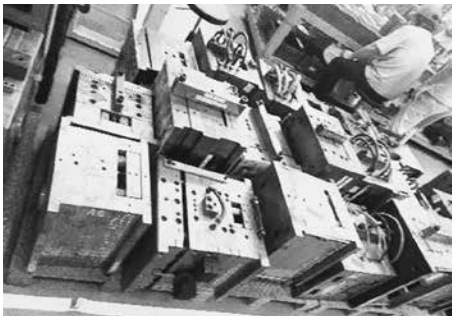


図２　金型

⑸ サイクル改善案

サイクルタイムを短くするためにできることを考えた。温度設定や圧力設定などは金型に依存していることが多く、時間短縮のために調節できる部分は少ない。冷却時間に関しても冷却が不十分だと製品の品質に問題が生じる可能性があるため極端に削ることはできない。大きく短縮できるのは金型の開閉の時間や製品回収時間だ。金型が開くときに動き始め、途中、動き終わりなどで速さと距離を調整することが出来る。より早く、より短い距離で開閉を行うことができればサイクルタイムは大幅に縮めることが出来る。また、様々な動作を同時に行うことによっても短縮できるかもしれない。例えば金型が完全に開く前から回収アームを落とし、回収して上に上がる時もある程度金型は閉じながらアームは上がるなどすれば少しは生産速度があがるかもしれない。

⑹ ロボットアームの動作及び改善案

成形した製品は成形機からロボットアームによって取り出され、ストッカーに並べられる。回収されたランナーはリサイクル機の中に投下され、粉砕し乾燥された後にある程度の割合で材料として再利用される。製品はゲートカットか梱包のために並べられる。今回のインターンでは各製造ラインのアームに無駄な動作がないかどうかの確認を行った。1 つは、製造工程においてもランナー開放と製品開放のプログラムが別で、それぞれ別々に動作しているためアームの動く距離もあり、時間もかかっている。ランナー開放と製品開放を同時に行うことができ

れば大幅な時間短縮に繋がると考えた。2つは、アームがランナーを落とす時、上下に数センチ動くものがある。ただ離すだけでも大丈夫とのことなので、この動作を外せば少しだけ早くなる。3つは、製品を並べる際や分類する際に上のアームと下の回収機までの距離が大きい場合がある。距離が大きい分、下まで降りる時間と上まで戻る時間がかかってしまう為、下の装置をあげてしまえばより少ない距離と時間で済ませることが出来る。しかし、基本的にはサイクルタイム内、つまり金型が開くときにアームは上で待機できていれば良いため、長いサイクルを持つ製品に関してはアームの速さのみを追求してもあまり意味がない。サイクルタイムを短縮できた後にアームを早くすることを考えるという順番を学んだ。

図3　製品回収アーム

⑺　その他

組み立ての多くは現地の人の手によって組み立てられる。また、製品の確認も一つ一つ人の手によって行われることがある。これらの人の手によって行われる作業では安全に細心の注意が払われていた。タイのような国では全ての人が高度な教育を受けられているわけではないため、どんなに単純な作業においても予想もしていなかったような事故が起こりうる。基本的に人の手による作業は全て立った状態で行われ、片手で済むような作業でも両手を使い、極力怪我をしないような作業行程になっていた。

3．実習の感想・学んだこと

やはり海外の人と仕事をするのはまだまだ問題が多いということ。それぞれの国にそれぞれの文化があり、それに基づく常識や価値観があり、それが協力して仕事をする上で大きな障害となる。今回のインターンシップにおいても日本人と現地の人との間で何度か意思疎通が取れていないことが起きていた。これを改善するためにはお互いの国や文化を理解し、理解してもらうことが大切だと感じた。2つは、大量生産において数秒の違いが数万円の違いを簡単に作れるということ。逆に縮められないと簡単に損をしてしまう。それほどまでに樹脂成形においてサイクルタイムを縮めることは重要だということを学んだ。技術部門では常にサイクルタイムを意識し、効率良く生産できるような調整を考えていた。利益を追求する民間企業ではこのような数秒の違いがとても重要だと学んだ。

4．まとめ

今回のインターンシッププログラムで得た海外で現地の人と仕事をするという経験はこれから先どんな企業に就職しても役立つと思う。文化の違いから生まれる価値観の差を理解し、最初からうまくいかなくても一つずつ問題解決の方法を試していくことを学んだ。また、エンジニアは常に効率良い方法を模索し､小さな改善が大きな利益を生むことを意識して仕事に取り組むことを学んだ。今回得られた経験を残りの工学部としての学習と将来の仕事に向けて役立てていきたい。

5．謝　辞

今回はお仕事の忙しい中インターンシップを受けて入れてくださりありがとうございました。自分自身インターンシップを通して大きな一歩を踏み出せたような気がします。また、社員旅行にも同行させていただき、仕事だけではない企業を体験させていただきました。Mr. CamPlasThailand に慣れたのも現地の方々のおかげです。とてもいい経験になりました。将来よりグローバルに活躍できるようこれからも頑張っていきます。

参考文献

・Internship Training Plan with Cam Plas Thailand（会社より配布された資料）
・http://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/files/data/200205/20020512/20020512.pdf

学部／学科：国際学部　国際社会学科　　学年：2 年　　氏名：小川　紗理奈
実　習　先：Pacific Hotel
実 習 期 間：平成 30 年 3 月 12 日～ 3 月 29 日

1．実習先の概要

企 業 名：Pacific Hotel & Spa Siem Reap
総客室数：236 部屋
等　　級：4 つ星ホテル

アンコール遺跡群がある都市シェムリアップに所在するホテルである。宿泊客は主に、中国人・韓国人･日本人で、観光客が多くを占めている。レストランやバー、スパ、フィットネスセンター、プールなど館内設備は充実している。日本語・中国語・英語に対応した多言語対応スタッフがいるため、お客様の要望に応えやすい。ホテルのタクシーやトゥクトゥクもあり、繁華街や空港までの交通手段として使用することもできる。

2．実習内容

お客様のチェックイン･チェックアウト、館内設備の説明及び部屋までのエスコート、ルームキーのセッティング、館内施設利用の会計作業、チェックイン前のお部屋確認、荷物の運搬、宿泊客の電話対応、外線の予約受付、チェックインリストの作成、宿泊客のトラブル対応、車及びトゥクトゥクの手配、マッサージ等の予約、宿泊客以外の館内施設利用の際の案内及び会計、モーニングコール及びアフタヌーンコール。

2．1 実習スケジュール

週 6 勤務の 9 時間労働である。途中 30 分の食事休憩がある。週ごとにシフトが変わる。

勤務日	勤務時間	休　憩
3／12 ～ 3／16	8 ：00 ～ 17：00	11：00 ～ 11：30
3／19 ～ 3／23	14：00 ～ 23：00	17：00 ～ 17：30
3／26 ～ 3／29	8 ：00 ～ 17：00	11：00 ～ 11：30

2．2 実習内容詳細

朝シフトの場合

出勤（8：00）	出勤後、全体の報告書（ログブック）を確認。チェックインやチェックアウトの人数を確認。
8 ：00 ～ 11：00	チェックアウトの準備及び荷物の運搬、チェックインリストの作成
11：00 ～ 11：30	お昼休憩
11：30 ～ 17：00	アフタヌーンコール、チェックインリストの作成、ルームキーのセッティング、チェックインされる部屋の最終確認、宿泊客のトラブル対応、外線及び内線の電話対応、トランシーバーを使ったホテル内スタッフへ連絡伝達、宿泊客のトラブル対応等

昼シフトの場合

出勤（14：00）	朝シフトと同様
14：00 ～ 17：00	チェックインリストの作成、チェックインされる部屋の最終確認、宿泊客のトラブル対応、外線及び内線の電話対応、トランシーバーを使ったホテル内スタッフへ連絡伝達、
17：00 ～ 17：30	夕食
17：30 ～ 23：00	チェックインのお客様に館内説明及びお部屋までのエスコート、宿泊客のトラブル対応、タクシー・トゥクトゥクの手配、お部屋までの荷物運搬、マッサージ等の予約など

３．実習の感想・学んだこと

労働形態が日本とは異なるということ。週６日９時間労働が基本であったため、週１回の休みが待ち遠しかった。また、労働に対する概念が異なることも興味深かった。仕事に貪欲であり、積極的な姿勢から学ぶことは多かった。従業員及びお客様とのコミュニケーションは主に英語を使用していたため、英語を使ったコミュニケーション能力が上がったと感じた。コミュニケーションは英語ができれば問題はないが、宿泊客に中国人や韓国人が多いため、これらの言語がわかると尚良いのではないかと思われる。

４．まとめ

海外で仕事をし、生活をすることは、留学とは違った観点から物事を学ぶことができると感じられた。その国の風土や生活環境などは、本や資料では到底学べない。現地の人々と同じように食事をし、仕事をし、生活していくことで初めて知るものが多くあった。日本にいては気がつかない諸問題にも目を向けることができた上に、自分自身のキャリアに繋がったと実感しています。

５．謝　辞

Pacific Hotel の従業員の方々にはとても親切にしていただき、嬉しかったです。何度も仕事内容を聞き返すことがありましたが、嫌な顔ひとつせず、熱心に教えてくださいました。また、困った時にはすぐに対処してくださるので、不便なく仕事が出来ました。本当にありがとうございました。

学部／学科：国際学部　国際社会学科　　学年：2 年　　氏名：竹中　いろは
実　習　先：Pacific Hotel（カンボジア）
実 習 期 間：平成 30 年 3 月 12 日～ 3 月 29 日

1．実習先の概要

実 習 先：Pacific Hotel（カンボジア　シェムリアップ）
所 在 地：Road No.6, Kaksekam Village Sror, Nge Commune, Siem Reap 17260, Cambodia
総客室数：236 部屋
説　　明：アンコールワットからトゥクトゥクで約 20 分の場所に位置する 4 つ星ホテルである。スパやプール、レストラン、バーといった施設を保持し、空港までの送迎や車のレンタル、観光地を巡るツアーなどのサービスも提供している。顧客は中国人、韓国人、日本人の順に多く、欧米人も少なくない。

2．実習内容

2．1 実習スケジュール

日曜休みの週 6 日、9 時間勤務である。一緒に参加したインターン生と初日を除いて、昼シフト（8 時～ 17 時）と夜シフト（14 時～ 23 時）を隔週で交代した。

表 2．1 実習スケジュール

日　付	シフト	主な内容	日　付	シフト	主な内容
3 月 12 日	8 時～ 17 時	説明	3 月 19 日	8 時～ 17 時	レセプション
13 日	14 時～ 23 時	ゲスト対応	20 日		ルームリスト作り
14 日		日本人ゲスト対応	21 日		レセプション
15 日		日本人ゲスト対応	23 日		日本人ゲスト対応
16 日		レセプション	26 日		日本人ゲスト対応
17 日		レセプション	27 日		ルームリスト作り
			28 日		日本人ゲスト対応

2．2 実習内容詳細

⑴ 主な実習内容

仕事は日本人ゲストへの対応が大部分である。具体的には、チェックイン、チェックアウト、Wi-Fi の手続き対応、宿泊予定の部屋の点検、ハウスキーピングに対する要望の通訳、スパの予約などである。場合によっては、他国のゲストに対応することもあった。

⑵ 日本人ゲストのチェックイン時

パスポートや e チケットのコピー、スパやプール、バー、レストランなどに関する施設案内、宿泊部屋までの案内、冷蔵庫内にある各種有料サービスの説明などを担う。

⑶ 事務作業

日本人ゲストが宿泊する部屋のリスト作り、フロント上の内容と書類の突合せ、ルームキーの準備を担当した。

3．実習の感想・学んだこと

私がこの国際インターンシップに参加しようと思った理由は、大きく 2 つある。まず、就職を

国内にするか国外にするか決められず、方向性を見つけるためには実際に体験してみることが大事だと思い、参加を決意した。2つ目は、インバウンド観光に興味があったためである。ホテルでのインターンシップを通して、外国人観光客はカンボジアに対してどのようなものを求めているのかなど、観光業における社会での需要を学びたいと考えた。さらに、このような経験は将来国内で就職した場合、日本に置き換えて応用できるのではないか、とも考えたからである。

以上のような目的と、‘海外で働く’という言葉に希望を抱えて臨んだ国際インターンシップだったが、前途多難であった。最も苦労したことは、やはり英語である。担う業務は、主に日本人ゲストへの対応のため対外的に英語を使うことはあまりなかったが、肝心の業務は英語で教わる。そのため、業務を覚えて慣れることが非常に難しかった。業務のみならず、初めのうちは英語で話すこと自体が非日常的で、現地スタッフからの一般的な質問や指導にも簡単な単語で答えることしか出来なかった。過去の国際インターンシップ報告書でとある方がおっしゃっていたように、私も文法や難しい単語などといったアカデミックな面に囚われてすぎていた。しかし、慣れていくにしたがって学術的なことは関係なく、むしろ積極的な心構えや会話が重要であると実感した。実際、現地スタッフとも5日目を過ぎてから冗談を言えるようになった。

また、海外で働くということは長期間慣れない土地に身を置くということである。私の場合、この点に関する注意が足りなかったのではないかと今となっては感じる。つまり、体調管理が上手くいかなかった。普段はさほど体調を崩さない体質だが、連日勤務の疲れもあり、体調不良に陥りやすい体になっていたのだと思われる。しかしそれ以上に、この経験を通して上記した点や働くことがもたらす自分への影響について無知であったことに気付かされた。自己管理という非常に基礎的なことではあるが、私にとってはそれが盲点であり、国際インターンシップに参加して良かったと思える理由のひとつである。

以上のように苦労した点も数多くあったが、その分得ることも多かった。最初に記した2つの目的も自分の中では達成できたと感じている。また、その中でもカンボジアという海外に出ることで日本そして自身を総合的に俯瞰できたことが最も有意義だったのではないかと考える。特にPacific Hotelで働かれていた日本人女性とはカンボジアの現状や海外から見た日本、自身の今後に至るまで、大変深い話をすることが出来た。もちろん、東京オリンピックという国際的ビックイベントを控えたうえで自分の将来を考えるという面においては語学力に長けた人材になるべきだと痛感した。しかし、今回のインターンシップであくまでも語学力はツールに過ぎず、根本から自分自身を形作るものではないと再確認させられた。自分は何がしたいのか、自分の軸となる価値観とは何か。このような自分が自分らしく生きていくためには何が大切なのか、という点を新たに認識できたと感じている。

4．まとめ

今回この国際インターンシップに参加したことは、今後の自分の糧になりうると考える。社会人になる前の学生の時期に「社会人」として海外に出て働くことは今しかできない経験である。鍵かっこ付きの「社会人」であるからこそ、また学生という時期に海外に出て働いてみるからこそ、今まで見ることができなかった自分や日本社会、世界が浮き彫りになった。まさに無知の知を体験したのである。多くを吸収出来る時期にこの貴重な経験が出来たことは、将来の自身の軸の一部となるだろう。

5．謝　辞

約2週間という非常に短い時間ではありましたが、かけがえのない経験となりました。ご指導くださいましたPacific Hotelの方々には多くのご迷惑をおかけしたことと思います。それでも親切にサポートしてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

学部／学科：国際学部　国際学科　　学年：1 年　　氏名：齊田　雛
実　習　先：University of Kelaniya
実 習 期 間：平成 30 年 3 月 5 日～ 3 月 28 日

1．実習先の概要

スリランカのケラニア地方にある、ケラニア大学で実習を行いました。大学はスリランカの中心都市である、コロンボ市内からバスで約 40 分のところに位置しています。事業としてはケラニア大学人文学部､日本語専攻科の授業等へ参加し､日本語選択の生徒と交流をしました。

2．実習内容

異文化コミュニケーションと教授法の授業への参加、異文化などのプレゼンテーション、卒業論文のネイティブチェック、高校生向けの漢字テキスト作成、日本語クラブでの文化紹介。

本来であれば日本語会話の授業や、他の授業に参加して生徒の日本語コミュニケーション力をのばしていくものでありました。しかし約 1 ヶ月間、私達が滞在している間は全てストライキであったため授業を毎日開催することができず、そのため常勤講師 2 名の授業のみを行いました。

2．1 実習スケジュール

月曜日、金曜日：異文化コミュニケーション、教授法の授業へ参加
水曜日　　：日本語クラブで文化交流
火曜日、木曜日：論集の添削、漢字テキスト作成
土曜日、日曜日：休日扱い

2．2 実習内容詳細

①　異文化コミュニケーションへの参加

毎週月曜日に異文化コミュニケーションの授業へ参加しました。主な内容は、スリランカと日本の異なる習慣、仕草、宗教などを題材にしてディスカッションをすることです。特に宗教分野では、日本人には馴染みのない厳しい仏教のきまりを知ることができました。生徒たちも日本人の考え方を学ぼうとする姿勢がみられ、お互いに似ているところ、異なるところに“異文化”を学びとることができたと感じています。また私はこの授業で、「異文化－日本人大学生へのアンケート調査結果とそこからみえる考察－」のプレゼンテーションを行いました。渡航前にケラニア大学の先生から題をいただき、日本でアンケートを行うなどの事前準備をしました。内容の観点としては、ジェンダーとパーソナルスペースです。約 1 時間半のプレゼンを行い、日本人学生とスリランカ人学生の「考え方の違い」を考察しました。

②　教授法への参加

この授業では、私たちが何かをするということではなく、どのように日本語を教えるか、という教え方についての講義を受けました。スリランカでは高校から日本語の授業を選択できるため、実際に使われている初等教育の教育方法を学ぶことができました。授業中は後ろから生徒の様子を観察し、どの文法や会話が苦手なのかを気にかけながら参加しました。

③　日本語クラブでの文化紹介

大学には「日本語クラブ」という日本の文化を楽しみながら学ぶサークル活動があります。普段はリーダーが中心となって開催しているようですか、今回は私達が日本から持ってきたものを紹介しました。3 月 21 日は書道と折り紙制作（写真１、２）、28 日にはスリランカ人学生は浴衣を着て、私たちはサリーを着ました。また日本のお菓子も試食してもらいました。生徒たちは日本文化を良く知っていましたが、日本人が教えることと、自分たちで行うのでは違うところが多々あります。ですので、日本人として特に生徒に知っていて欲しい文化を取り上げて行いました。

写真１　書道

写真２　折り紙制作

④　論文のネイティブチェック、漢字の教科書作成

ストライキが続いたため、主に火曜日と木曜日にはパソコンで事務作業をしていました。また、休日も作業をしていることが多かったです。論文のチェックでは書式の設定直し、日本語のミスをなおしました。そして漢字の教科書作成は、私たちがアイディアを考え漢字ドリルのようなものを作っていました。いわゆる日本人が小学生の時に使うドリルの作成です。

３．実習の感想・学んだこと

今回の実習を通して、私の志望理由である「実際の現場での日本語教育を見たい」という目標を達成できたと感じています。外国で教えられている日本語がどのようなもので、なぜ生徒が日本語を選び、勉強しているのかを知ることができました。その一つとして、日本語の会話を学ぶためにアクティブラーニングを重要視していることが分かりました。スリランカの学習方法は日本とほぼ同じで、文法や作文中心です。また、スリランカで大学に入ることはとても狭き門であり、どうしても机に向かって覚える日本語ばかりです。日本でもアクティブラーニングが言われている中、スリランカでも言語を覚えるためにアクティブラーニングの使用に切り替えようとしていますが、なかなか進展していかないのが事実のようです。今の大学生が日本語教師になったときに、スリランカでの教育方法が変わることを目標に、生徒のみなさんも教授法を学習していました。

また、私自身も多くのスリランカ文化を学ぶことが出来ました。日本文化を紹介するだけではなく、1 ヶ月の間、本当に今までにないような体験をすることが出来ました。スリランカの習慣、宗教、さらに 1 番苦労して覚えたのはシンハラ語だと思います。同じアジア大陸にあるのにも関わらず、日本では決して触れることのできない経験をしました。

４．まとめ

私はこのインターンシップを通して、将来の選択肢が増えたと感じています。日本語教育はネイティブの私だからこそできるものであり、母語の日本語を生かした職業ではないかと思います。必ず日本語教師になるかと問われれば正直分かりません。しかし理論や教育方法をただ机に向かって学ぶことよりも、実際の日本語教育現場を初めに見ることができたからこそ考えたことがたくさんあります。日本語を学ぶ目的は人それぞれであり、個人の目標やレベルに合わせて指導できるような状況が必要だと感じています。

また､ケラニア大学でお世話になった日本人の先生は国際交流基金から派遣されている方でした。その方のお話や仕事を側でみて感じたことがありました。それは、これからの日本語教育カリキュラムを大きく変え、一人でも多くの人に日本語や日本について知って欲しいという気持ちが強いということです｡そして私はそのような日本語教育のベースを創り上げる職業にも興味を持ちました。第一線で教育者として生徒と関わることは大切です。しかし同じテキスト、同じ授業では何も変える事はできません。ですから、教育基盤に焦点を当てた職業もとても重要な役割だと感じました。

約１ヶ月間のストライキで､思い通りにスケジュールや仕事が進まないことが多くありましたが､このインターンで得たことは私のこれからの大学生活や将来に大いに関係してくると思います。得たことを無駄にしないよう、大学生活に生かしていきたいと思います。

５．お世話になりました先生方へ

ディルルクシ先生､小松原先生､この度は大学の新年度という忙しい時期に宇都宮大学のインターンシップをお引き受けくださり､心から感謝いたします。またキャンディーの非常事態宣言を始め、ストライキも長引き、ご多忙だったと存じ上げます。そのような中で私たちに多くの貴重な機会を与えてくださり、本当に感謝しきれません。私たちが計画していたプレゼンテーション、文化紹介など、ストライキにも関わらず実施していただけたことで、生徒のみなさんが日本文化に触れられたことだけではなく、私自身も学び取ることが多くありました。

先生方のご配慮がなければ、今回のインターンシップは無事に終えることが出来ていなかったと思っております。感謝しても感謝し尽くせない思いです。本当にありがとうございました。

これも何かのご縁ですので、今後とも何かありましたらよろしくお願いいたします。

重ねて感謝いたします。この度は本当にありがとうございました。

学部／学科：国際学部　国際社会学科　　学年：2 年　　氏名：大根田　芽衣
実　習　先：スリランカ、ケラニア大学、日本語学科
実 習 期 間：平成 30 年 3 月 5 日～ 3 月 28 日

1．実習先の概要

スリランカ、ケラニア大学、日本語専攻

2．　実習内容

⑴　授業への参加（異文化コミュニケーション、教育法）
⑵　日本語クラブでの日本文化紹介（折り紙、書道、浴衣、日本のおかし）
⑶　プレゼンテーション（日本文化から見える日本人の価値観）
⑷　論集編集作業
⑸　漢字テキストの作成

2．1 実習スケジュール

3／ 5	スリランカ着
3／ 6	大使館でのブリーフィング
3／ 7	休　日
3／ 8	大学挨拶、崇城大学の発表の見学
3／ 9	休　日
3／10	A レベルセミナー参加
3／11	休　日
3／12	異文化間コミュニケーション授業参加、文化紹介打ち合わせ
3／13	論集編集作業
3／14	休　日
3／15	論集編集作業
3／16	異文化間コミュニケーション、教授法授業参加
3／17	休　日
3／18	文化紹介準備
3／19	異文化間コミュニケーション、教授法授業参加
3／20	文化紹介準備
3／21	日本語クラブ文化紹介(折り紙､書道)
3／22	休　日
3／23	異文化間コミュニケーション、教授法授業参加
3／24	先生方と食事会
3／25	漢字テキスト作成
3／26	異文化間コミュニケーション（プレゼンテーション)、教授法授業参加
3／27	休　日
3／28	日本語クラブ（浴衣、サリー、日本のお菓子）

2．2　実習内容詳細

⑴　授業参加

①　異文化コミュニケーション
授業に参加し、日本人としての意見を述べたり、発表したりする。
プレゼンテーションをする。

②　教授法
学生たちと一緒に授業を受け、教授法について学ぶ。
授業中に学生とグループワークをし、日本語の間違いを訂正する。

⑵　文化紹介
日本語クラブで日本の文化紹介をする。

① 折り紙

つる、さくら、雪の結晶、楓を折り、富士山の書かれた台紙（折り紙をちぎって作成）に張り付け、日本の春夏秋冬を表現する。

② 書　道

書道について発表をし、実際に半紙に好きな日本語を書いてもらう

③ 浴衣の着付け

浴衣をお互いに着つけられるようにする。

④ 日本のお菓子

日本の伝統のお菓子や若者が好むお菓子を紹介し、食べてもらう。

⑶ プレゼンテーション

日本文化から見える日本人の価値観

最近の若者文化から見える日本人の価値観と伝統文化から見える日本人の価値観の二つにわけて説明し、考察をする。

※実習前に大学側からプレゼンテーションのテーマが送られてきたため、日本にいる間に発表の調査や準備を済ませた。

⑷ 論集編集作業

スリランカの学生の論文（日本語で書かれており、テーマは日本語について）の日本語を直したり、決められた字体や設定に直したりする。

⑸ 漢字テキスト作成

先生が作成していた高校生の日本語学習者のための漢字テキストの手伝いをする。

設定された漢字を基に各課の練習問題を考え、作成する。

3．スリランカでの生活

今回の実習中ではずっと事務員のストライキが続いて、大学内を自由に移動することができませんでした。本来なら会話の授業や作文の授業にも出席できる予定でしたが、ストライキ中ということで異文化コミュニケーションと教授法の授業を特別に開講してくださった授業のみの参加となりました。また、大学内があまり自由に動ける環境ではなかったため、今回はゲストハウスでできる仕事（論文編集、テキスト作成）もしました。

スリランカでは、基本的にチューターの学生と一緒に行動をしていました。ケラニアでは英語はあまり通じませんが、日本語専攻の学生たちは日本語のレベルがかなり高く、仲介役になってくれるので安心です。スリランカはとても暑いため、最後の週には夏バテ気味になってしまいました。水分を積極的にとって、休めるときはしっかり休むといいと思います。また、虫が非常に多いため、何か虫よけの対策をすべきです。物価は安いため宿代を含め７万円を換金し、それで１か月間十分に過ごせました。

大学内の人だけでなく、スリランカで働く日本人やボランティア活動にきている人たちとの交流

もあり、貴重なお話も聞くことができました。

４．まとめ

今回の実習で日本語教育についてはもちろん、日本語を学ぶ学生や教える先生方、スリランカで働く日本人の方々と交流できたことが、一番自分にとって非常に大きい経験になったと思います。今まで漠然と想像してきた海外で働くということについて、また海外での日本語教育がどのように行われているのか、欠点、改善策、それを変えていくことがどれほど大変かを知りました。大学の先生方はとても優しく、素敵な方々で、私たちをいつも気にかけてくださいました。また、実際に日本語を勉強する学生たちと沢山関わることができて本当に楽しく、勉強になりました。スリランカでは､インターンシップで来たからこそできる観光の仕方や生活をすることができました。また、あいさつや発表の仕方など社会で生きていくための基本的なマナーの大切さを再度確認することができてよかったです。

５．謝　辞

ケラニア大学、ディルルクシ先生、小松原先生、ストライキで混乱の中、私たちを受け入れていただけたこと、本当に感謝しています。スリランカでの生活のお世話をしてくれるチューターの学生を私たちにつけてくださったり、授業を特別開講して生徒を集めてくださったりと私たちをいつも気遣ってくださいました。ストライキ中でありながら、貴重な体験をたくさんできたこと、スリランカでの生活を無事に過ごせたことは、先生方の助けがあったからできたことです。先生方から学ぶことがたくさんありました。本当にありがとうございました。

学部／学科：地域デザイン科学部　社会基盤デザイン学科　　学年：２年

氏名：平野　優麻

実　習　先：NPO 法人アプカススリランカ事務所

実 習 期 間：平成 30 年 3 月 1 日～ 3 月 31 日

１．実習先の概要

アプカスは、04 年 12 月インド洋で起きた大津波のスリランカ人被災者を支援するために設立され、08 年 1 月に NPO 法人格を取得。

英語表記 APCAS は、「Action for Peace, Capability and Sustainability」の頭文字をとったもので、同時にアイヌ語で「歩く」を意味している。「対話・自立・持続」をキーワードにすべての人々が、ともに歩むことができる社会の実現をめざし、国外と国内の周縁化された人々を取り巻く諸問題に取り組んでいる。スリランカでは、災害復興支援、ごみ問題の改善、小規模酪農や循環型農業の普及、視覚障がい者就業支援、僻地農村での地域ツーリズム拠点づくりなどの活動に取り組んでいる。

今回インターンシップを受け入れていただいたのはこの 2 か所。

①有機野菜の生産と販売事業

【事業目的】特に小規模農家の生計向上と安全な食の提供

Kenko 1st(Organic Vegetable Shop); 27/12, Rosmead Place, Colombo07 & Cool Colombo7 (Guest House) ここに宿泊させていただいた。

②視覚障がい者による指圧院運営

【事業目的】視覚障がい者の雇用促進と経済的自立支援

Thusare(トゥサーレ／視覚障がい者による指圧院); 103/12, Dharmapala, Mawatha, Colombo07

２．実習内容

２．１　実習スケジュール

▶月曜日、木曜日；Kenko 1st でのサポート。(週 2 回の野菜の仕入れ日) 8：00 過ぎ～ 19：00

▶火曜日、水曜日、金曜日；Thusare でのサポート、もしくは Kenko 1st での事務作業。会社へ出向きマッサージを行う Office Therapy でのサポート。8：30 ～ 18：30

▶土曜日；Good Market（青空市場のようなもの）での Thusare 出張マッサージ店舗でのサポート。9：30 ～ 18：30

▶日曜日；Kenko1st での事務作業。8：30 ～ 18：30

２．２　実習内容詳細

⑴　Kenko 1st での実習について

Kenko 1st 事業では、スリランカ各地の契約農家（無農薬で栽培）と連携し、集荷した有機農産物・加工品を販売している。月曜日と木曜日が野菜の仕入れ日になるので、現地スタッフと共に店舗営業とサポートをした。Kenko 1st の野菜集荷担当の方が、野菜や果物をトラクターに積んで 7：30 過ぎ頃に店舗にやってくるので、その日の野菜や果物を棚に並べる。レジの手伝い（グラム数をはかる、パソコンへの打ち込み）や購入した野菜等の袋詰めをする。スリランカの野菜は、日本と異なりほぼ量り売りが基本。また、Kenko 1st はデリバリーサービスも実施している。デリバリーサービスを希望するお客様より電話やアプリを通して注文が

入るので、野菜や果物の重さをはかりデリバリー用の袋詰めをした。日本人のお客様も、来店されるのでその際の英語⇔日本語の通訳のサポートもやらせていただいた。

写真１　野菜仕入れ日の様子

写真２　陳列が終了した様子

２～３週間目にかけてお客様へのアンケートを作成・送信し、４週間目に回答をまとめ、改善できそうな点を Kenko 1st の皆様に共有できるようにまとめた。違う視点での意見を得られるように、英語バージョンと日本語バージョンの二通りを作成した。

他の曜日などは、ドライフルーツや黒コショウなどを小さい袋につめたり、はちみつを瓶に詰めたり、店内用に野菜の効能を書いたポップアップを作成したりした。

図１　Kenko 1st 事業の状況と課題（ソーシャルビジネスの発展フェーズから考察）

類　　型	現在の段階 (報告者の評価)	課　　題	インターンの役割
社会問題解決フェーズ （－１を０にする段階）			
起業フェーズ （０を１にする段階）			
成長企業フェーズ （１を９にする段階）	○	販売店での売上げをどのように増やすか	１．店舗内のディスプレイの改善 ２．顧客の声の収集 ３．現地スタッフへのアイデア提案
大企業フェーズ （９を 10 にする段階）			

⑵　Thusare での実習について

Thusare（トゥサーレ／「癒し」という意味）は、2012 年に運営を開始し、日本人指圧専門家が技術支援を行いながら、スリランカの視覚障害者 10 数名を指圧師（セラピスト）として雇用している。Thusare では、指圧師の英語力向上のサポートとして、施術中の英語での会話をより聞き取りやすくできるように、私をお客様役としてロールプレイングで練習した。セラピストたちの練習ということで、実際に施術を受けることもあった。もう一つは、毎週土曜日の Good Market（青空市場）でのサポートである。施術を受けに来たお客様の案内や、セラピストたちの施術前後の準備や片付けのサポートをした。加えて、Office Therapy を実施する会社に同行し、受付とセラピストたちのサポートをした。ま

写真３　Good Market での様子

写真４　Office Therapy での様子

た、2週目から3週目にかけては日本から指圧専門家の方がご夫婦で来ていらしたので、日本語⇔英語の通訳の手伝いもやらせていただいた。

図2　Thusare事業の状況と課題（ソーシャルビジネスの発展フェーズから考察）

類　　型	現在の段階 (報告者の評価)	課　　題	インターンの役割
社会問題解決フェーズ (－1を0にする段階)			
起業フェーズ (0を1にする段階)			
成長企業フェーズ (1を9にする段階)	○	指圧師のコミュニケーション能力	1．指圧師の英語力向上サポート；ロールプレイング 2．指圧師⇔お客様の英語での会話のヘルプ
大企業フェーズ (9を10にする段階)			

⑶　事務作業

Cool Colombo7（Kenko 1st）のオフィスは、NPO法人アプカススリランカ事務所も兼ねているので、そこで日本に送る必要書類のスキャンやThusareの売り上げ詳細の打ち込みを行った。また、Kenko 1st店内用ポップとCool Colombo7の受付のガラス部分の棚に置くグッズのディスプレイをやらせていただいた。また、アドバイスとしていただいたPOP作成時の留意点をあげておく。

POP作成時の留意点

▶明確なポリシーのもとに情報発信をする。

▶お客様が知らない情報・ポイントを伝える。

▶商品に対し正直な意見を述べる。

▶購入後の取扱についての情報発信もする。

写真5　ビーツの効能についてのPOP

3．実習の感想・学んだこと

今回のインターンシップは、「ソーシャルビジネス」をテーマに受け入れて頂きました。しかし、インターンシップが決定した当初は、「ソーシャルビジネス」というものが何なのかよくわからない状態でした。実習開始前に、伊藤様にソーシャルビジネスについての事前課題を提出する、ということがあったので、どのような目的でスリランカでの事業を進めているのか多少なりとも理解して臨むことはできました。ソーシャルビジネスとは社会的課題をビジネスの手法で解決していく活動のことです。ですので、実際に現場を見ることは必要不可欠です。アプカス様も、当初の予定として、スリランカ中部州キャンディ県／農村部において

a．有機農産物の生産サポート
　（スリランカの基幹産業である農業の現状を学ぶ）

b．タミル文化の体験ツーリズム拠点の整備サポート
　（日本人の建築学専門家と改修した紅茶ワーカーの歴史的長屋に滞在し、近隣住民の皆さんと交流、事業の課題の整理などを行う）

以上のような、実習を考えてくださっていました。しかし、3月上旬に発生した、スリランカ中

部キャンディ近郊での宗教間対立により、事態の鎮静化のため非常事態宣言が発令され、この実習を行うことはできませんでした。キャンディでの実習を行えなかったことは非常に残念でなりませんが、この非常事態宣言というものが日本にいたら、まず起こりえないと思うので、これもひとつの思い出です。

この一か月で、一番大事だなと感じたことは、「自分の伝えたいことは、伝える」です。お互いに英語は母国語ではありませんが、コミュニケーションツールが英語のみだったので、英語での会話が主です。だからこそ、正しい文であろうとなかろうと、単語でもいいので自分が考えたこと、感じたこと、思ったことは素直に伝えた方が仕事も会話も前進していくと実感しました。Kenko 1st や Good Market は、お客様との会話がワンクッション入るので、話さなければいけないのはもちろんですが、Kenko 1st の皆様と仕事をしているときも話すことは大事だなと思いました。

アンケートによると、解答して下さったほぼ全員がスリランカの野菜や果物は農薬を多く使用して栽培されていることを知っていることがわかりました。Kenko 1st の事業は、スリランカの人々の将来の健康も良い方向に導き、小規模農家の支援にもつながっていて社会的課題をも解決へと導いています。多くの人々に、より多くの幸せをもたらしていることがわかりました。アンケートを実施したことで、ソーシャルビジネスというものが前より少しクリアになった気がします。

４．まとめ

今回この国際インターンシップに応募した、一つの大きな動機は海外での仕事、生活を一人で大学生のうちに経験しておきたかったためです。NPO 法人アプカス様に行かせて頂くことが決定した当初は、不安と好奇心が半々で入り混じっていました。しかし、一か月を終えてみれば、あっという間で、本当に毎日が新しいことばかりで充実していました。自分の学科とは、あまり関係が少ない分野でのインターンシップでしたが、得られたことは数えきれないです。次年度は三年生になり、専門的な学習が多くを占め、他の分野の体験をする機会は恐らくないです。この一か月のインターンシップで得られた多くの経験は、これからの私を違う視点からの新たなアイデアのきっかけとして助けてくれるに違いないのだろうなと感じます。

英語に関しては、そこまで不安に感じてはいませんでしたが、やはりまだまだ未熟である現実を突きつけられました。また、英語を相手に求めるのではなく、自分も現地の言葉を学習しなければならないと感じました。英語の学習はもちろん、他言語の学習も頑張っていきたいです。

５．謝　辞

この度は私を温かく受け入れてくださった、NPO 法人アプカス：スリランカ事務所代表の石川様をはじめ、実習が始まるまで親身にやり取りをしてくださった日本事務所事務局長の伊藤様、Kenko 1st のみなさま、Thusare のみなさま、大変お世話になりました。実習中のみならず、実習開始前からの手厚いサポート、深く感謝いたします。おかげさまで、この一か月間のインターンシップは本当に充実しており、日本では経験できない貴重な経験をたくさんすることができました。この経験を自分の将来の成長に大いに役立て、立派な社会人になれるよう努めていきたいと思います。最後になりますが、改めて深くお礼申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。

学部／学科：国際学部　国際学科　　学年：1 年　　氏名：石澤　華那
実　習　先：フエ外国語大学
実 習 期 間：平成 30 年 3 月 1 日～ 3 月 28 日

1．実習先の概要

機関名：Hue University of Foreign Languages
住　所：57 Nguyen Khoa Chiem, Huecity, Vietnam
学　部：英語学部、専門英語学部、日本言語文化学部、フランス語学部、中国語学部、ロシア語学部、ベトナム語学部、国際学部、勧告言語文化学部

2．実習内容

2．1 実習スケジュール

1 週 目 … 打ち合わせ＆授業見学、2 週 目 … 授業見学、
3 週 目 … 授業見学＆授業準備、　4,5 週目 … 授業準備＆授業

2．2 実習内容詳細

⑴ 授業見学

1、3、4 年生の授業の見学を行った。2 年生は軍事訓練のため、学校が無く、授業を見学することが出来なかった。しかし、先生方が陣中見舞いに連れて行ってくださったので、2 年生とも話すことが出来た。

1 年生の授業は「みんなの日本語」の教科書を使いながら、日本語能力試験のスキル（聴解、読解、作文、会話、漢字）に沿って授業が開講されている。比較的グループワークが多めで、先生が話すよりも学生が練習する時間の方が長く設定されていた。3、4 年生は先生が用意した資料を用いながら、就職の場面で使う日本語を学んでいた。3 年生は履歴書の書き方を学んだり、4 年生は電話の応対の仕方を学んだりしていた。

1 年生は、中高から日本語を習っていた学生のクラスとそうでない学生のクラスに分けられ、既に日本語の学習経験がある学生のクラスは少し内容が進んだ授業を行っていた。大学から日本語を習い始めた学生は、助詞の使い方と動詞の活用のさせ方が苦手そうだと感じた。既に学習経験がある学生は、とても積極的で会話のスキルは高いが、漢字や書き順が間違っていることが多かった。

⑵ 添　削

3 年生の、履歴書を書くための練習の作文の添削を毎週行った。オンライン辞書で調べた表現をそのまま書いたり、動詞の活用がきちんと出来ていなかったり助詞が間違っている学生が多かった。1 週間で約 15 名の学生の添削を行った。

また、1 年生の中間テストの採点も行った。

⑶ 授　業

出張の先生の代わりに、1 年生の「総合日本語Ⅱ.5」の授業（漢字の授業）と 3 年生の「実習翻訳」と「日本語文法論」の授業を行った。1 年生の授業は、「みんなの日本語」を教科書

として、第 35 課の条件形の授業を行った。

3 年生の「実習翻訳」の授業は、ベトナム語から日本語への翻訳を行った。最初の 30 分で学生にグループに分かれ翻訳してもらい、残りの時間で発表してもらい、その場で添削を行った。漢語が多く使われているテーマだったため、学生は難しそうだった。しかし、この授業では日頃から様々なテーマを取り扱っているため、学生の語彙力や表現力が広がると感じた。

「日本語文法論」の授業は、指示語（こ･そ･あ）を、練習問題を解きながら用法の解説を行った。基本的な用法の理解は容易そうだったが、レベルが上がっていき、複雑になっていくと理解が難しそうだったので、複雑なものは母語（ベトナム語）での解説が望ましいと感じた。

⑷ 日本文化紹介

実習前に宇都宮大学主催の浴衣着付け講座を受講したため、ぜひ紹介したいと考え、放課後に浴衣教室を開催した。15 名ほどの学生を先着で募集し、フエ外国語大学にある浴衣を使用させていただいた。楽しく終えることが出来、学生も満足していたように感じた。

3．実習先の感想・学んだこと

このインターンシップで授業を作り上げることの大変さを学んだ。どのようにしたら学生に分かりやすく伝わるかということを、準備の段階から、授業が終わるまで常に考え続けなければならず、自分の発した言葉を学生は素直に受け取ってくれるので、言葉ひとつひとつがとても重要なものになると感じた。また、ベトナムでは現在日本語が人気であり、教員不足という問題も生じていた。ハノイやホーチミンなどの大都市だと先生も多く、学生の質も高いと先生がおっしゃっていたのを聞いて、日本語を十分に学べる環境が広がっていくことを強く願った。

4．まとめ

今回の実習で準備の大切さと準備しきれない予期せぬ事態への対応力の重要性を痛感した。これらのことは教師という職業に限らず、どんな場面でも必要不可欠であるため、より一層努力し続けたい。

今回のインターンシップで得た知識や経験を今後の学生生活に活かしていきたいと思う。

5．謝　辞

今回のインターンシップは、松井さん、林田さんをはじめとする留学生・国際交流課の方々の惜しみない協力と応援によって無事終了することが出来ました。心よりお礼申し上げます。

フエ外国語大学の教師の方々や学生方にも大変お世話になりました。私たちを快く受け入れてくださり、海外での仕事と生活の両方の面でとても安心してインターンシップを過ごすことが出来ました。改めて、皆様にお礼申し上げます。最後になりましたが、皆様のより一層のご活躍をお祈りしております。

学部／学科：国際学部　国際文化学科　　学年：2 年　　氏名：伊藤　寛恵
実　習　先：フエ外国語大学
実 習 期 間：平成 30 年 3 月 1 日～ 3 月 28 日

1．実習の目的

私は 2 年生から日本語教育プログラムを履修している。もともと日本語教育には興味があり、将来の仕事にすることも考えていた。このプログラムでは様々な教授法を学んだり、文字カードや単語カードを作り、それを使用してひらがなやカタカナを教える練習などをしたりした。しかし、私はあまり授業に面白みを感じることができていなかった。このまま日本語教育プログラムを続けていくべきかどうかにも悩んでいた。そこで、実際に自分が経験してみて、自分がどう感じるのかを知りたかったため、今回のインターンシップに参加することを決めた。

2．インターンシップの実習内容

・若者言葉の紹介

日本語教育プログラムの授業の中で、留学生に日本の若者言葉を教えるという機会があった。留学生は、日本人が普段よく使う言葉を知りたがっていて、若者言葉を教えた際も非常に興味を持ってくれた。そこで、私はベトナムでも日本の若者言葉について紹介したいと考えた。数ある若者言葉の中から七つの言葉を学生の皆さんに紹介した。非常に興味を持って話を聞いてくれた。クイズ形式にしたのは良かった点であると思う。もっと知りたいと言ってくれたので、もう少し言葉を用意しておくべきだった。ベトナムの若者言葉は、書き言葉はあるが、話し言葉はないそうだ。この違いからも関心を持ってくれたのかもしれない。

・浴衣の着付け教室

浴衣の着付け教室を開いた。放課後、1 年生、3 年生、4 年生の約 15 人の学生が集まってくれた。最初に私たちが前に立って、説明しながら着るのを見てもらい、その後、学生の皆さんにも、私たちが説明しながら着てもらった。最終的に全員きれいに着ることができたが、着付け教室は準備不足だったように思う。私たちの段取りが悪く、最初の説明で 30 分近く時間をとってしまい、学生の皆さんは見ているだけでつまらなかったであろう。また、学年の考慮もできていなかった。まだ 1 年生の学生は日本語を学習してから半年しか経っていないので、口頭の説明では理解に苦しんだ様子だった。説明の紙を用意するか、パワーポイントなどを使うべきだったと反省する。本来なら一度着た後にもう一度着て、覚えてもらおうと思っていたが、時間がなく、一度しか着させることができなかった。JICA ボランティアの先生と浴衣の着付けが既に自分でできるベトナム人学生の協力のもと、なんとか無事に、集まってくれた学生の皆さんに浴衣を着せることができた。学生の皆さんは浴衣を着ることができて、とても嬉しそうだったが、満足できるものではなかったと思う。私たちの準備不足が悔やまれる。

・授業をする

ベトナム人の先生が出張で授業をはずすため、私がその代わりに授業をすることになった。1 年生の会話の授業を計 3 コマ、3 年生の実習翻訳という授業を計 2 コマやらせていただいた。

1 年生の会話の授業では、教案を初めて書いた。授業で使うパワーポイントも全て自分で用意

しなくてはならなかった。教案はもちろんのこと、日本語教育で使うパワーポイントなど今まで作ったことがなく、徹夜することとなった。日本語教育の教案は、教師が言う言葉、生徒に言わせる言葉全てを書かなければならなかった。どのように生徒に問えば言わせたい言葉が返ってくるのか、どのような練習をすれば身につくのかを考えることが非常に難しかった。また、授業は100分あったため、その時間をどのように使うかという時間配分にも苦労した。

２つ教案を書いたが、どちらも書きっぱなしになってしまい、改善する時間や練習する時間がとれなかった。JICAボランティアの先生にできる限り教案をチェックしていただいた。そこから得る学びは多く、もっと早く教案を書いてチェックしてもらっていれば、よりよい授業ができたと思う。教案を作ることに気をとられ、チェックしてもらう時間を考慮することができていなかった。授業が終わったあと、JICAボランティアの先生と反省会をした。初級の授業では絶対に正解させるように仕向けることが重要だとおっしゃっていた。既習の言葉なのか、未既習の言葉なのかのチェックは必ず必要で、もし未既習の言葉を授業中に使ってしまうと、生徒を混乱させることになる。生徒はその言葉に気をとられてしまうのだ。先生は初めてにしてこれだけできたのは素晴らしいとおっしゃってくれたが、悔しさと自分の無力さを感じた。そして、日本語教育という仕事の重さを知った。

３．実習後の変化とこれからの課題

今回日本語教育の現場に携われたこと、そして、海外で働くということを経験し、自分の将来のキャリアについて深く考えることができた。

言語を習得することも難しいのに、母語でない日本語を教えるベトナム人の先生方の姿は非常にかっこよかった。そのような先生方の姿を見て、自分が母語でない言語を身につけ、それを日本人に教えるというのも面白そうだと感じた。そのような道もあるのだと気づくことができた。また、日本語学科で一生懸命日本語を学ぶ学生の皆さんを見て焦りを感じた。そして今までの自分の学習態度を恥ずかしく思った。私と一緒に日本語で話をしてくれる学生さん、きっと自分は母語でない言語でこんなにも聞き取ったり、話をしたりすることはできないだろうと思った。言語を学ぶ姿勢を学生の皆さんから教わったと思う。

また、自分から発信することの大切さも学ぶことができた。現地の先生方は私たちが何かやりたいと言えば、何でもやらせてくれた。与えられるのを待っているだけでは、仕事はやってこないのだと感じた。

これからの課題として、まず、大学の授業を大切にすることが挙げられる。学生の皆さんから教わったことでもあるが、自分が先生という立場になってみて感じたことでもある。自分の学習態度を見直し、これからの大学生活を送っていきたい。私は留学も考えているので、特に言語の学習を授業だけではなく、自分自身でも日々行わなければならない。出会った学生の皆さんに私も負けていられない。また、自分から発信することも頑張っていきたい。わからないから発言しないのではなく、わからなくても、発言しようとする努力が必要だ。

４．謝　辞

フエ外国語大学の皆さん、約１か月間大変お世話になりました。非常に貴重な経験をさせていただきました。今回先生側の立場になってみて、「先生」という仕事の偉大さを改めて知ることができました。日本語教育の現場に自分も参加し、自分が日本語教育とこれからどのように向き合っていくのかを考えることができました。約１か月という短い期間ではありましたが、海外で働くという経験ができ、自分の将来のキャリア形成をするうえで、前進したのではないかと思っております。皆様の広い心と優しさに包まれて生活したフエでの１か月間は非常に充実したものとなりました。

この度は本当にありがとうございました。

学部／学科：国際学部　国際学科　　学年：1 年　　氏名：島根　由衣
実　習　先：たんぽぽ保育園
実 習 期 間：平成 30 年 3 月 20 日～ 4 月 2 日

1．実習先の概要

所 在 地：ベトナム、ダナン　10,3 Thang 2st., Hai Chau Dist.,Da Nang Vietnam
業務内容：日本の保育に習い、日本で保育の実習経験のある女性園長を中心に 1 歳児～ 5 歳児の保育をしている。

2．実習内容

2．1 実習スケジュール

3 月 20 日　集会で自己紹介、イチゴクラス（1 歳児）で活動
21 日　イチゴクラスで活動
22 日　イチゴクラスで活動
23 日　リンゴクラス 2（3 歳児）で活動
24 日　リンゴクラス 2 で活動
25 日　休　み
26 日　リンゴクラス 2 で活動
27 日　リンゴクラス 2 で活動
28 日　リンゴクラス 2 で活動
29 日　スイカクラス 3（5 歳児）で活動
30 日　スイカクラス 3 で活動
31 日　先生方の全体ミーティングに参加
4 月 1 日　休み
2 日　スイカクラス 3 で活動、集会で出し物

2．2 実習内容詳細

⑴　イチゴクラス（1 歳児）での主な活動内容
・おもちゃを使って遊ぶ
・絵本を読む
・日本から持って行ったおもちゃを紹介する
・外遊びをする
・歌を歌う
・給食を食べる手伝い
・お昼寝で寝られない子を寝かしつける

写真 1　イチゴクラスの子どもたちと先生方

⑵　リンゴクラス 2（3 歳児）での主な活動内容
・おもちゃで遊ぶ
・外遊びをする
・手遊び歌を教える
・着替えを手伝う
・給食を一緒に食べる
・お昼寝で寝られない子を寝かしつける

写真 2　リンゴクラス 2 の子どもたち

⑶　スイカクラス 3（5 歳児）での主な活動内容
・おもちゃで遊ぶ
・外遊びをする
・手遊び歌を教える

写真 3　スイカクラス 3 の子どもたち

・日本の椅子取りゲームやじゃんけん列車などのゲームを教える
・紙芝居を読む
・一緒に給食を食べる

3．実習の感想・学んだこと

写真４　集会の様子

私が今回、国際インターンシップに参加したのは、たまたま目にした国際インターンシップの派遣先にたんぽぽ保育園を見つけ、「ベトナムに行きたい」という思いと、昔から子どもが好きだったため「保育園のインターンシップに行ってみたい」という２つの強い思いからだった。海外にインターンシップに行くということに対して多少の迷いはあったが、２週間ベトナムに行き、保育園での実習を終えた今の率直な感想は、「思い切って国際インターンシップに参加し、たんぽぽ保育園に行って多くのことを学ぶことができ、本当に良かった。」ということだ。インターンシップに参加することはもちろん、ベトナムに訪れることも保育園で実習をすることも初めてだった。しかし、不安になるどころか子どもたちはとても可愛く、先生方は優しくサポートしてくださり、約２週間の実習があっという間に過ぎていった。

また、今回のインターンシップでは保育園での先生方の仕事を通して、たくさんのことを学んだ。先生方との会話は基本的にベトナム語であるためしっかりと会話をすることは難しかったが、先生方はジェスチャーを使って説明してくれたため、ある程度理解することは出来た。しかし、子どもたちはジェスチャーを使って話すことはしないし、私が日本語で話しても伝わらないし、子どもたちとの会話はとても大変だった。しかし、言葉が伝わらないならどのような方法を使えばコミュニケーションが取れるか、どうしたら私の言いたいことを伝えられるかなど言葉を使わないコミュニケーションの経験をしたことによってコミュニケーションの方法について考えることが出来た。さらに、私が今回訪れたダナンの町の人々の繋がりや、教育事情、家庭環境などを知ることが出来たため、日本の現状と比較し、両国の良い点、改善点などを学ぶことが出来た。

4．まとめ

今回の実習によって、保育士としての仕事から、働くことの意義の他に、コミュニケーション方法、ベトナムの現代問題など自分が想像していた以上に多くのことが学べた。1 年生からインターンシップに参加することは少し早い気もしたけれど、インターンシップを終えた今では、1 年生のうちから参加したことによって「働く」ということはどういうことか、どんなに大変か、どうしたら仕事に自分の能力を生かせるか、などの仕事に対する考え方を大学生活の早いうちに知ることが出来たため、今後の大学生活を有意義なものにすることが出来ると感じ、1 年生のうちからインターンシップに参加してよかったと思った。今回の経験で国際学部の学びに生かせることも多く学んだため、学びを無駄にしないようにこれからの大学生活に役立てていきたいと思う。

5．謝　辞

今回お忙しい中、たんぽぽ保育園への実習を受け入れてくださり、本当にありがとうございました。約２週間の実習が有意義なものになったのは、園長先生をはじめ、全ての先生方が温かい言葉をかけてくださり、優しくフォローしてくださったおかげです。短い期間でしたが、楽しく充実した実習になりました。大変お世話になりました。また、実習に向けたくさんのサポートをしてくださいました、国際インターンシップ事務室の皆様にも厚く御礼申し上げます。

学部／学科：教育学部　家政教育専攻　　学年：４年　　氏名：松田　悠希
実　習　先：たんぽぽ保育園（Truong Mam Non Bo Cong Anh）
実 習 期 間：平成 30 年 3 月 20 日～ 4 月 2 日

１．実習先の概要

保育所所在地：ベトナム、ダナン市

業務内容：日本で行われている保育に習い、日本での保育の実績のある女性園長を中心に０歳～５歳児への保育をしている。

２．実習内容

２．１　実習スケジュール

表１．１　実習スケジュール

3 月 20 日	火	保育園全体集会、自己紹介、モモ 1（2 歳児）で実習
21 日	水	モモ 1 で実習
22 日	木	モモ 1 で 15 分から 20 分まで活動を行う
23 日	金	リンゴ 1（3 歳児）で実習
24 日	土	リンゴ 1 で実習
25 日	日	休み
26 日	月	リンゴ 1 で実習
27 日	火	リンゴ 1 で 20 分から 25 分の活動を行う
28 日	水	スイカ 1（5 歳児）で実習
29 日	木	スイカ 1 で実習
30 日	金	スイカ 1 で 25 分から 30 分まで活動を行う
31 日	土	子どもの登園無し、先生方の会議に出席・保育園の清掃
3 月　1　日	日	お休み
2 日	月	スイカ 1 で実習、保育園全体集会
3 日	火	荷物の整理、帰国

２．２　実習内容詳細

⑴　一日の大まかなタイムスケジュール（年によって差あり）

表２．２　一日のタイムスケジュール

時　　間	子どもたちの活動内容	実習生の主な活動
7：00 ごろ～ 7：45 ～ 8：00	子どもの登園開始、朝食 トイレ	・通勤、各クラスへ移動して実習開始 ・子どもの朝食・トイレ介助、見守り
8：15 ～ 8：30 ～	朝の会、外に出る準備 0 ～ 4 歳児クラス：外で体操、遊び 5 歳児クラス：近くの河川敷で運動会の練習（11 時ごろまで）	・子どもたちと歌い朝の挨拶をする ・外に出る準備の声掛け（靴を履くこと、帽子をかぶること、へそをしまうこと） ・体操や運動会の練習の補助（先生と同じように踊る） ・子どもたちと遊ぶ、見守り
9：30 ～	各教室へ戻り、水分補給、トイレ 着替え	・人数分のコップと飲み物を用意 ・水分補給、トイレ、着替えの介助

10：00 ～ 11：00 ～	運動会の練習 個人の室内遊び （お絵描き、ブロック、絵本　等） 全体の室内遊び （紙芝居、椅子取りゲーム　等） 部屋の片づけ、トイレ 先生の紙芝居等の読み聞かせ 給食の準備、配膳 給食を食べる 食べ終わった子どもから室内遊び （ブロック等）	・運動会の練習では、ルールを守って活動できるように声掛けをする。 ・子どもたちと積極的にコミュニケーションをとる ・給食の準備 ・配膳 ・給食介助、一緒に食べる ・なかなか食べられない子どもに寄り添い、最後まで介助
12：30 ～	午睡の準備 午睡	・人数分のベッドを並べて、蚊帳を張る又は、準備が終わるまで手遊び等 ・子どもたちが寝付くまで寄り添う ・午睡の間、運動会の制作等 ・1 時間程休憩
14：30 ～	起床、トイレ	・蚊帳を片付け、子どもたちを起こす ・ベッドの片付け ・おやつの準備
15：00 ～	おやつ 食べ終わった子どもから帰りの用意、水分補給	・おやつ介助
15：45 ～	帰りの会	・歌や手遊びをする ・先生の保育を見学
16：00 ～ 16：30 ～ 16：45 ～	順次帰宅 お迎えが来るまで室内遊び	・帰る子どもには一人ずつ挨拶をする ・子どもたちの見守り、遊び ・帰宅準備 ・帰宅

⑵　2 歳児（モモ 1 クラス）での実習

2 歳児のクラスでは、子どもたちへの直接的な介助が必要となりました。身体の発達は日本の子どもたちとあまり変わらないので、日本での実習経験がとても役に立ちました。2 歳児といっても月齢で成長に個人差があるので、それぞれの子どもの力量を見ながら､必要最低限の介助をします。例えば、どうしても給食がうまく食べられない子どもには、食べやすいように小さく切り分けたり、着替えが難しいときは手伝いました。しかし、何事も子どもたちが挑戦できる環境を作ることで子どもたちの成長につながるので、もどかしいですが「見守る」ことが重要だと再認識しました。

写真２－１　２歳児の様子

言語の面では、子どもたちは簡単なベトナム語 1・2 単語で､一生懸命何かを訴えてきます。発音もまだあいまいなので聞き取るのは至難の業ですが、先生の助けもあり、いくつか理解することが出来ました。また、ベトナム語でもなかなか指示が通らないときもあるので、実習生は、先生が何の指示を出しているのかをくみ取り、聴いていなかった子や集団から離れてしまう子に声掛けをすることが重要でした。

⑶　3 歳児（リンゴ 1 クラス）での実習

3 歳児クラスになると、子どもたちへの直接的な支援が少なくなります。声掛けや見守り、環境整備が主な仕事になります。また、午睡のベッドや給食もだんだんと子どもたちが用意できるようになるので、実習生の仕事が減ったように感じ、最初は戸惑いましたがすぐにやるべ

きことを探して動くことが出来ました。2歳児クラスから3歳児のクラスに移ったので、子どもの1年間の成長速度に感動しました。

⑷　5歳児（スイカ1クラス）での実習

5歳児のクラスでは、3歳児クラスよりさらに子どもたちだけでできることが増えるので、ますます直接的な支援が減ります。午睡の準備も蚊帳以外は子どもたちが用意しますし、給食の配膳は当番を決めて行います。実習生はそれを見守りながら、声掛けや手伝いをしました。また、運動会の練習では、保育園外の近くの河川敷に行きました。子どもたちの行動範囲の広がりを感じました。しかし、保育園外に出ると様々なものに興味を惹かれて危険な場面も出てきます。実習生として子どもたちの安全のため、必要な声掛けや誘導をすることが出来ました。

写真２－２　５歳児お絵描きの様子

３．実習の感想・学んだこと

本実習を通して、日本で学んだ保育がベトナムでも十分に通用することが分かり、少し自信を持つことが出来ました。たんぽぽ保育園ではもともと日本語の手遊びや紙芝居、絵本を取り入れていたので、私が日本でよくやる手遊びも子どもたちはすぐに覚えて「悠希先生、あの手遊びやって！」といってもらうことが出来、とても嬉しかったです。

写真３－１　３歳児数の学習

写真３－２　３歳児室内遊びの様子

しかし、喜びとは裏腹に、ベトナムの子どもたちは日常生活の中で大きな問題を抱えていることが見えてきました。日本でもあまり変わらないのかもしれませんが、「食」の問題と「身体機能」の問題です。「食」の問題は、食を楽しめない子どもが多いことです。文化・習慣的に子どもたちは「食べるって楽しい！」と感じる機会が少ないことを知りました。給食の時間は食が進まない子どもが何人かいるので、「食べるって楽しいよ」と保育士が伝える必要があると感じました。

次に「身体機能」の問題です。ベトナムの子どもはあまり運動する機会がないらしく、歩き方がおぼつかない子どもが多いように感じました。先生に相談して、実習後半は日常生活の中で楽しく歩くことを意識した関わりをしました。

４．まとめ

ベトナムのたんぽぽ保育園では、どのクラスの子どもたちも、すぐに私の存在に慣れて、国や言語の垣根を越えてコミュニケーションをとることが出来、とても勉強になりました。また、ベトナムの子どもたちが抱える問題は、保育の力で少しは改善できると思うので、日本でもっと保育の勉強をしてまたいつかたんぽぽ保育園に行きたいと思います。

５．謝　辞

この度は、お忙しい中私たちをインターン実習生として受け入れてくださったたんぽぽ保育園のハン園長先生をはじめ、毎日私たちにつきっきりで案内してくださった有本様、ホテルの整備や毎日の食事、観光案内等をしてくださったホテルオーナーのファンさん、その他大勢の方々に感謝申し上げます。大変お世話になりました。

平成 30 年度　夏期報告書

学部／学科：国際学部　国際文化学科　　学年：３年　　氏名：杉沼　佳奈重
実　習　先：フエ外国語大学
実 習 期 間：平成 30 年 8 月 27 日～ 9 月 21 日

１．実習先の概要

フエ外国語大学は、ベトナム中部に位置する都市フエにある大学である。国立フエ大学に付属している。専門課程には、英語学部、専門英語学部、日本言語文化学部、フンス語学部、中国語学部、ロシア語学部、ベトナム語学部、国際学部、勧告言語文化学部の９つの学部が存在している。フエ外国語大学は「ベトナムおよび外国の言語と文化､観光について養成、科学研究するセンターであり、ベトナム中部と高原と全国とアジア各国に翻訳、通訳のサービスを提供する大学」という使命の下、運営されている。2006 年に設立された日本語日本文化学部は、日々の授業はもちろんのこと、そのほかにも特色のある活動を積極的に行っている。その中でも特に有名な活動には、ミニフエと呼ばれる日本式の文化祭がある。学生たちは日本を模した店舗の企画運営を行うことで、日本語、日本文化、日本式ビジネスマナー及びビジネススキルを学んでいる。

２．実習内容

２．１ 実習スケジュール

会話や、日本文化について扱う授業など、日本語で行われる授業の中から自分たちで選択して参加するという形だったため、毎日決まったスケジュールはなかった。

７：00 ～ ８：40（100 分）：１－２コマ
９：00 ～ 10：40　　：３－４コマ
11：00 ～ 11：50　　：５コマ
12：00 ～ 13：00　　：お昼
13：00 ～ 14：40　　：６－７コマ
15：00 ～ 16：40　　：８－９コマ

２．２ 実習内容詳細

⑴　授業に参加し、学生たちと交流する

今回の実習の中で大部分を占めたのが、学生たちとの交流の時間であった。自分たちで参加したい授業を選択することができたため、２年生から４年生まで、まんべんなく交流することができた。特に多く参加していた授業は、会話や聴解と会話、異文化理解、日本の地理と歴史、発表、読解の授業である。参加したほとんどの授業の中では、見学が主で、グループワークの際には学生たちの中に入って会話することができた。ベトナム人の学生たちはみな熱心に授業に挑んでいて、積極性も高かった。日本人である私たちにも、みんな笑顔で話しかけてくれたので、とても嬉しかった。

特に会話のクラスでは、本物の日本語を話す日本人として、発音やスピードに注意しながら会話することを心掛けた。日本語を勉強し始めたばかりの学生たちにとって、生の日本人の発音はとても速く感じる。そのため、本当にゆっくり一音一音はっきりと発音しなければ通じないというところが、慣れるまで大変だった。しかし、生の日本人の会話のスピードに慣れなければ、日本語検定でテストされる聴解の得点を上げることは難しい。聴解については､特に苦手意識を持っている学生が多かった。フエ外大に派遣されていたジャイカのあきこ先生は、私たち日本人がいることを利用して、実際の日本人同士の日常会話を学生たちに聞かせていた。ベトナム人の先生方のゆっくりした発音に慣れている学生たちはとても驚いた様子だった。本当の日本人同士の会話を聞かせることで、学生たちの学習意欲を高めていたあきこ先生の方法はすごいと思った。

また、授業に参加していると、しばしば日本語の単語の意味を聞かれた。モノや、動作を意

味する単語の説明であれば、ジェスチャーやほかの簡単な言葉に言い換えることで説明することができた。しかし、抽象的な言葉に関しては説明が難しかった。私がベトナム語を話すことができれば、ベトナム語で説明することができたのだが、それができなかったためうまく伝えられるようになるまで時間がかかった。いろいろな伝え方を試した結果、英語で説明することが一番よく伝わることが分かった。ベトナムの街中では英語があまり通じなかったのだが、学生たちは英語を勉強しているので、日本語より英語の方が上手な学生も多く見られた。

⑵ 作文の添削

三週目以降は作文の添削も任されるようになった。学生たちが描いた作文を赤ペンで訂正していくというものだ。

難しかったところは、学生たちが伝えたい気持ちをくみ取って、日本語を直さなければならないところだ。私たちが、間違っていると思われる日本語を直すだけでは、その学生が伝えたいニュアンスにはならないため、前後の文章を見ながら直していくことが難しかった。

また、学生たちが聞こえている音を日本語として文章化しているため、聞こえていない音があると文字に表すことができなくなる。学年や、学習進度によって文章がだんだん正確になっていくところを明確に見ることができたのは面白かった。

⑶ 会話の授業

最終週に一度だけ、私たちだけで、前に出て 100 分間授業を行う機会を頂いた。その授業は、使役の文法を使って会話を行うという内容であった。行った授業の流れは以下のとおりである。

①文型について軽く説明
　黒板に、「～させる。」と書く
②「みんなの日本語」の例文を利用
・ペアで読んでもらい、わからない単語、例文がないか確認
・自分たちが先に読んで、後に続いてもらう（本を見て）
・シャドウィング（本を見て）
・シャドウィング（本を見ないで）
③「みんなの日本語」練習 C を利用
・ペアで問題を解いてもらう（3 問とも違うペアを作る）
・自分で文を作ってみんなの前で発表してもらう
　Q　自分に子供ができたら何をさせますか？
　→なぜそれをさせるのかも考えてもらう
④「みんなの日本語」会話を利用
・自分たちが先に読んで、後に続いてもらう
・わからない単語があれば聞いてもらう
・ベトナム語で長文を訳してもらう（先生にあっているか確認してもらう）
・ペアで練習
・暗記してもらい、みんなの前で発表
⑤「みんなの日本語」会話を利用
・日本人同士の会話のスピードで、会話を読む

反省点としては、2 点ある。1 点目は、授業の準備の段階でだいたいの時間割り振りを決めたとしても、実際の学生たちの理解度に合わせて授業する必要があることだ。わからなそうな表情をしている学生がいれば、立ち止まってもう一度丁寧に説明する、ペアワークでまだ終わってなければ時間を伸ばすなど、臨機応変に対応することが大切だと感じた。また、話すスピードを速くしないことである。思ったような反応が学生たちから得られないと、焦ってしまうことがあった。理解し

てくれていないときほど、ゆっくり話すことを心掛けた。2点目は、授業準備の段階で、学生たちがまだ学習していない言葉は使わないようにする、抽象的な指示を控えるということである。例えば「Q　自分に子供ができたら何をさせますか。」のところで、日本人には意味が通じても、学習者には理解が少し難しい点があった。「将来」というニュアンスが感じ取れないからだ。しかし、「将来」という言葉で説明しても、学生たちが理解してくれなかった。結果的に、先生にベトナム語で説明していただいたが、難しい言葉や抽象的な表現は控えることに留意する必要があると感じた。

3．実習の感想・学んだこと

実習で学んだことは、日本語教育の現場を生で見ることができたことと、その現場から様々な点に気づくことができたということである。3年前期の授業で、「日本語教育1」の講義を履修した。その中で、日本語教育への興味は持てても、実際に「日本語を教える」という場面のイメージがつかめないところがあった。現場を見てみて、私たちが英語を勉強したような手順で、言語の学習は進んでいくことに気が付いた。自分の母語であると、その言語を使うことが当たり前になっているので、学習者のつまずくポイントが見えにくくなる。その時自分が多言語を学ぶ途中で、悩んだことや、効果的な学習方法などを改めて考えることが、学習者の目線に立った指導をすることができる第一歩なのかもしれないと思った。

また、外国の大学に行くことで、自分と同じ年代のベトナムの学生と触れ合い、仕事だけではないところでも学ぶことができた。まず、ベトナム人の学生たちは、本当に素直で、真面目であり、熱心に授業に励んでいた。日本の大学の授業風景では当たり前である、寝る、スマホをいじるなどの行為をしている学生が少なく、先生からの指示にしっかりと従っていた。また、発表の授業でのパワーポイントの完成度の高さには驚いた。色合いを工夫したり、動画を取り入れたりするなど、2つと同じパワーポイントがなく、時間をかけて作成し、見ていて楽しめる工夫をしていた。以上の点から、同じ学生という点でも、今の自分に足りない点に気づくことができたのは、大きな学びだったと考える。

4．まとめ

今回、ベトナムでのインターンシップが私にとって初めての海外体験であった。そのため、ベトナムでの些細な日常の風景でも新鮮に感じることができた。ベトナム人から「Japanese?」と聞かれるたびに、日本から一歩も出たことがなかった私は、初めて「外国人」として見られるという経験をした。ベトナムで生活するなかで、自分の日本人としてのアイデンティティを強く認識したし、ベトナム人と比べた「日本人」または「日本」を客観的に考えることができるようになったと感じる。この一か月間は、これから就職活動を始めるにあたって、人種問わずいろいろな人と自分を比較し、自己分析をすることができたという点で収穫が大きかった。

一か月間、海外で生活することを通して、自分は自分で思っている以上に日本人としての性格が強いということを感じた。他人の意見を聞かないと意思決定ができない、常に受け身で周りと合わせようとする、自分の意見をうまく言えないなど、生活していく中で新たな自分に気づくことが多かった。これは、私のあまり良くないところだと感じたし、改善していくことが、将来仕事に就くにあたって大事なスキルだと考える。また、ベトナム人の友達から冗談交じりに「ありがとうと、ごめんねが多くてうるさい」といわれたこともあった。よく聞く日本人の特徴が自分に当てはまるとは思っていなかったので、面白かった。これらの気づきや、自分の良くない点を改善しながら、就職までの残りの学生生活を送っていきたい。

5．謝　辞

最後に、私たちを受け入れて、指導してくださったフエ外国語大学の先生方に感謝の気持ちを述べたい。日本語教育に対して、多くの知識を持っているわけではなかった私たちを、温かく迎えて下さいました。また、笑顔で話しかけてくださったり、学校だけでなく、生活面でも気を配っていただけたりしたおかげで、安心して一か月間の実習に励むことができました。本当にありがとうございました。

学部／学科：国際学部　国際学科　　学年：2 年　　氏名：小林　美幸
実　習　先：フエ外国語大学
実 習 期 間：平成 30 年 8 月 27 日～ 9 月 21 日

1．実習先の概要

ベトナムのフエ外国語大学

2．実習内容

フエ外国語大学日本語学科のアシスタント

2．1 実習スケジュール

毎週、時間割をもとに自分たちで授業を選択し、日本語会話や異文化の授業を中心に実習に入った。1 コマあたり 100 分。

2．2 実習内容詳細

⑴　授業見学
⑵　授業時のアシスタント
（音読、グループワークの見回り、プレゼン発表へのコメントや文法間違えのチェック、文章の書き方について簡単に説明、ペアで行う日本語会話の練習相手）
⑶　作文添削
⑷　日本語会話という授業（1 コマ、100 分のみ）で、実際に授業をやらせて頂いた。

3．実習の感想・学んだこと

約 1 か月の実習を通し、日本語を教えるというスキルだけでなく、現地の人々の触れ合いを通して日本では気づくことの出来なかった事に多く気づかされ、大変貴重な経験だったと感じる。

実習に行く前は、言語を教えるといっても日本語は自分の母語であるため、そこまで大変ではないと思っていた。しかし、いざ授業のアシスタントとして授業に入ってみると戸惑うことが多かったように感じる。例えば、生徒と話す際に普通の日本語のスピードで話してしまうと、彼らにとっては早すぎて通じないため、ゆっくり、はっきり、相手のレベルに合わせて簡単な単語を選んで話す必要があり、私自身も慣れるまでに少し時間がかかった。また、プレゼン発表での文法間違いチェックや作文添削をした際、文法間違えを訂正してあげたくても、彼らが何を言おうとしているのか分からず、ニュアンスが変われば自ずと日本語も変わってきてしまうため、どう訂正すべきか迷ってしまう時も多々あった。ベトナム語がある程度出来れば学生に聞いて確認することも出来たが、ほとんどベトナム語が話せないため、日本語の文法を日本語で教えるということが如何に難しいかを実感した。

しかし大変なことばかりだけでなく、親切で気さくな先生や生徒との触れ合いを通して一生忘れないであろう素敵な思い出も作ることが出来た。また、熱心に勉強に励むベトナムの学生の姿や生のベトナム文化に触れることで、日本人として生きてきた今までの自分や日本の文化を振り返る貴重な機会になった。

４．まとめ

今回のフエ外国語大学での実習を通して、日本語を教えるスキルに限らず、現場に応じて臨機応変に対応する力や、人との協調性、異文化理解の姿勢を学ぶことが出来た。私は将来、経営者として、東南アジアを拠点にビジネスを行いたいと考えているため、実習で獲得した力や学びを次のステップへの土台として生かしていくつもりである。

５．謝　辞

フエ外国語大学日本語学科の諸先生方、一か月の間インターンシップをさせて頂き誠にありがとうございました。フエ外大の親切な先生方に囲まれ､ご指導して頂いたおかげで､実りあるインターンシップとなりました。本当にありがとうございました。今回の実習で学んだことを、今後の大学生活に留まらず、今後の将来に生かしていきたいと思います。

学部／学科：国際学部　国際文化学科　　学年：3 年　　氏名：韮澤　怜子
実　習　先：たんぽぽ保育園
実 習 期 間：平成 30 年 8 月 28 日～ 9 月 20 日

1．実習先の概要

所 在 地：ベトナム・ダナン
事業内容：1 歳～ 5 歳の子どもを保育する保育園。日本型の教育方法を取り入れている。

2．実習内容

実際に教室に入り、実習を行う。1 週間ごとに実習するクラスを変え、各クラスの最終日に 1 週間見て、子どもたちができそうなことやしたそうなことなどを考え、自分が中心となり 15 ～ 30 分程度で活動をする。

2．1 実習スケジュール

⑴ 全体のスケジュール

8 月 28 日㈫～ 8 月 31 日㈮　モモクラス（2 歳児）での実習
9 月 4 日㈫～ 9 月 8 日㈯　リンゴクラス（3 歳児）での実習
9 月 10 日㈪～ 9 月 15 日㈯　ブドウクラス（4 歳児）での実習
9 月 17 日㈪～ 9 月 20 日㈭　スイカクラス（5 歳児）での実習

⑵ 1 日のスケジュール

午前 8 時	出勤　実習先のクラスへ 教室では子どもたちが朝ごはんを食べ終わる頃
午前 8 時 30 分頃	朝の挨拶後、活動開始 クラスによって異なるが、体操や手遊び歌、ブロックなどで遊ぶ
午前 11 時頃から	昼食の準備
午前 11 時 30 分頃	昼　食
午後 0 時 30 分頃から	お昼寝の準備、お昼寝
午後 3 時頃	お昼寝終了おやつを食べ、帰りの準備を始める
午後 3 時 30 分頃	親の迎えまで、紙芝居を読んだりブロックで遊んだりする
午後 5 時頃	親の迎えが来ない子どもを一番下の階の教室に連れていく
午後 5 時過ぎ	退　勤

2．2 実習内容詳細

⑴ 通常の実習

出勤時には、先生も子どもたちもほとんど揃っていて朝ご飯を食べ終わる頃だった。そのため、出勤したらまず、ご飯を食べ終わっていない子の補助をしたり、すでに食べ終わっている子が遊んでいるところに入ったりした。また、毎回ご飯やおやつの時には子どもたちの使う机を拭くため、片付けが終わった机から掃除を始めた。朝ご飯の後は、朝の挨拶を済ませた後に、外に行って体操をしたり、土遊びをしたり、教室内で体操をしたり、ブロックで遊んだりと日によって、クラスによって様々だった。体操の時には見よう見まねであるが一緒にダンスをし、他の活動の時には子どもたちの安全を守りながら、一緒に遊んだり、おもちゃや道具の使い方を教えたりした。その後、子どもたちの着替えやトイレを手伝ってから、給食を取りに行った。給食の配膳の仕方も、年齢が上がるごとに子どもが中心になっていくため、クラスによって様々であった。お昼を食べている間は、自分も一緒に食べながら、食べるのが遅い子の補助をし、スプーンではなく手を使ってしまうような子には注意をした。お昼の後は、教室全体を掃除し、

簡易ベッドのようなものを人数分置き、蚊帳を張るなどお昼寝の準備をした。（図１　お昼寝の様子）子どもを寝かしつけた後は、先生たちもすぐに寝るときがあったが、バースデーカードなどの作成の手伝いをすることもあった。お昼寝の後は、子どもたちを起こし、片付けをしてから、おやつの準備をした。おやつ中も補助をした。その後は、子どもたちの帰る準備をし、また午前中と同様にブロックなどで遊んだ。紙芝居を先生が読むときや、先生がお話ししているときは後ろから子どもの姿勢を見て、姿勢が悪い子には注意をした。午後４時頃には、帰りの挨拶をし、ブロックで遊んだり、絵本を読んだりして親の迎えを待った。午後５時になっても親が迎えに来ない子どもは、１階の教室に預けて、実習終了となった。

図１　お昼寝の様子

⑵　各クラスの最終日に行う活動

最初の実習クラスのモモでは、２歳児で、できることがかなり限られていた。実習中、先生が手遊び歌をすると、自分でも同じようにするのは難しそうだったが、とても楽しそうにしていたため、今回の活動では手遊び歌をした。内容はすでに子どもたちが知っている「グーチョキパーでなにつくろう」と「いとまきのうた」をした後に、子どもたちにとっては初めての「こぶたぬきつねこ」を披露した。「こぶたぬきつねこ」では、最初に一通り見せた後に、それぞれの動物と鳴き声ごとのポーズをゆっくり教え、最後に全員で一通り行った。

次の実習クラスのリンゴでは、２歳児に比べ１つ歳が変わるだけで活動の幅がかなり広がることに気付いた。特に体操の時に行うダンスでは、２歳児はほとんど見て笑っているだけだったが、３歳児になると振付を覚えていて、分からなくても真似をしている姿を見ることができた。一方で、まだ長い時間じっと座っているのは難しそうだったため、活動では「ソーラン節」を教えた。事前に３歳児でも踊れるように、簡単にした振付を考えておいた。最初はアレンジをしていない元の振付のソーラン節を披露し、その後簡単な振付を一通り見せてから、ひとつひとつの振付を教えた。最後には途中までではあるが、全員で踊れるようになった。

次の実習クラスのブドウでは、手遊び歌を日本語の歌でもほとんど覚えていて、自分たちで手遊び歌を始めるときもあるなど、３歳児から４歳児でもかなり変化している様子を見ることができた。全体を通して、何かを作るという作業ができそうだと思い、折り紙で紙飛行機を作った。また、ただ作るだけではなく、１人１人に好きな絵を書いてもらった。完成後は、みんなで自由に投げた後、的を用意して的に向かって投げたり、列を作って投げたり、ただ投げるだけにはならないように工夫した。（図２　活動の様子）

最後の実習クラスのスイカでは、体調を崩してしまい活動できなかった。

図２　活動の様子（紙飛行機づくり）

３．実習の感想・学んだこと

約１か月間の実習を終えて、コミュニケーションに言葉はいらないということを体感することができた。もちろん、注意したり指示したりする時には、現地の言語を話せたほうがスムーズに伝わるだろう。しかし、子どもたちに何かをしてほしい時などは、実際に自分がやって見せることで伝えることができる。例えば、ご飯の時に「よく噛んで食べて。」と伝えたかったときは、自分も一緒に食べながら多少大げさにでも「モグモグ（ベトナムではニャムニャム）。」として見せることで、伝えることができた。また、活動を通して、言語が話せない分、表情を豊かにすることが大事であると学んだ。特に、子どもたちの関心を引いたり、楽しませたり、注意したりする時には、わかりやすい表情を作ることが重要であった。また、担当の先生とも、実習中はほとんどボディーランゲージと表情でコミュニケーションを取ることができた。

また、私が実習先にたんぽぽ保育園を希望した理由が、日本型の教育を取り入れた保育園という点に魅かれたからであったが、実際に実習に行くことでその点について多くのことを知ることができた。まず、教室内の壁面には日本の幼稚園や保育園と同様に、かわいらしい装飾がされていて、明るい雰囲気のある教室だった。（図３・４　教室の様子）また、先生も子どもも日本語で遊ぶ手遊び歌が多くあり、他にも朝の挨拶や帰りの挨拶、お昼を食べる前の挨拶なども日本語で行っていた。また、たんぽぽ保育園では子どものしつけを厳しく行い、親に対しても講演会を開くなどをしている。実際に、実習中にも、先生は悪いことをした子どもに個別に怒ることはもちろん、クラスの前で怒ることで、してはいけないことを伝える場面も多くあった。他にも、先生は１人１人に連絡帳をつけ、学級便りのようなクラスごとの便りを毎月作成し、親とのつながりも重要視していた。これは、子どもに対する親のしつけが甘く、土曜日には子どもを保育園に預けて家族で出かけるなど、子どもをほったらかしにする家庭が多いというベトナムの家庭状況も大きく影響しているという。このように、ベトナムと日本のそれぞれの良いところを取り入れた教育方法があり、それが現地の状況とうまく合致し受け入れられているということを実際に見ることができ、教育には様々な可能性があると感じた。

図３・４　教室の様子

さらに、実習を通して保育士にはかなりの体力が必要であることと、自分の体調管理の甘さを痛感した。実習の２週目には風邪をひいてしまい万全の状態で実習をすることができず、最終週には２日間熱を出し、実習を休んでしまった。この点は悔いの残る実習となってしまったが、海外で働くという経験だけでなく、先に述べたようなたんぽぽ保育園での実習でなければ得られなかっただろう知識や体験を得ることができ、とても充実した実習であった。

４．まとめ

約１か月間のたんぽぽ保育園での実習は自分の将来においてかけがえのない経験だった。

まず、日本でのインターンシップでは経験できない環境で実習することで、自分と向き合うことができ、自分の長所や短所などを改めて知ることができた。自分の長所や短所を知ることは、社会に出て働くうえで必要不可欠なことであると思う。今まで気づかなかった自分のことを知ることができる貴重な経験だった。

また、多くの子どもと触れ合うことで、大学での学びにおいて意味のあるものを得ることができた。２歳～５歳と年齢を重ねるにつれて発達する言語などの子どもの持つ能力について、文献で読むのではなく、実際に見ることで今まで得てきた知識に具体性を持たせることができた。特に、親が日本人である子どもとも触れ合うことができたのは、自分の今後の研究に非常に有益なものとなった。

５．謝　辞

約１か月間と長い間、大変お世話になりました。

自分はベトナム語も全く分からず、さらに幼児教育などの専門的な知識もないような人間であったにも関わらず、江里さんをはじめ、理事長のリンさん、園長のハンさんや多くの先生方に温かく迎え入れていただき、素晴らしい実習生活を送ることができました。また、先生方のサポートもあり、子どもたちはベトナム語の分からない私にも近づいてきてくれて、距離を縮めることができ、実りある実習になりました。各クラスの最終日に行う活動においても、江里さんのサポートと、先生方のサポートのおかげで、毎回良い活動ができたと思います。しかし、実習中には体調を崩してしまうこともあり、大変ご迷惑とご心配をおかけしてしまったことを、反省しております。

皆さんの大変なお力添えをいただきまして、沢山のことを学び、吸収することができ、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

学部／学科：国際学部　国際社会学科　　学年：3 年　　氏名：長　佐和子
実　習　先：Pacific Hotel & Spa Siem Reap
実 習 期 間：平成 30 年 8 月 20 日～ 9 月 15 日

1．実習先の概要

所在地：ROAD NO.6、KAKSEKAM VILLAGE、SIEMREAP、CAMBODIA

アンコールワットで有名なカンボジアの観光都市シェムリアップにある 4 つ星ホテル。Pacific Hotel は世界的にチェーン展開しているホテルグループであり、客室は 4 タイプに分かれており全部で 236 室ある。さらにマッサージ＆スパやプールの設備があり広々とした造りになっている。毎日外国人観光客で賑わっており、中国人や韓国人、日本人の観光客が中心である。

2．実習内容

Japanese Guest Relation の仕事を教えて頂いた。日本人観光客の対応全般と一階ロビーでの接客、事務作業が主な実習内容であった。

2．1 実習スケジュール

実習 30 日間において午前シフトと午後シフトを両方体験した。午前シフトは 8 時に業務開始、17 時に業務終了。午後シフトは 14 時に業務開始､23 時に業務終了。休日は毎週日曜日の 1 日であった。

2．2 実習内容詳細

主に日本人ゲストの対応を行っていた。具体的な仕事内容は、日本人ゲスト宿泊予定の部屋の確認、チェックイン受付、ホテル内設備の案内、マッサージ＆スパの予約、電話での日本語対応などである。日本人ゲストの多くは英語が分からなかったため、現地スタッフと日本人ゲストの仲介に入る機会も多くあった。また、ホテル近辺に徒歩で行くことが出来るレストランや観光地が無かったためホテル専属のトゥクトゥクや車送迎サービスの手配をする事も多くあった。日本以外からも多くのゲストが宿泊しており､団体バスで来るゲストがほとんどであった｡団体の客室リストを作ったり、予約を確認してチェックインシステムに入力するなど事務仕事も行った。

3．実習の感想・学んだこと

私は、今回このインターンシップで本当に多くの収穫を得た。一番大きな収穫は、自分次第でどんな状況も変えることが出来るということを改めて痛感したことだ。30 日間常に「吸収できることは全て吸収しよう、一瞬たりとも無駄な瞬間はない」と思って業務に取り組んだ。業務を終えて振り返ってみると､自分の準備不足だった点やもっと出来たのではないかと思ってしまう点もある。しかし､その時出来る精一杯で現地スタッフの方々や業務に向き合っていたと自信を持って言える。

週 6 日の 1 日 9 時間勤務は、慣れるまでは大変だったが慣れてきてからは隙間時間に職場のスタッフたちと話す時間が多くあるので楽しく感じるようになった。日本人の対応が主だったため、日本人ゲストが少ない日は隙間時間も多くあった。そういった時は自分から積極的に何か出来る仕事が無いか声をかけ、無い時はスタッフの皆と色々な話をしていた。学校に通いながら正社員として働いているスタッフはとても多く、学費を貯めるためにホテルで働いているという人も居た。観光学や言語を学校で学び､ホテルで働きながら学んだことを実践して定着させているとの事だった。

カンボジアの人々は皆共通して寛大な心を持ち、ポジティブでやる気に満ち溢れていた。中国人観光客がゲストの過半数を占めていたので、多くのスタッフが中国語を勉強していた。その中には学校では習わずに、日々の業務でゲストと話しながら独学で話せるようになったという人も居た。空いている時間を見つけては教科書を開いて勉強しているスタッフ、パソコン業務の合間にホテル業の在り方について情報収集をしているスタッフ、学費が払えないために中途退学したがいつか復学した時のためにと英語を熱心に勉強しているスタッフ。彼らの姿を近くで見ていて、何も思わない訳がなかった。自分がいかに恵まれた境遇でここに居るのかと何度も思い知った。大学まで通うことが出来て、さらに大学のプログラムの一環として海外にインターンへ行くことが出来る。学びたいことをとことん学ぶことが出来て、明日の生活を危ぶむ程お金に困っている訳でもない。この事に気付いたと同時に、彼らに「日本人だから」という理由で優しくしてもらえていたことにも気付き恥ずかしくなった。彼らの仕事への姿勢は「彼らの目に、私の仕事への向き合い方はどう見えているのだろう？」と自分を振り返るきっかけになってくれたと思っている。彼らのような「今ある困難な状況を変えるために」と努力するひたむきさを持って、これからの大学生活を過ごしていきたいと強く思った。

4．まとめ

海外で働くことは、決して仕事内容だけが重要なのではない。そこで働く人々の持つ価値観や文化を理解し、その国についての知識も持ち合わせていなければいけないのだと思う。そうすることで、そこでの仕事の在り方に対するビジョンがはっきりしてくると考えられる。

5．謝　辞

Pacific Hotel の方々には本当に感謝しています。と同時に、ホテル関係者だけでなく、今回のインターンシップでお世話になった方々全員に心から感謝したいと思います。今回、人と人との繋がりの中で学んだことや気付かされたことが数多くありました。「働くということは何か？」「海外に飛び出して自分は何がしたいのか？」といった今後の進路に関わる重要な問いと真剣に向き合う機会を頂けたと思っています。一言ではとても言い表せませんが、本当にありがとうございました。

図１　出勤最終日職場の同僚と

図２　大好きなベルボーイの皆と

学部／学科：国際学部　国際文化学科　　学年：3 年　　氏名：菊池　はる佳
実　習　先：Pacific Hotel
実 習 期 間：平成 30 年 8 月 20 日～ 9 月 15 日

1．実習先の概要

所 在 地：Road No.6 Kaksekam Village, Siem Reap, Cambodia
事業内容：ホテル業、マッサージ・スパ、プールなど。

2．実習内容

ゲストコミュニケーションオフィサーとしてロビーに立ち、宿泊客に挨拶をしたり、チェックイン、チェックアウトの補助をしたり、事務作業を手伝ったりした。宿泊客が到着する前にルームチェックを行い、到着後は部屋まで案内した。その他、宿泊客のトラブルシューティングやスパ予約も行った。

2．1 実習スケジュール

最初の数日のみ午前シフト。残りはすべて午後シフト。14 時から 23 時までの勤務で、休憩時間は約一時間。休日は日曜のみ。

2．2 実習内容詳細

⑴ ロビーでの接客

勤務時間の 8 割はロビーに立ってソファやクッションの位置を直し、ドアの横にベルマンと一緒に立ってお客様に挨拶をした。チェックインやチェックアウトのお客様がいれば、宿泊中問題はなかったかお尋ねしたり、記入の手伝いをしたりした。また、宿泊中のお客様がお出かけになる際にはトゥクトゥクの手配をしたり､近所の観光地やスーパーの案内をしたりした。お客様がチェックインされた後はシャワーのお湯が出ないなどのトラブルを受け、ハウスキーピングに修理に向かわせたり、部屋を変えたりするなどの対応に当たった。

⑵ ルームチェック

チェックアウトが済むとハウスキーピングが部屋の清掃に入り、それが終わってチェックインの数時間前になるとルームチェックを行った。電気や空調の調子はどうか、洗面所やバスタブに髪の毛や水滴が残っていないかなどを細かくチェックした。日本人客の宿泊予定の部屋では日本語でのホテルの案内を置いたり、テレビのチャンネルを NHK にしたりして不便を感じることなく過ごせるようにした。

⑶ 事務作業

お金の数え方やホテルのチェックイン、チェックアウトに使う PC ソフトの使い方、ルームキーを作る機械の使い方などを教わった。また、日本人スタッフの千葉さんに教わりながら、Excel を使って日本人宿泊客の部屋割りを決めたりスケジュール確認をしたりした。さらに日本人宿泊客に手渡すクロマスカーフを準備した。

３．実習の感想・学んだこと

私にとって初めての海外渡航であり、初めての海外就業体験であった。最初から最後まで、私は現地の人々が話す英語の独特な発音に慣れず、うまく聞き取れなかったことが残念であった。クメール語を話す彼らの英語は、英単語の最後の音を発音しないのが特徴的で、「ランチ」を「ラン」と言われていることに気づいたとき、私は正直コミュニケーションをとることをあきらめようかと思った。しかし彼らはいきなり来た私にとても熱心に話しかけてくれたし、仕事のことも世間話でもとてもフレンドリーで、私のほうが戸惑うほどであった。その彼らの親切さに応えたくて私は何度も何度も聞き返したり、確認をとったりした。教えられた通りにできたときには達成感があったし、スタッフも満面の笑みでほめてくれて本当にうれしかった。ホテルに来るお客様はほとんどが中国人や韓国人で、その多くは英語を話せなかったが、ジェスチャーを使って笑顔で丁寧に応対すれば心を通じ合わせることは可能であった。実習を通して、言語の壁に苦しみながらも、それは自分の努力次第でどうにでも変えられることを学ぶことができた。

４．まとめ

今回の実習を通して、自発的に行動を起こすことの大切さを学ぶことができた。何もしなければ一日ロビーに立って終わる仕事だが、自分の心がけ次第ではお客様と信頼関係を築くことができたり、いろんな仕事を任せてもらえるようにもなる。一番印象的だったのは、日本人のお客様に「日本人スタッフがいてくれてよかった。安心できる。」と言われたことであった。また、口コミサイトに私たち日本人スタッフの対応が丁寧だったとお褒めの言葉が書き込まれていたこともあった。初めての環境に戸惑いながらも自分なりに精一杯おもてなしをしてきたことがこのようにお客様にも伝わっていたことにはやりがいを感じた。

５．謝　辞

Thank you for receiving us as a member of your front office. You all were so kind to me and taught many important things although I' m so shy and not talk so much. Not only the member of front office, but bellboys always talk to me kindly. I was so glad to your kindness. I wish you all could make your own dreams come true someday and we would meet together somewhere in the future. Thank you.

学部／学科：工学研究科　機械知能工学専攻　　学年：1 年　　氏名：高橋　遼
実　習　先：CAM PLAS（THAILAND CO.,LTD.）
実 習 期 間：平成 30 年 8 月 7 日～ 8 月 24 日

1．実習先の概要

代 表 者：宮坂　裕昭
所 在 地：Amata City Chonburi Industrial Estate,
700/147Moo1.T.Ban khao A.Panthong Chonburi 20160
設 立 日：2007 年 4 月
事業内容：精密エンジニアリングプラスチック成形品の製造・販売
取扱品目：自動車部品・光学機器・OA 機器、精密機器部品のプラスチック成形部品
従業員数：日本人 7 名、タイ人 236 名、カンボジア人 96 名の TTL339 名
資 本 金：520,000,000THB
親 会 社：株式会社キャム

2．実習内容

⑴　工場見学
⑵　ミーティング
⑶　アセンブリ部門の改善模索
⑷　射出成形についての学習 / 実験
⑸　報告会

2．1 実習スケジュール

	7-Aug	8-Aug	9-Aug	10-Aug	14-Aug	15-Aug	16-Aug	17-Aug	20-Aug	21-Aug	22-Aug	23-Aug	24-Aug
1.オリエンテーション													
2.工場見学													
3.技術													
4.製品													
5.QC													
6.金型													
7.塗装/アセンブリ													
8.プランニング													
9.射出成形													
10.ミーティング													
11.報告会													

2．2 実習内容詳細

⑴　工場内にはアセンブリ、インジェクション、QC、金型、ペインティングという部門が存在していて、それについての仕事の内容や工夫していることについて学んだ。工場内にあった機械を図 1 ～図 3 に示す。
⑵　ミーティングでは週の売り上げや製品の問題点と改善策について話し合った。
⑶　アセンブリの改善策模索では実際にラインにいき、作業に無駄はないか、作業者一人当たりの作業時間は適切であるか、時間を測定し、観察することで改善案を模索した。
⑷　今回の実習で最も時間を費やしたのが射出成形についての学習／実験である。まず、射出成形機のパラメータが成形品の外観に及ぼす影響や、樹脂の収縮率を調査した。次にこれを踏まえ、射出成形のサイクルタイムを短縮するために成形加工性の金型温度に着目し、この温度を

下げれば冷却時間が短くなりサイクルタイムの改善に繋がるのではないかと考え、実験を行った。スタンダードの成形条件は冷却時間８秒、金型温度 BASE120℃／ CORE100℃です。この金型温度を BASE100℃／ CORE80℃に下げた時の適切な冷却時間を調査した。結果としては、金型温度を下げたとき、表１に示すようにすべての冷却時間に対して、製品寸法（Φ=56.5 ± 0.05）を満たしていた、外観に関しては図４に示すように冷却時間が 2.5 秒の時に EP マークという外観不良が発生した。このことから、採用する冷却時間は３秒が妥当であり、スタンダードの冷却時間と比較して、冷却時間を５秒短縮することに成功した。

⑸　報告会では、インターンシップを通して学んだこと、実験内容、工場内の改善案等をパワーポイントにまとめて、日本人とタイ人の前で発表した。

図１　射出成形機

図２　取り出し機

図３　金型

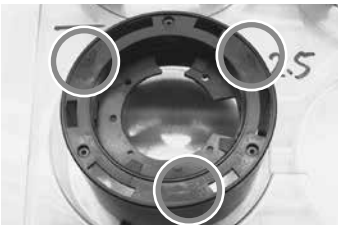


図４　冷却時間 2.5 秒の外観

表１　金型温度を 20℃下げた時の冷却時間に対する製品寸法

冷却時間（s）	x（㎜）	y（㎜）	質量（g）	収縮率（%）	収縮率（%）
8	56.45	56.46	12.458	0.388	0.371
7	56.47	56.45	12.462	0.353	0.388
6	56.46	56.44	12.461	0.371	0.406
5	56.46	56.43	12.463	0.371	0.424
4	56.46	56.44	12.456	0.371	0.406
3	56.45	56.42	12.455	0.388	0.441
2.5	56.44	56.42	12.444	0.406	0.441

３．実習の感想・学んだこと

今回のインターンシップでは射出成形について多くのことを学んだ。射出成形とは樹脂を溶かし、金型に流し込み射出して形状を作ることである。射出成形は金型を閉じ、樹脂を射出し、保圧をかけ、冷却し、金型を開いて、成形品を取り出すというサイクルで一つの製品を作る。

成形で出来た製品は寸法と外観が重要な要素である。そこで、射出成形機の位置、速度、保圧といったパラメータを調整することできれいな外観に仕上げることが出来る。位置の値が小さい（樹脂を入れ込む量が少ない）とショートショット*)[1] が発生し、大きいとオーバーパックする。このことから、位置の値を設定する時は、成形品が 95％程度充填したら切り替え位置を 0.1㎜～調整し入れ込み、100％～ 105％で v-p 切り替え位置*)[2] とする。速度の値が小さい（樹脂を入れ込む速さが遅い）とショートショットが発生し、大きいとバリやジェッティング*)[3] が発生する。このことから､成形品の特徴に合わせて速度を調整する必要がある。保圧力の値が小さいと樹脂の逆流、表面の凹み、寸法精度の劣化、ゲートシールせず、大きいと離型不良、オーバーパックする。このことから、保圧力はヒケや重さをみて調整します。また、寸法においては、樹脂一つ一つの特徴や収縮率を調査して、それに合わせた金型を作製することで企業が要求した寸法を満たすことが出来

る。収縮率を調査しメーカの推奨値と比較したことで、必ずしもメーカの収縮率と成形品の収縮率は一致しないということがわかった。なので、企業ごとに樹脂一つ一つの収縮率をデータとして蓄積していく必要があると思った。

サイクルタイム改善のために行った実験では、多くのことを知ることが出来た。まず、樹脂温度を下げた場合は、冷却時間を短縮できなかった。これは、樹脂温度は製品の強度には関係があるが、冷却時間には関係がないということだ。次に、金型温度を下げた場合は、冷却時間の短縮に成功した。今回の実験では、射出機の設定を変えずに、金型温度のみを下げて実験を行ったので、他の成形品にも応用が出来るかもしれないという可能性が生まれた。サイクルタイム改善で使用した製品は図４～５で示す。

アセンブリの分野では効率よく作業を行うため、接着剤の量を空気で調整して適量塗布できる機械や、圧力を制御しながらプレスする機械があった。全体を通して専用のジグを使うことによって作業が簡単で素早く出来るようになっていた。

このように、インターンシップを通して、プラスチックの特性やその加工法についての知識や工場内での工夫を学ぶことが出来た。

実習の感想としましては、自分の研究分野とは異なる分野だったので知らないことが多く、その分、得られる事も多かったのでとてもためになる実習だった。初めは、不安な気持ちでいっぱいだったが、現地の方が優しく様々な事を教えてくれたのでその緊張も徐々にとけていった。あっという間の三週間だった。

図５　使用製品

図６　冷却時間に対する製品の外観

４．まとめ

今回の実習を通して､生産ラインや射出成形により実践的なことを学ぶことが出来ました。また、海外の企業がどのように業務をし、現地の人とコミュニケーションをとって仕事をしているかを知ることが出来ました。この経験から、生産技術や技術職について興味が沸き、就活をする際の参考になりました。また、社会人になって海外で働くときの雰囲気をつかめることが出来、海外で働くことに対してより前向きな気持ちになった。

学生時代にこのような経験を出来たことは自分にとってプラスになると思った。

５．謝　辞

今回のインターンシップでは、大変お世話になりました。お仕事が忙しい中、丁寧に様々な事を教えて頂きまして、ありがとうございました。ここで得た経験を今後の就職活動や社会人になった時に生かしていきたいと思います。CAM PLAS の皆様、本当にありがとうございました。

---

*) [1]　成形品の一部に不完全な充填が起きる現象です。
*) [2]　保圧に切り替える位置
*) [3]　成形品の表面に蛇行した「くねくね模様」が現れる外観不良です。

学部／専攻：工学研究科　機械知能工学専攻　　学年：1年　　氏名：小田　雄紀
実　習　先：株式会社キャム
実 習 期 間：平成 30 年 8 月 7 日～ 8 月 24 日

1．実習先の概要

所 在 地：Amata City Chonburi Industrial Estate,
700/147Moo1.T.Bankhao A.Panthong Chonburi 20160 Thailand
事業内容：精密プラスチックス金型及び成形品並びに関連部材の販売

2．実習内容

2．1 実習スケジュール

1 週目　工場見学、ミーティングなどを通し、それぞれの部門を理解し、課題を考える。
2 週目　課題について実験を行い、結果を整理した。
3 週目　課題をまとめ発表資料などを作成した。

2．2 テーマ

生産の中の重要な要素の一つとしてサイクルがある。今回、キャムで大量に行われている射出成形のサンプル改善に注目した。

2．3 射出成形

まず、プラスチックの粒状の塊をホッパーに投入し、スクリューで前進させながら加熱・溶融する。そして、金型に設けられたキャビティと呼ばれる製品と同形状の隙間の中に溶融プラスチックを高圧で注入し、圧力を保ったままプラスチックを冷却し固化させる。固化が完了したら金型を開き、エジェクタピンで製品を突き出して取り出す。そして、再び金型を閉じ、同じサイクルを繰り返す。これが射出成形の一連の流れである。

射出成形の構成要素

射出成形の構成要素は主に 6 つあり、下記に示す。

① 型閉時間
金型が閉まるまでの時間であり、射出成形機の型開きストロークと型閉速度によって左右される。

② 充填時間
流入した溶融樹脂がキャビティの中を完全に充填するまでの時間である。

③ 保圧時間
キャビティのなかの溶融樹脂が充填した後に、ゲート部が固化するまで圧力を加えている時間である。

④ 冷却時間
保圧が完了した後に、成形品などがある程度固化するまで冷却している時間である。一般には、冷却時間が、成型サイクルの中で最も長い時間になる傾向がある。

⑤ 型開時間
金型が開くまでの時間である。射出成形機の型開きストロークと型開速度によって左右される。

⑥　取り出し時間

成形品をキャビティから取り出すための時間である。

この中で時間をある程度自由に変更可能な要素は冷却時間である。

2.4 目　的

金型に流し込む樹脂温度を調節し、冷却時間を短縮できるか調べる。

2.5 使用パーツ、使用プラスチック材料

使用パーツを図 1 に示す。

素　　材　PC-GF40%（BK）,G3440LI

金型寸法　Φ 56.670（外径）

製品寸法　Φ 56.47 ± 0.05㎜（塗装前）

ポリカーボネート（PC）

長　　所　耐衝撃性、耐熱性、耐候性、寸法精度、軽量

短　　所　耐薬品性、高温高湿に弱い

成形加工性（ガラス繊維 40%）　シリンダ温度　270 ～ 330℃

金型温度　80 ～ 120℃

収 縮 率　0.1 ～ 0.2%

図 1　使用パーツ

2.6 成形条件スタンダード

冷却時間　5sec

金型温度　BASE120℃ /COR100℃

樹脂温度（シリンダ温度）

シリンダの Z1 ～ Z5 部分それぞれの温度を表 1 に示す。

表 1　樹脂温度（スタンダート時）

Z5	Z4	Z3	Z2	Z1
310℃	315℃	310℃	300℃	290℃

2.7 実験方法

スタンダードの成形条件よりも樹脂温度（シリンダ温度）のみをそれぞれ 10℃ずつ下げる。

冷却時間が 8、7、6、5、4 秒それぞれの時のサンプルを取る。

取ったサンプルの寸法や外観をチェックして適切な冷却時間を調べる。

2.8 実験結果

表 2 にそれぞれの冷却時間に対する寸法、質量、収縮率の実験結果示す。図 2 のように x、y 軸を取り測定した。

表 2　実験結果

Cooling time(s)	x(mm)	y(mm)	Weight(g)	Shrinkage x(%)	Shrinkage y(%)
8	56.46	56.47	12.435	0.371	0.353
7	56.45	56.47	12.442	0.388	0.353
6	56.46	56.45	12.432	0.371	0.388
5	56.45	56.46	12.437	0.388	0.371
4	56.43	56.46	12.434	0.424	0.371

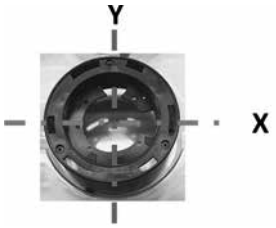


図 2　測定軸

⑴　寸　法

ｘ方向、ｙ方向の寸法はともにこの許容寸法を満たしている。また、冷却時間が短くなるにつれ減少している。

⑵　質　量

増加や減少のような傾向はみられず、ばらつきがみられた。

⑶　収縮率

冷却時間が短くなるにつれ増加している。PC の成形加工性と比較するとかなり大きい値となっている。

⑷　外　観

冷却時間 8、7、6、5、4sec の時の外観を図３に示す。8、7、6sec の時は外観に問題はみられなかった。しかし 5、４秒の時は図４のような EP マークというエジェクタピンの押し出し跡が見られ、不良が起きてしまっていた。

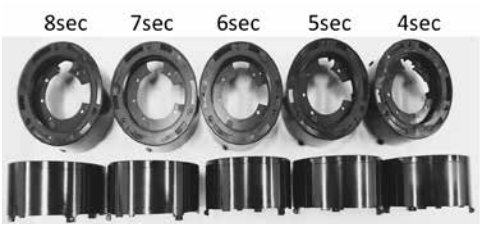


図３　サンプル外観

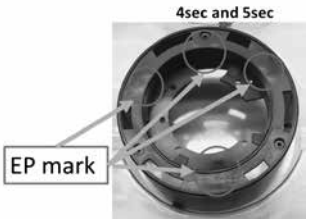


図４　EP マーク

２．９ 考察及びまとめ

すべての冷却時間において許容寸法を満たしていたこと、冷却時間が 5、４秒の時に外観に不良が見られたことから採用できる最小の冷却時間は６秒である。スタンダードの時の冷却時間は５秒であったため､比較すると樹脂温度を下げることは冷却時間の短縮に効果がないことが分かった。つまり樹脂温度を下げることでサイクルを改善することはできなかった。このため樹脂温度だけでなく金型温度を下げ、サンプルをとり、冷却時間の短縮に効果があるかどうか調査する必要がある。冷却時間を短縮させると寸法や質量、収縮率に影響を与えることが分かった。このことから、製品の要求事項を満たす範囲内で最小の冷却時間を見つけることが重要である。

３．実習の感想・学んだこと

工場見学を通してどのように安全性が確保されているか、どのように効率化がされているかを理解することができた。また、プラスチック部品を製作する射出成形の原理、それに使われている金型、プラスチックの材料特性を知ることができた。

４．まとめ

この国際インターンシップを通して実際の企業がどのような部門ごとの関係性になっているか、技術者がどうあるべきかなどを学ぶことができた。また、言葉の壁がある方々とコミュニケーションをとるには自分の言いたいことを簡単にまとめることが重要だと分かった。これらの経験をこれからの就職活動などに活かしていきたい。

５．謝　辞

自分にとって初めての海外、インターンシップということでとてもいい経験をすることができました。３週間という短い期間でしたが優しく丁寧にご指導していただきありがとうございました。

学部／学科：工学部　機械システム工学科　　学年：３年　　氏名：齋藤　陽都
実　習　先：CAM PLAS（THAILAND）CO.,LTD.
実 習 期 間：平成 30 年 8 月 27 日～ 9 月 17 日

１．実習先の概要

１．１　実習先の所在地

Amata City Chonburi Industrial Estate, 700/147Moo1.T.Bankhao A.Panthong Chonburi 20160

１．２　実習先の事業内容

カメラのフードや車のギアなどの射出成型、組み立て、金型の製作・管理などや、その品質管理

図1　製品の一部
（キャムＨＰより）

２．実習内容

２．１　実習スケジュール

１日目	インターンシップについてのガイダンス、ミーティング
２日目	工場見学、工場を回る際の安全についての説明
３～４日目	インターンで取り組む課題探し、必要な知識についての説明、調べ
５～９日目	ドライサイクルタイムの計測、型締力の違う機械での実験、ミーティング
10 日目	射出速度を変更した際の試作、試作品の各パラメータの測定
11 日目	発表用資料作り、月例会議
12 ～ 13 日目	発表用資料作り、発表練習
14 日目	発表打ち合わせ、発表

２．２　実習内容詳細

⑴　課題探し

今回のインターンで取り組む課題を探しました。具体的には「サイクルタイムという、製品が出来上がるまでにかかる時間の改善」という大きなテーマが与えられており、実際にサイクルタイムを改善するためには、どのようなことを変えれば良いのかを、工場を見たり、資料を読んだりしながら探しました。最終的には、射出速度と呼ばれているものやドライサイクルというものについて調べていく事に決めました。

⑵　ドライサイクルタイムの計測

ドライサイクルタイムと呼ばれる、製品を作る際に指標となる時間があります。時間の短縮化を目指すためには現在､時間がどの位かかっているのか調べる必要があります｡そこでストップウォッチを用いて、各成型機のドライサイクルタイムを５回ずつはかり、平均を求め、成型機の大きさとの関係などを求めます。

⑶　型締め力の違う機械での実験

機械のサイズを小さくするとサイクルタイムがどう変化するか実験しました。また製品の寸法や外観を損なってしまっていないかを重さ、外観の２点において基準を満たしているか調べました。型締め力の小さな機械（サイズの小さな機械）を使用することで、寸法精度を損なうことなくサイクルタイムを短くできることが分かりました。機械のサイズと時間の詳しい結果については社外秘のため省略させて頂きます。

⑷　射出速度を変化させた時の実験

成型機から金型に樹脂を流し込む際のスピードを上げることによって、サイクルタイムを短

縮することを目指します。しかし、スピードを上げすぎると金型に負荷がかかりすぎて金型が破損してしまう恐れや、製品にガスマークと呼ばれる欠陥が出てしまう可能性があるので、金型や試作の様子を見ながら、最も早い射出速度を探します。実際には、ある一定間隔でスピードを上げていき試作をしました。そして、重さ、寸法、外観、収縮率の４点において、基準を満たしているか調べました。今回の実験では約0.2秒サイクルタイムを縮めることができました。

⑸　資料作り及び発表

３週間取り組んできたことをパワーポイントを用いてまとめました。各実験で得られたデータや考察、提案などを、グラフ等を用いながらまとめました。そして最終日に社員の方々の前で発表を行いました。企業の方からは、短い期間の中で良く調べてくれたとのお褒めの言葉を頂きました。サイクルタイムの実験は短期的ではなく、長期的に傾向を観察する必要があるので、この結果をすぐに反映することは難しいが、データや提案としては参考になるものもあるとおっしゃっていました。いかに企業が研究・技術開発に時間をかけているのかを、改めて実感しました。

３．実習の感想、学んだこと

今回の実習では、大学での講義では経験することのできないことを経験することができました。まず初めに感じたことは、自由課題の難しさです。大学の講義での課題や実験は課題が与えられており、それについて進めていく形ですが、今回は大まかなテーマだけが与えられており、そこから具体的にどのような実験に取り組むかは自分で見つけていくという形でした。始めは何から手を付けていいか全く分かりませんでした。今回担当して下さった方から「スポーツで自分の欠点を探すことと似ている」というアドバイスを頂き、やらなければならない事が分かるようになっていきました。

まず現状を知るために、与えられた資料を読んだり、質問したりしました。そして改善できそうな点をみつけ実験に移っていきました。実験についても、数日間にわたってデータを取り続けることは初めてだったのでデータの整理や必要なデータを見つけ出すことに非常に苦労しました。資料作りについてもグラフの見せ方やレイアウト、載せるべき情報など様々なアドバイスを頂きながら完成させることができました。今回の実習はすべてが初めてのことで、非常に学ぶことが多いものとなりました。特に実験の行い方やデータのまとめ方など、今後、理系で生きて行く上でとても大切なことを学べたと思います。

またタイの方と働くことでタイの人々の良さや、海外の人との働き方なども学ぶことができたと思います。今回の海外インターンシップでは仕事はもちろんのことですが、タイの文化など他にも学ぶことが多くとても有益であったと思います。

４．まとめ

今回の実習では様々なことを経験し学ぶことができました。実験や発表で学んだことは、来年から始まる卒業研究や就職した後の研究で生かせると思いました。また外国の方と働くことで仕事に対する様々な考え方に触れることができました。こちらについても仕事で海外に行った際に非常に役立つと思いました。学んだことを無駄にせずさらにレベルアップできるようにしていきたいと思います。

５．謝　辞

この度はインターンシップに受け入れて頂きありがとうございました。様々なことを教えて頂き、また質問にも丁寧に答えて頂き学ぶことが多い実習となりました。タイの現地スタッフの方々もよく面倒を見て下さり、非常に楽しく実習期間を過ごすことができました。また仕事だけでなくタイについても様々なことを教えて頂き、タイについて詳しくなると共に非常に魅力を感じるようになりました。今回学んだことを無駄にしないよう日々の勉強に取り組んでいこうと思います。本当にありがとうございました。

図２　キャムのエンジニアチームの方々と

学部／学科：工学部　機械システム工学科　　学年：３年　　氏名：及川　良太
実　習　先：CAM PLAS（Thailand）
実 習 期 間：平成 30 年 8 月 27 日～ 9 月 17 日

１．実習先の概要

Amata City Chonburi Industrial Estate
700/1Moo1.T.Bankhao A.Panthong Chonburi 20160
精密エンジニアリングプラスチック成形品の製造・販売。

２．実習内容

製造工程でのボトルネックの抽出とその改善策。

２．１ 実習スケジュール

勤務時間：月～金　8：30 ～ 17：30。
第　1　週：オリエンテーション、工場見学、ボトルネック抽出、会議。
第　2　週：ドライサイクル計測、計画・実験・データまとめ、会議。
最　終　週：会議、資料作り、発表会。

２．２ 実習内容詳細

私は射出成形機のドライサイクルに着目しサイクルタイムを改善できるか調査した。射出成形とは樹脂を金型に流し込み固めて成形する加工法であり、サイクルタイムとは、型開き、製品取り出し、型閉じ、射出、保圧、冷却の工程を１サイクルとしたときにかかる時間であり、ドライサイクルはその１サイクルの中の型開き、製品取り出し、型閉じ、保圧にかかる時間である。今回注目したのは１サイクルの中の型開きから型閉じまでの時間で成形機のサイズごとに計測し、そこからサイクルタイム改善に取り組んだ。

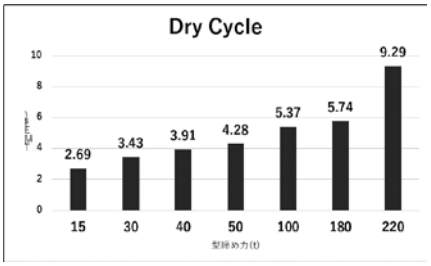


図１　型締め力とドライサイクルの関係

図１より成形機のサイズが小さいほどドライサイクルが短縮された。この結果を用いて成形機のサイズが違う機械に金型を取り付けて実験した。

表１より成形機のサイズが小さいほどサイクルタイムが短縮された。また表２より成形されたそれぞれの成形品は成形サイズが変わっても製品規格範囲以内に収まっているため、品質には問題がなかった。よってサイクルタイムは改善された。

表1　サイクルタイムと標準の差

型締め力	金型番号	成形品重量
Ton		g
15	金型1	0.027
30		0.026
50		0.029
15	金型2	0.051
30		0.050
50		0.051
15	金型3	0.223
30		0.237

表２　成形品１個の質量

型締め力	金型番号	樹脂	Cycle Time	Difference
Ton			Sec	Sec
15	金型1	SAME	7.42	-
30			8.40	0.92
50			10.20	2.78
15	金型2		7.47	-
30			8.80	1.33
50			8.92	1.45
15	金型3		7.22	-
30			8.78	1.56

３．実習の感想・学んだこと

今回の実習において私が学んだことは大まかに三つある。

一つ目は、エンジニアという仕事についてだ。インターンシップ前までは、私の中でエンジニアという仕事はあいまいでありよく知らなかった。しかしこの三週間、実際に工場内を見てみたり、実験をしてみたり、エンジニアチームと過ごしてみると、新製品のサンプル取り、機械の修理やサイクルタイムの改善など製造を主とする会社にとっては無くてはならない重要な仕事であると学んだ。この人たちがモノづくりを支えて生活を豊かにしていると感じた。

二つ目は発表である。今回のインターンシップが初めて資料を作りスライドを使っての発表だっ

た。魅せる発表を心掛け、見やすいスライド制作、わかりやすい解説、話し方、発表時の姿勢やボディーランゲージなど卒業研究発表前の良い経験になった。

三つ目はタイについてである。三週間タイで生活してみるといろいろなことを感じた。まず、気候だが雨季であったためか日本とそれほど変わらなく暑かった。物価は安く、生活するうえでは困らなかった。またバイクや車が多く、道路のつくりが悪いためか交通渋滞が頻繁に発生していた。タイ人の性格はおおらかで優しく接しやすかった。三週間生活してみて、タイは過ごしやすい国であった。

4．まとめ

今回のインターンシップでは射出成形機のサイクルタイムを改善するというテーマであった。サイクルタイムを改善し短縮することで生産量を増やし利益を上げることにつながる。私は1サイクルにおける金型が開いてから閉じるまでの時間に着目してサイクルタイムが短縮できるか取り組んだ。方法としてはまず、工場内にある15t ～ 220tまでのサイズの違う射出成形機の型開から型閉までの時間を計測し平均を出した。そこからサイズの小さい射出成形機のほうが型開から型閉の時間が短いことが分かった。そのため、一つの金型を三種類のサイズの違う射出成形機に取り付け、サイクルタイムが短縮されるか実験した。結果はサイズの小さい射出成形機を使うことによりサイクルタイムが短縮し実験は成功した。実験に参加したことで、エンジニアという仕事の一端を知ることができ、就職するときの参考になった。また、このインターンシップを通じて、一つのモノを見るときにいろいろな視点・角度・場所から見てみるとたくさんのコトが見えてくるという力が鍛えられた。これは、これから先の研究において必須な力であり、これから先もずっと役に立っていくと思う。このインターンシップは、私にとってとても有意義な時間であり、成長に欠かせない経験になった。

5．謝　辞

長いようで短いあっという間の三週間でした。初日は右も左もわからず、ただ不安いっぱいのタイでした。そんな中、トゥイさん、ジョーさん、マノーさんは会社のお昼休みに一緒にご飯を食べてくださいました。この甲斐あってか、私の心は不安から楽しみに変わっていきました。また辛いのが苦手な私に「この料理は辛くないよ」や「この料理はおいしい・おすすめ」や「ラーメン食べましょう」と言ってくださったのは、とても嬉しかったし、助かりました。おかげ様でタイ料理が大好きになりました。今は社食のラーメンや甘い豆腐が恋しいです。サイクルタイム改善の実験において、ミャオさん、グーさんには金型を取り付け、機械を動かしていただきました。お二人のおかげで実験は成功し、良いデータを取ることができました。また、英語や絵で射出成形、金型の開閉動作について教えていただき、知識を深めることができました。会社内では通訳のヌーナさんが私とタイの従業員さんたちとの懸け橋となっていただきました。ヌーナさんのおかげでいろいろな人とコミュニケーションを取ることができました。また、最終発表の通訳ありがとうございました。そして一番面倒を見て下さった尾崎さんには大変お世話になりました。エンジニアの仕事について、会社という組織について、タイについて、ホテル周辺についてやおいしいご飯屋さんの場所などたくさんのことを学び、とても楽しい三週間でした。またタイに行きたいと思います。三週間を通して、かけがえのない大切な経験をさせていただきました。それもタイがほほ笑みの国であるように、職場の環境や雰囲気、皆さんの人柄が良かったからだと思います。いつまでもお元気でいてください。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

図２　エンジニアと集合写真

図３　トゥイさんと写真

学部／学科：工学部　機械システム工学科　　学年：３年　　氏名：加納　優希
実　習　先：INFINITY AUTOMATION THAILAND CO.LTD.
実 習 期 間：平成 30 年 8 月 20 日～ 9 月 21 日

１．実習先の概要

所 在 地：75/6Moo 11, Phaholyothin Road, T.Klongnueng,
A.Klongnueng,Pathumthani 12120, THAILAND
従業員数：約 60 名
事業内容：主に自動機械の設計、製造、販売。

２．実習内容

設計者としての基礎習得のための研修。

２．１　実習スケジュール

Ⅰ　Daily time schedule

8：00	出　社	12：00 ～ 13：00	昼休み
8：25	朝　礼	13：00 ～ 17：30	業　務
8：30 ～ 12：00	業　務		

Ⅱ　Monthly time schedule

週	C　A　D	特別アイテム
1	SOLID WORKS 演習　SOLID WORKS 使い方講座	自己紹介　会社説明
2	SOLID WORKS 演習　SOLID WORKS 使い方講座 Air cylinder の図面作製	Machine report
3	SOLID WORKS 演習	PLC
4	SOLID WORKS 演習	Pneumatic system について NIDEC への工場見学 Tension spring の製作 Air cylinder の Assembly Machine report の修正
5	SOLID WORKS 演習　SOLID WORKS TEST	Final presentation

上記に加え OJT NOTE, SKETCH TRAINING NOTE を毎日提出した。

＊ OJT NOTE その日に学んだこと等を記入。

＊ SKETCH TRAINING NOTE 与えられたアイテムをスケッチする。

２．２　実習内容詳細

⑴　Air cylinder：今回の設計実習のメインテーマはエアシリンダの設計である。エアシリンダは圧縮空気を動力源とし、直線運動が可能な円筒状の機器である。エアシリンダの原理を理解し、その後 SOLID WORKS を用いて図面の作成をした。図面の作成後 Manufacturing の方々に部品を加工してもらい部品の寸法を自分で確かめた。その後 Assembly を行い完成、また Air cylinder force のチェックも行った。

⑵ PLC control：PLC control は今回作成したエアシリンダなどを制御する際に用いられるシステムである。今回の実習期間内では主に基礎的なことを教えて頂いた。

⑶ Tension spring：Φ 0.5㎜の鉄線を円筒工具に巻き付ける。その後バネ焼鈍を行い、強度をチェックした。また今回は IAT のエンジニアで未経験の方も一緒に行った。

３．実習の感想・学んだこと

今回のインターンシップでは設計を一からすることができた。設計する際に使用した SOLID WORKS は学校の講義では実習講義の際に数回使用するだけでなかなか使用する機会のないものであった。今回のインターンシップでは SOLID WORKS によるトレーニングを多く行い、初めは苦手だった SOLID WORKS が５週間でだいぶ上達したのが今回の一番の収穫であり、SOLID WORKS の操作が上達したことは将来の設計業務の際にアドバンテージになると感じる。インターンシップ中はコミュニケーションの難しさも痛感した。会社のエンジニア内での共通語は英語であった。相手の言っていることは理解できるものの、自分が伝えたいことがうまく伝わらないことが多々あり､特に専門的な言葉をどう簡単に表現すれば良いかにも悩んだ。しかし､時にはボディーランゲージを使ったり、絵や図に書いて説明したりと様々な方法で相手に何を言いたいかを伝えた。英語が伝わらなくても諦めずにコミュニケーションをとり続けることが大切だと改めて感じさせられた。また､谷社長から“だめでもともと”という言葉を教わった。これは失敗を恐れず行動することだ。失敗も視野に入れ積極的に行動することでそこから得られるものはたくさんあると感じた。

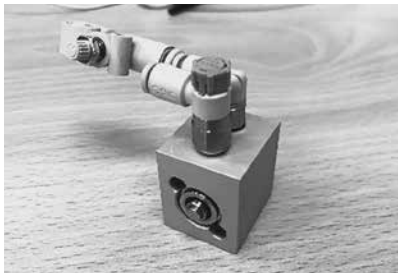
４．まとめ

日本とは環境や文化も違い、言葉も通じないタイという国で過ごした５週間はとても貴重な時間であり、かけがえのない時間であった。入試の際に何となく機械分野を選択し今まで何となく機械の勉強をしてきたが今回の５週間で機械、設計の難しさ、奥深さを実感したと同時に楽しさ、面白さも感じることができた。この貴重な体験を今後の就職活動や将来の自分の仕事につなげていけたらと感じる。

５．謝　辞

この度は私たちを受け入れてくださった IAT の谷社長をはじめ、実習を担当してくださった P'ng さん、Pond さん、機械やタイについていろいろ教えてくださった加藤さん、すべてのエンジニアの皆様、IAT の皆様並びに日本でお世話になりました松井さん、長岡さんはじめ留学生国際交流課・国際インターンシップ事務局の皆様に心より感謝申し上げます。皆様の温かく手厚いサポートにより、かけがえのない時間、経験を得ることができました。誠にありがとうございました。

６．写　真



制作した Air cylinder

学部／学科：工学部　機械システム工学科　　学年：３年　　氏名：野中　涼
実　習　先：INFINITY AUTOMATION（THAILAND）CO.,LTD.
実 習 期 間：平成 30 年 8 月 20 日～ 9 月 21 日

１．実習先の概要

所 在 地：75/6Moo 11 Phaholyothin Road, T.Klongnueng, A.Klongluang, Pathumthani12120,THAILAND

FA の自動機械及び冶具を設計し、製造している会社である。

２．実習内容

２．１ 実習スケジュール

⑴ １日のスケジュール

８：25 ～　　朝礼
８：30 ～ 12：00　午前の業務
12：00 ～ 13：00　昼休み
13：00 ～ 17：30　午後の業務

⑵ 全体のスケジュール

実習前	社長とのメールによるビジネスメールの書き方、議事録、文字の書き方の勉強
第１週	自己紹介プレゼン 社内見学、会社の説明、実習スケジュールの確認 CAD トレーニング開始（最終週まで継続） エアシリンダと空圧機器の原理、メカニズムの勉強
第２週	エアシリンダの 3D モデルと 2D 図面の作成、修正、部品発注 CAD トレーニング 社内の工作機械についての見学レポート作成 図面の管理の仕方、部品表、エアシリンダの構造、ボルトの設計方法、パッキン、はめあいや寸法公差、Excel での文書作成についての勉強
第３週	CAD トレーニング PLC 制御、空圧システムについての勉強
第４週	CAD トレーニング工場見学（Nidec） エアシリンダの部品の計測、組み立てスプリングの設計、製作、測定 各種材料についての自主勉強
第５週	CAD トレーニング 部品図作成スピードテスト エアシリンダの推力の計測、グラフ作成 最終プレゼン資料作成 最終プレゼン

また、以下の２つを毎日記入し、提出した。

１．OJT NOTE…その日にやったこと、勉強したこと、問題点、自分の考え等を記入する。
２．SKETCH TRAINING NOTE…工具や部品などをハンドスケッチする。

２．２ 実習内容詳細

⑴ エアシリンダの設計

メインの課題は、エアシリンダの設計であった。これは、内部に空気を入れるとピストンがスライドするという一見簡単そうな機構である。しかし設計するとなると、エアシリンダの原理、推力の計算式、ゴムパッキンについて、寸法公差についてなど、様々な知識が必要となる。それらを勉強しつつ､SOLID WORKS を使用して 3D モデルの作成､2D 図面の作成を行った。図面を完成させ、加工が終わって部品が届いた後、各パーツの寸法が図面と一致しているかを実際に確認し、組み立てた。組み立て後、正常にシリンダが動作するか、推力は計算値と一致しているかを実験で確認し、完成した。

⑵ PLC 制御

基礎的な機械の制御についても勉強した。PLC は、リレー回路という回路を用いて機械を制御する制御装置である。まずリレー回路の基礎を勉強した。その後、ある条件を与えられその通りに機械が動くようにプログラムを作成するトレーニングを行った。

⑶ SOLID WORKS トレーニング

SOLID WORKS のテクニック、スピード、正確さの向上を目的として、SOLID WORKS で既存の図面と同じものを作るトレーニングを行った。最終週にはテストも行った。

３．実習の感想・学んだこと

今回のインターンで私は仕事をしたわけではなく、実際に入社した際の新入社員に対する新人教育を受けた。

設計に関して、SOLID WORKS の技術やエアシリンダに対する知識など、大学の授業では学べない多くの技術に触れることができた。毎日着実に成長していることが実感でき、大きな充実感を得ながら勉強することができた。

失敗もたくさんした。１つ紹介すると、エアシリンダの内部を密封するのに使う円形のゴムパッキンがあるのだが、私はその直径を間違った値で発注してしまった。部品が届いた後組み立ての段階になってようやく気付いた。そのときは自分のシリンダだけに使う部品だったので、指導者の方が正しい部品を買いに連れて行ってくれてなんとか助かった。しかしもしこれが大量発注だったらと考えると冷や汗が止まらなかった。

また、エンジニアリングの知識だけでなく、話し方や考え方の指導もしていただいた。これが私にとってはとても有益なものであった。たとえば、「大体理解できました。」ではなく、「90％は理解できました。」と定量的に表現するべきであること。日本人はあいまいな表現を使いがちなのだそうだ。また、「どうすればいいですか？（What should I do?)」ではなく、「私はこうしたい。いいですか？（I want to do that. Can I do that?)」と自己主張をはっきりさせて話すこと、などである。生まれてから 21 年間使ってきた話し方や考え方の改善は簡単ではなく、２度３度と同じ指摘を受けてしまった。普段大学で話し方や考え方を指導されることはまずないので、とても大きな経験となった。

４．まとめ

私は大学での勉強に不安を感じていた。このまま卒業してしまって、本当に社会に出てやっていけるのか？そう思ったのが、このインターンに参加した理由である。

実際にエアシリンダを設計してみると、はめあいについてなど、大学で習った知識を使う場面が多々あった。興味がない分野なのでテストだけ乗り切ればいいやと思っていた分野の知識も出てきて、大学での勉強が無駄ではないことが実感できた。座学でしか習ってこなかった知識を取り入れて物を作っていくのは非常に楽しくやりがいがあった。また、大学で習うことは本当に基礎中の基礎であることが分かった。大学生のうちに大学で習うことくらいは身につけたい、さらに自分の興味のある分野の見聞を深めたい､と大学での勉強に対する意識が前向きになるきっかけにもなった。

また、私は最新の TOEIC のスコアが 300 点台しかなく、英語力にはかなり不安を抱えていた。しかしいざ現地で英語を喋ってみると、全く問題ないとはいかないまでも、意外と大丈夫なものである。分からないことは分からないと認めて相手に伝えること、萎縮せず積極的に会話していくことが大切であると感じた。英語力に不安があって挑戦を踏みとどまっている人は、勇気をもって一歩を踏み出してほしい。私は、参加を決断して本当に正解だったと思っている。

５．謝　辞

今回インターンシップを、ご多忙の中私たちを受け入れてくださり、５週間もの間熱心にご指導いただいた谷さん、P'ng さん、加藤さん、Pond さん、その他大勢の従業員の皆様に心より御礼申し上げます。皆様のおかげでかけがえのない経験ができました。今後の大学生活、社会人になってからと勉強を続け、エンジニアとしての自分の人生を歩んでいきたいと思います。本当にありがとうございました。

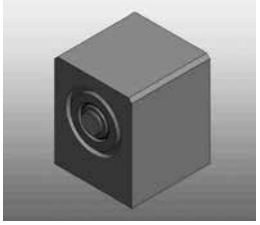


写真１　エアシリンダの 3D モデル

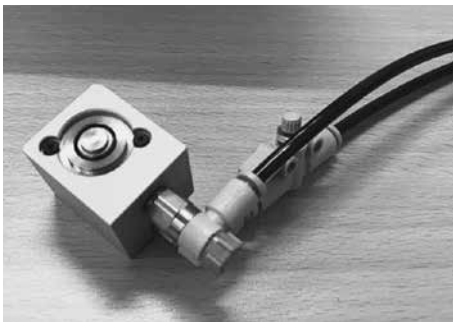


写真２　完成したエアシリンダ

写真３　個人デスク

写真４　エンジニアチーム

学部／学科：地域デザイン科学部　建築都市デザイン学科　　学年：1 年

氏名：北村　綾乃

実　習　先：NPO 法人アプカス（スリランカ事務所）

実 習 期 間：平成 30 年 8 月 20 日～ 9 月 14 日

1．実習先の概要

住　　所：27/2, Rosmead Place, Colombo 7, Sri Lanka

事業内容：視覚障害者雇用促進のための指圧マッサージサロンの運営、バウラーナ長屋再生プロジェクト、有機野菜の販売による経済格差是正

2．実習内容

2．1 実習スケジュール

午前 8 時～午後 6 時	有機野菜売り場　kenko 1st
毎週月、木曜日	野菜入荷　デリバリー
毎週土曜	Good Market にて指圧セラピー　Thusare
8 月 26 日～ 29 日	有機農場見学、Line House 宿泊体験

2．2 実習内容詳細

⑴　有機野菜売り場～ kenko 1st ～

有機野菜の品だし、仕分け、デリバリーの準備、計量、SNS を用いた広告活動、チラシ配り、営業活動、レシピ動画作成、野菜ジュース作成、掃除、事務作業、有機農場見学

⑵　指圧マッサージ～ Thusare ～

簡単な日本語を教える、訓練中の方の練習台、練習台、事務作業

⑶　長屋再生プロジェクト～ Line House ～

Line House 宿泊体験、SNS を用いた広告活動

3．実習の感想・学んだこと

私は、今回が初めての飛行機、初めての海外で不安というより楽しみな気持ちでいっぱいでした。空港に着いてから全く違う世界が広がっていて、最初は、スリランカの語気や文化に馴染めずストレスを感じたこともありました。しかし、それもだんだんとなくなっていきました。

もともと私は NPO 法人の活動に興味があり、それをしている日本人はどんな人で現地の人に実際どういった影響をもたらしているのか気になってこの企画に応募しました。そこには、ただ物資を与えるなどの一時的な支援ではなく、貧しい人や障害を持つ人々が自立できるような職業環境をつくり、それが発展していくようサポートする日本人と、現地の人主体の活動がありました。

特に印象的だったのが、Thusare での視覚障害者の方々との出会いです。視覚障害をもつ方々とあんなにふれあい、お話をしたのは初めてでした。見えないという現実がどれだけ不安か少しだけわかったような気がします。しかし、Thusare で働く方々は、誰もが生き生きとしていて自分に自信をもっていました。そんな機会を作り出したのも、NPO 法人と現地の方々でした。

この約一ヶ月の滞在で最も感じたことは、人間関係の大切さとスリランカの人々の愛情です。スリランカの人びとは、日本よりももっと親切で、優しくて、誰もが自然を愛しているように感じま

した。日本から来た私にもまるで家族のように接してくれました。日本と違ったこんな暮らし方や生き方も素敵だなと心から感じました。

また、外国に行ってみることで日本の文化など日本独自のものに気づくこともできました。

日本人の真面目さや正確さ、律儀なところなど、日本人として誇りの持てるところもたくさん発見できました。私も日本人として胸を張れる人間にならなければならないと感じました。

４．まとめ

今回のインターンシップで、私は自分の未熟さと無力さを痛感しました。渡航前は外国に行けばなにか変われるかも、と楽観的に考えていました。しかし実際は日本も外国も関係なく、私個人が成長していかなければならないということに気づきました。

また、もっとたくさんの人と出会い、お話してみたいと感じました。人脈やまわりの人との信頼関係は何よりも大切で、自分の力になるというだけでなく、そこから学べる事が数多くあると気づいたからです。そして、今まで私は、あらゆる事に受け身の体制で過ごしてきました。しかしそれだけではよい仕事はできないし、自分も成長しないということにも気づかされました。

また、以前から支援に終わりはあるのか、という疑問がありましたがそもそもアプカスの活動は支援ではなく、日本とスリランカの協働であると感じました。支援する側、される側という関係ではなく、お互いに仕事仲間として働き、それが社会全体にとってよい循環を生み出しているのではないかと感じました。

今回この企画に応募しただけで、たくさんのかけがえのない経験をすることができました。これを機に、受け身になるのはやめて気になったことには思い切って挑戦していきたいです。

今回学んだこと、感じたことを忘れずに少しでも成長できるよう頑張っていきたいです。

５．謝　辞

お忙しい中たくさんの経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

今回、私は石川さんをはじめいろんな方に頼りきりになってしまい、大変お世話になりました。それでも、最後まで優しく面倒を見てくださり、とても感謝しています。

職場の方から、友達から、石川さんから、出会ったすべての方々からたくさんのことを学び、感じることができました。

今回の貴重な経験を生かして、私も役に立てる人間になれるよう日々精進していきたいと思っています。

私がもっと成長して、またいつかお会いできたらうれしいです。

約１ヶ月間、本当にありがとうございました。

学部／学科：地域デザイン科学部　社会基盤デザイン学科　　学年：３年

氏名：六本木　晶瑚

実　習　先：NPO 法人アプカス　スリランカ事務所

実 習 期 間：平成 30 年 8 月 20 日～ 9 月 14 日

１．実習先の概要

NPO 法人アプカスは、北海道函館市に事務所をもつ NPO 法人で、2004 年 12 月に発生したインド洋大津波のスリランカ人被災者を支援するために結成された。「対話・自立・持続」をキーワードにすべての人々が、共に歩むことができる社会の実現を目指し、国内外の様々な問題に取り組んでいる。今年度は、スリランカで、災害復興支援、ゴミ問題の改善、小規模酪農や循環型農業の普及、視覚障がい者就業支援、僻地農村での地域ツーリズム拠点づくりなどの活動に取り組んでいる。

２．実習内容

２．１　実習スケジュール

▶ 8 ／ 28,　9 ／ 9 ：視覚障がい者のための指圧マッサージのサロン外での活動の手伝い

▶ 8 ／ 29 ～ 9 ／ 2：僻地農村（キャンディ）訪問

▶ 9 ／ 11 ～ 9 ／ 12：ポロンナルワ訪問

▶上記以外は、基本的に毎日、kenko1st にて野菜販売の手伝いやその他プロジェクト

2.　2 実習内容詳細

⑴　有機野菜販売店「Kenko 1st」

▷野菜販売の手伝い

▷日本人のお客さんとの交流

▷ Instagram や Facebook を用いた情報発信

新しく入荷した野菜や健康食品などを紹介

売れ残りの多い野菜や日本にはあまりない野菜の調理方法を動画にして発信

▷スリランカには普及していない野菜ミックスジュースの試作

▷事務作業

⑵　視覚障がい者のための指圧マッサージサロン「Thusare」

▷マッサージ師の方々との交流

▷マッサージ師の方々に挨拶などの日本語を教える

▷サロン外でのマッサージの手伝い（高級ホテルや観光列車内）

⑶　僻地農村訪問

▷長屋のゲストハウスに宿泊

▷ Kenko 1st で販売している野菜が作られている農家への訪問

3．実習の感想・学んだこと

▶スリランカは親日国であるということ

今回のインターンシップを通して、様々な場所を訪問し、様々な経験をした。どんな場所へ行っても、誰しもが私たち日本人に対して親切に対応してくれ、スリランカはとても親日国であるということを、身をもって実感することができた。

▶地域間格差について

インターンシップ中はコロンボの都市部に滞在していたが、その中の数日間で実際に野菜を出荷している地方の農家を訪問したりした。そこでは、シャワーがなかったり、あったとしても水しか出なかったり、と都市と農村の生活水準の差がとても大きいことを感じた。

▶ NPO について

以前まで、NPO とは「支援する側」と「支援される側」という関係性がある印象を持っていた。しかし、実際に携わってみると、主役となっているのは現地の人であり、日本人は事業の土台を作り、自立を促し、持続させていく力添えをしている様子がうかがえた。このようにどちらかが一方的ではなく、互いを尊重し合う関係性は全ての仕事において重要なことであると感じ、とても勉強になった。

▶企画したプロジェクトについて

滞在中に成果物として 2 つのプロジェクトを行った。1 つ目は、スリランカ特有の野菜の調理方法を広め、日本人のような外国人にとって身近に感じてもらうことを目的として、スネークゴードのレシピ動画を作成し、Instagram を用いて発信を行った。現地スタッフのシェフの方と協力しながら、1 つのレシピ動画を完成させることができ、達成感を感じた。2 つ目は、売れ残ってしまう野菜やフルーツを減らすことを目的として、野菜ミックスジュースの開発を行った。日本では、野菜ジュースなどは主流であるが、スリランカでは、“野菜を混ぜて飲む”という感覚が新しいものであり、現地スタッフの方に驚かれながらも、2 種類のジュースを完成させることができた。野菜の配合を何度も何度も変え、コストの算出、いくらで売るか、どう宣伝すれば興味を持ってくれるか、など様々なことを考慮し、商品化の大変さを実感した。

▶障がい者福祉について

このインターンシップを通して、人生で初めて視覚障害者の方と深く関わった。初めて訪問した時、目が見えているかのように生活していて、とても驚いた。外出時の移動の際、手を貸してサポートする機会があったが、大変だった。彼らを見ると、目が見えない分、言葉でのコミュニケーションがとても重要であることを実感した。どの方も、話してみると明るくておもしろくて、こういった方々と関われたことは、とても良い経験となった。

▶「報告・連絡・相談」の重要さ

これはよく野菜を買いに来る大阪の企業の社長さんから教わったことだが、この「報告・連絡・相談」がしっかりできるのは日本人だけだから、この日本人の誇りをもち、これがしっかりできる社会人になるよう激励されたのがとても印象的だった。

４．まとめ

私は、今回のインターンシップを通して、発展途上国とはどんな国なのか、を直接肌で感じることや、海外で活躍するNPO団体に興味があった、ということを目的としていた。スリランカに４週間滞在し、自分がスリランカ人の生活スタイルに順応していく感覚が新鮮だった。将来的に、このような途上国で仕事をする可能性があることを考えると、とても良い経験となった。また、NPO団体の活動の重要さや、社会貢献の大切さを考えるキッカケとなるようなプログラムであった。これから就職活動を行うにあたって、この社会貢献という視点からも企業選びを行いたいと思った。

５．謝　辞

NPO法人アプカスの伊藤様、現地にて生活のことから実習まで幅広くご指導していただいた石川様、ならびに現地スタッフの方々、この度はお忙しい中、私たちを温かく受け入れてくださり、様々な場所で貴重な経験をさせていただいたこと深く感謝申し上げます。これからも今回のインターンシップでの経験を生かし、立派な社会人になれるよう努めていきたいと思います。大変お世話になりました。

平成 30 年度　春期報告書

学部／学科：国際学部　国際学科　　学年：2 年　　氏名：永吉　いずみ
実　習　先：フエ外国語大学
実 習 期 間：平成 31 年 2 月 25 日～ 3 月 15 日

1．実習先の概要

実 習 先：フエ外国語大学
住　　所：57 Nguyen Khoa Chiem, Huecity
事業内容：教育

2．実習内容

①日本語学部の授業見学・サポート
②作文の添削（希望に応じて）
③日本文化紹介（希望に応じて）
④学生の補助

2．1 実習スケジュール

※スケジュールは日ごと、週ごとに異なる。
1・2 コマ　　7：00 ～ 8：40
3・4 コマ　　9：00 ～ 10：40
5 コマ　　11：00 ～ 12：50　お昼休み
6・7 コマ　13：00 ～ 14：40
8・9 コマ　15：00 ～ 16：40　（16：45 完全終了）

表1　3 月 7 日のスケジュール

9：00 ～ 11：00	観光日本語の授業にて日本文化紹介
11：00 ～	昼休み
13：45 ～ 16：30	実習翻訳の授業（3 コマ連続の授業）
16：30 ～	学生のスピーチコンテストの手伝い
17：30	帰　宅

2．2 実習内容詳細

⑴　日本語学部の授業見学・サポート

日本語学部の授業にて、見学および会話のサポートに入る。日本語学部の授業は、日本語の初級クラス、日本語文法のクラス、日本語会話のクラス、日本語翻訳のクラス、ビジネス日本語のクラス、コンピュータを使う IT 日本語のクラスなど様々である。基本的に実習先から授業を指定されることはないため、自分が興味のある授業を選んで自由に見学することができる。見学中は座りながらでも立ちながらでもできる。会話のサポートは授業の内容に合わせて随時行う。

図 1 ⑴　授業『実践翻訳』サポートの様子

⑵　作文の添削（希望に応じて）

学部の学生が書いた作文を添削する。作文といっても、だいたい 200 字～ 400 字程度のものである。添削をする時間は、特に指定されないため、空いた時間に自由に行うことができる。また、作文を添削する量は担当の先生と相談して決めるため、たくさん添削したい場合はたくさんできるし、あまりしたくない場合は少なくすることもできる。

⑶　日本文化紹介（希望に応じて）

日本文化について自由にプレゼンテーションをする。時間も内容も自由なため､自分がやりたいと思った内容で紹介できる。また、学部には日本文化室があり、そこにはお茶をたてる道具や、浴衣もあるため、紹介したいものを日本から持っていかなくても大丈夫かもしれない。（要確認）

図２⑶　日本文化紹介の様子

⑷　学生の補助

私の場合は、日本語のスピーチコンテストに参加する学生の補助（発音の修正や、アクセントの修正など）を行った。他にも、時期によってはキャンプ（合宿）の手伝いや、文化祭への参加もできると思う。

３．実習の感想・学んだこと

実習の感想、学んだことについてはたくさんあるが、主に感じたことを２点述べたいと思う。

まず学んだこととしては、日本語教師の仕事は１人の力でできるものではないということだ。実習に行く前に、私は日本語教育プログラムの授業の中で、教材を作成したことがあった。その際には１人で作成したので、今回の実習でも１人で作成しようと試みた。しかし、「ここはどのように表現したらいいか」といったことや､「どうやって授業を展開していくか」という疑問にぶつかった。そうした時、周りの他の先生方に相談してみた。すると、先生方は自分では思いつかなかったアイディアを提案してくれた。このような経験を通して、日本語教師の仕事は１人でできるものではないということに気がついた。複数の先生方の考えや技能をお借りして仕事をするものだということが分かり、チームワークをしながら勤める職業なのだと初めて実感した。

感想としては、実習先の環境がとても良かったということが一番印象に残っている。フエ外国語大学の先生方はとても優しく、常に支援してもらいながら実習を行うことができた。たとえば、授業の担当を割り当ててくださったときには、「好きなようにやってください」とお声がけいただき、実際に私が実践している時には、自由にやらせてくださった。そして、私の日本語の指示をベトナム語に翻訳して、進行をサポートしてくださった。また、先生方だけではなく、学生のみなさんも私に優しく接してくれた。未熟な私の日本語指導に対して、少し混乱しつつも、意味をくみ取ろうと努力してくれた姿がとても印象に残っている。

このように、周りの人たちが私の実習を温かく受け入れてくれるような、恵まれた環境で実習ができたことを本当にうれしく思う。

４．まとめ

今回、フエ外国語大学で実習した経験は、私の将来のキャリア決定の上で十分役立つと思う。私はこの実習に行く前まで、日本語教師の仕事の現状をほとんど知らなかった。しかし、今回実習を行ったことで、あらかじめ理解していた業務内容はもちろんだが、目に見えない仕事内容についても理解を図ることができたと思う。具体的に言えば、学生のための教材作成の時間、作文添削、成績評価などを業務時間外でも行わなければならないことだ。つまり、日本語教師の職業は、指定された業務時間の中に収めることは難しく、大変な職業であるということが分かった。しかし、そのような大変な職業であると分かった一方で、やりがいを知ることもできたと思う。たとえば、一生懸命準備した教材を学生の前で見せたときに、反応が良かったり、楽しんでくれたりすると、こちらも嬉しい気持ちになる。このようなことは、自分が身を持って体験したからこそ得られたものだと思う。そのため､今回の実習経験は自分のキャリアを決定するうえでとても参考になると思うし、キャリアを決定し、実際に就職した後での想像していたことと現実のギャップに悩むということも無くなるのではないかと感じる。

５．謝　辞

フエ外国語大学日本語学部のみなさま、この度は３週間の実習を受け入れてくださってありがとうございます。学部長のチャー先生をはじめ､様々なサポートをしてくださったトゥーハー先生、また、私の担当についてくださり、授業の調整や先生方への連絡をしてくださったビック先生には特にお礼を申し上げたいと思います。

今回私は１人での実習とのことで、不安なことや心配なことが多々ありましたが、学部のみなさまが優しく声をかけてくださり、実習中の様々な悩みを解決することに大変な努力をしてくださいました。そのおかげで、３週間、本当に楽しみながら、貴重な経験を積むことができました。

そして、実習以外の場で先生方と楽しく交流する場を設けてくださったこと、フエ外国語大学の学生さんと交流する機会を与えてくださったこと、大変嬉しく思います。

また、こちらが体験させていただく立場であるにもかかわらず、先生方は私が授業に関わると、感謝の言葉をかけてくださり、そのこともまた大変嬉しかったです。

さらに、未熟な私に様々なチャンスを与えてくださったこと、そして、挑戦している間は見守るだけではなく、サポートをしてくださったおかげで、充実した実習にすることができました。実習中には、何度か急なお願いをいたしました。その際には、大変ご迷惑をおかけしたことかと思います。申し訳ありません。ですが、どんなときでも温かく見守ってくださった先生方へ感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

学部／学科：国際学部　国際学科　　学年：２年　　氏名：堀越　桃奈
実　習　先：たんぽぽ保育園
実 習 期 間：平成 31 年３月２日～３月 14 日

１．実習先の概要〈たんぽぽ保育園〉

所在地：ベトナム　ダナン

１～５歳児が通い、日本式教育を取り入れた保育園。姉妹校は大阪府生野こもれび保育園。

２．実習内容

２．１ 実習スケジュール

H31.3／1	成田発　ベトナム　ダナン着
.3／2	実習初日　芋掘り
.3／4～	1 歳児担当　ichigo クラス
.3／7	活動日　手遊び歌　とんとんとんとんひげじいさん　げんこつやまのたぬきさん
.3／8～	3 歳児担当　ringo クラス
.3／13	活動日　音楽　手作り太鼓とおもちゃのチャチャチャ
.3／14	実習最終日　ベトナム　ダナン発
.3／15	成田着

２．２ 実習内容詳細

1 日の流れ

登　園	
食事（朝食）	園児の食事補助、片付け
朝の会	園児と一緒に朝の歌を歌う・水分補給
運動会の練習　外活動	運動会で披露するダンスの練習（園児の手本として踊る） 園庭にて遊具や砂場などで遊ぶ
着替え	1 歳児：着替えの補助、トイレ補助 3 歳児：着替えの補助、荷物の整理
食事（水分）	園児の食事補助、片付け
室内活動	教室内にておもちゃや積み木、粘土などで遊ぶ
給　食	給食の準備、園児の食事補助、片付け、歯磨き
昼　寝	教室内の清掃・簡易ベッドの準備、片付け
食事（おやつ）	園児の食事補助、片付け
放課後活動	帰りの準備・保護者の迎えを待ちながら教室内で遊ぶ
降　園	

※担当クラスによって多少異なるものの、大まかな実習内容は同じであった。
また､1歳児クラスは､3歳児クラスよりも着替えの補助やトイレ補助が多く､一緒に遊ぶ時間は短かった。
実習初日の芋掘りでは、園児たちの引率と収穫した野菜の選別をした。

３．実習の感想・学んだこと

この実習を振り返ると、常に悩み考えることが多かった実習だった。初めて、海外でインターンシップ

を行うことへの不安や慣れない保育業務に携わることへの緊張感など様々な想いを抱えながら実習に参加した。とりわけ、先生や園児とのコミュニケーションの取り方に悩んだり、日本とは異なるベトナムの子どもたちを取り巻く環境や問題などについて深く考えたりすることが多々あった。特に、私は、ベトナムも含め、他国の子どもを取り巻く教育事情に関する知識がなかったため、非常に驚きや衝撃を受けることが多々あった。しかしながら、こうした悩み考えた経験は、決して無駄ではなく、むしろ非常に有意義であったと感じる。反省と改善を繰り返すことで、試行錯誤をしながら取り組むことの大切さを学ぶことができた。さらに、自分に足りない知識を再確認することができ、帰国後の学びに生かすことができた。

また、この実習より、保育士という職業の大変さとやりがいを実体験を通して学ぶことができた。ただ、「子どもが好き」という生半可な想いでは、務まらない非常に大変な職業であることがよくわかった。また、それと同時に、園児と仲良くなるにつれて、やりがいを感じることができる職業であることもわかった。私の母は元幼稚園教諭であり、当時の様々な話を聞いていたため、実習前は不安でいっぱいであったが、実習を通して、自分にもできること、進んで取り組めることなどを知ることができ、自信につながった。一方で、不得意なことや向いていないと思われることも見つかり、改めて自分を知る良い機会となった。

さらに、私は実習中に一度、体調を崩してしまった。体調管理の大切さをひどく痛感した実習でもあった。実習中に体調を崩すということは、実習先にも迷惑をかけるということである。また、慣れない地で自分も苦しめられる。海外で生活するときは、日頃より、一層、体調管理に気を配ることが大切であると痛いほど学んだ。今後、海外渡航をする際は、体調管理に気を付けたい。

4．まとめ

今回、国際インターンシップに参加し、私は非常に有意義な経験をすることができた。今回の経験は、今後の将来だけでなく、大学内での学びにも大きく役立つであろうと感じた。実習を終えて、新たな目標ができた。それは、児童心理を学ぶことだ。今回の実習の中で、私は児童心理を学び、子どもたちの心の中を知りたいと強く思うようになった。なぜ、子どもたちはこのような行動をとるのだろうか、子どもと関わる大人たちの振る舞いや言葉はどのようなものが適切なのだろうか、子どもたちを取り巻く環境において、子どもたちはどのようなことを感じているのだろうか、など様々な知りたいことや疑問を抱いた。言葉はわからなくても、通じなくても、子どもたちの行動から心の中を知りたいと思うようになった。実習中、ベトナムの子どもたちを取り巻く環境は決して、良いものではないということを知った。最近の日本でも、児童虐待が増えており、社会問題化している。国は違えども、子どもを取り巻く環境には、まだまだ問題や課題が山積みであると感じた。次世代を担う子どもたちだからこそ、彼らには大人の怠慢で簡単に傷ついてほしくないと思った。心理学は大学内での学びの専攻分野ではないものの、新たな興味関心をもたせ、視野を広げてくれたこの実習は非常に有意義であった。

5．謝　辞

この度は、国際インターンシップという非常に有意義であり、貴重な経験の場を設けてくださり、ありがとうございました。2週間という短い間ではありましたが、保育園での経験は、どれも何物にも代えがたいものでした。お忙しい中、実習日誌のコメントを書いてくださり、励ましや叱咤のお言葉をくださりとても嬉しかったです。また、自分自身と向き合い、これからの将来を見つめなおす良い機会になりました。たんぽぽ保育園の皆様、有本さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

また、渡航前から帰国後まで、様々な面で御支援してくださった国際インターンシップ事務室の御二方には、心より感謝申し上げます。

図1　活動の様子
（1歳児　ichigo クラス）

図2　クラス写真
（3歳児　ringo クラス）

学部／学科：国際学部　国際学科　　学年：２年　　氏名：中村　茉央
実　習　先：たんぽぽ保育園
実 習 期 間：平成 31 年３月２日～３月 14 日

１．実習先の概要

所在地：ベトナム、ダナン。

事業内容：日本式の教育システムが取り入れられているため、海外赴任の子連れの家族も安心して通わせることができる。塗り絵や貼り絵といった情操教育も重視し、給食にも力を入れ、多種のメニューを用意している。広い教室での少人数クラスを実現し、園庭も完備している。

園長先生及び数名の先生方は日本語が堪能なため、ベトナム語だけでなく日本語での対応も可能である点もたんぽぽ保育園ならではの強みである。

◎ベトナムの教育事情

現在、ベトナムは経済成長真っ只中であり、世界的にも非常に発展してきている国の一つである。町は人々の活気で溢れており、子どもたちも元気で明るい。同様に、保護者も将来に向かって仕事や子育てに励んでいる。その一方で、ベトナムでは、親が育児にあまり携わっておらず、お金持ちの家庭は家政婦に育児を頼っているという現状がある。それに加え、その家政婦から虐待を受けている子もいるとのことである。朝昼は保育園で食事を提供しているので、一緒に過ごす時間は夕飯、お風呂と就寝であるにもかかわらず、お迎えには私用で遅れて来たり、休日も土曜保育に頼る、または夜遅くまで外出しているため、体調を崩してしまう子もいる。こうして親に甘えられなかった心の傷を、自分の子どもにも同じことを繰り返す、負のサイクルとなってしまっているのである。

また、子どもたちはバイクでの送り迎えのため足腰が弱い。さらに、離乳食時期に大量のおかゆを食べさせられていたため、食事に関心がないのである。机や床にこぼすのは当たり前になっており、時に友達になすりつける姿も見られた。

加えて、家であまりコミュニケーションがとられていないため、話をするときに目が合わないことがあったり、たたいたり、つねったりを繰り返す子もいる。それは家でなかなか遊んでもらえないことや、しつけが不十分であることが理由として考えられると伺った。

このようなベトナムの教育事情には、インターン実習中にも非常に考えさせられた。上記のことを踏まえながら、以下の報告書を記述する。

２．実習概要

２．１　実習スケジュール

⑴ 1 週目（3 月 4 日～ 3 月 7 日）：2 歳児（ももクラス）

⑵ 2 週目（3 月 2 日、3 月 8 日～ 3 月 14 日）：4 歳児（ぶどうクラス）

※ 3 月 2 日はお芋堀に参加。

表１　実習スケジュール

クラス	時間	実習概要
もも	７：45	保育園に到着
	８：00	朝食の補助
	８：20	外活動（ダンス、外遊び等）
	９：30	飲み物・ジュースタイム
	10：00	教室内遊び （歌、ブロック、パズル等）
	10：50	片付け・給食配膳
	11：00	昼　食
	12：00	お昼寝タイム
	14：30	起　床
	15：00	おやつタイム
	15：30	教室内遊び （お絵描き、ブロック等）
	17：00	帰　宅

クラス	時間	実習概要
ぶどう	７：45	保育園に到着
	８：00	朝食補助
	８：20	教室内活動 （歌、体操、ダンス、塗り絵等）
	10：00	ジュースタイム、 外活動（運動会練習、外遊び）
	11：00	着替えタイム
	11：15	給食配膳
	11：30	昼　食
	12：30	お昼寝タイム
	14：30	起　床
	15：00	おやつタイム
	15：30	教室内活動 （ダンス、お絵描き等）
	17：00	帰　宅

補足：たんぽぽ保育園は日本式の教育システムを取り入れており、歌やダンスに加えて、運動会や年一回の遠足なども行われている。1 歳児から 5 歳児までの計 11 クラス、約 250 人が通っている。朝は 8 時 5 分を最終入園とし、朝食を提供している。午前中に外での活動が行われ、途中にジュースタイムをはさみ、11 時には昼食の時間となる。昼食後は 2 時半までお昼寝タイムがあり、放課後活動を経て、5 時には最終下校となる。

2．2 実習内容

⑴ 実習活動

① ももクラス

・ぞうさん

日本の童謡“ぞうさん”の音楽に合わせながら、ふりつけをつけて一緒に踊った。最初は私が曲をかけながら踊り、その後、先生方にお手伝いしていただきながら、クラス全員で楽しむことができた。

・まねっこ遊び

私が様々な動物に変身して、子どもたちに真似をしてもらった。真似してもらう動物には、一目でわかりやすく、子どもたちが知っていそうなウサギ・ゴリラ・カエル・ヘビを選んだ。私が変身した後に、「これな～に？」とクイズ形式にすることで、何の動物かわかった上で真似してもらうということも試みた。最初はゆっくりと 4 つの動物の動きを繰り返していたが、最終的には動きを早くしてみることで、子どもたちの注意を惹けて、楽しく活動を行うことができた。

② ぶどうクラス

・手遊び歌『グーチョキパーで何作ろう』

日本でも有名な手遊び歌であり、子どもたちも少し知っていたことからこの手遊び歌を活動の導入として行った。最初は慣れ親しまれているカタツムリ、カニ、蝶々、ヘリコプターを一緒に作った。その後に、自主性の向上のため、新たなレパートリーを子どもたち自身に考えてもらい、挙手制で発表してもらう形を取り入れた。与えられた 30 分の時間

のうちで10分を目安として考えていたが、思った以上に盛り上がったため、少し時間が伸びてしまい、次のロンド橋の時間が少なくなってしまった。どのタイミングで切り上げるかなど、もっと時間を意識した行動が必要であったと反省している。

写真１　手遊び歌の活動風景

・ロンド橋

鬼二人（先生方）が手をつないで橋を作り、その端の下を円陣になってくぐるようにした。最初は３つのグループに分け、実際に動くことで全員がルールを理解できるよう活動計画を立てた。最終的には、クラス全員参加かつ橋の数の増加（一回に２人捕まえることで子どもたちにも橋をつくってもらう）をして、笑顔で楽しく活動を行うことができた。先生方にもお手伝いしていただき、ルールをしっかりと守ってできたことも良かった。しかし、私のゲームの締め方への考えの甘さから、終わらせ方が曖昧になってしまったことが悔やまれる。

写真２　ロンド橋の活動風景

⑵　食事の補助（朝・昼・おやつ）

もも、ぶどう両クラスで食事の補助をした。あまり食べない子に食べてもらうようにするにはどのようにしたら良いのか、非常に苦戦した。口に持っていくと拒否する子もおり、無理に食べさせることに抵抗があったためである。他の先生方の周りで食べている子は早めに食べ終わるが、私の周りは遅くなってしまうことが多々あり、先生方のお世話になってしまうことがあった。『食べて（ベトナム語ではアンディー）』という言葉を教えていただき、子どもたちに伝えてみたが、かえって面白がって食べない子がいたときは本当に難しかった。できる限り楽しく、自分から食べるようになってほしかったため、食べる瞬間をしっかりと見て褒めたり、食べ終わった後にハイタッチをするなど、少しでも多く食べてもらえるように子どもたちに接するようにしていた。

写真３　ももクラスでの食事風景

写真４　ぶどうクラスでの食事風景

⑶　教室内での活動

①　ももクラス

２歳児では、朝の歌を歌ったり、ブロックで遊ぶことやおままごとをすることが多かった。先生

写真５　おもちゃ遊びの風景

写真６　紙芝居を聞いている風景

方が２つのグループに分け、それぞれ違う遊びをさせていた。一人ひとりに遊び道具が割り当てられるよう、少しずつ子どもたちに渡していた。食事前や帰宅前などでおもちゃを片付けるために、片付ける歌を歌い、子どもたちが自ら片付けるようにしていた。

② ぶどうクラス

４歳児では、ももクラスと同様、朝の歌を歌ったり、ブロック遊びなどの時間もあったが、主にダンスやお絵描きをする様子が見受けられた。また、今日の日付を答える練習や塗り絵をする時間があり、塗り絵ではしっかりと細部まで塗れているかをクラス全員分、先生方がチェックしていた。さらに、先生が紙芝居を読む時間もあった。午前中及び放課後には、ももクラス以上に教室内でダンス練習をする時間も多くあった。

写真７　お絵描きをしている風景

写真８　朝の会の風景

⑷ 教室外での活動

① ももクラス

朝食終了後が外での活動時間であった。外に出るときに靴を履き替えるのだが、自分で履けない子にどこまで補助をするかの判断が難しかった。外では、１・２歳児が集合し、合同でダンス練習を行ったり、園庭の遊具で遊んだりした。どの遊具の近くにも必ず先生が一人つき、子どもたちを見守っていた。お花をくれる子や、手を引いて一緒に遊んでくれる子がおり、教室内とは違い、活発に遊びたくさんの笑顔を見ることができた。

写真９　外遊びの風景

写真 10　ダンス練習の風景

② ぶどうクラス

教室内での朝活動後、外での活動であった。ももクラスと同様、園庭で遊ぶ日もあったが、運動会で行うバルーンを練習したり、ダンスをしたりする時間が多かった。バルーン練習では、動画を撮ったり、簡単な動きを一緒にやるなどした。また、リレー練習もあり、一人ひとりの姿を写真に収めることができた。子どもたちを応援している際、頑張っている姿を間近で見ることができ、一週間でも成長が感じられて感動した。

写真 11　バルーン練習の風景

写真 12　リレー練習の風景

⑸　おやつ・昼食の配膳・片付け

食事の配膳では、その日の児童数に合わせて、食器を給食室から教室に運ぶ。それに加えて食事も運ぶので、一人で一度には運びきれない量である。そのため、先生１人と一緒に食事の入ったかごやスープなどを運び、一度に運ぶことができた。その時、少しばかりではあるが、先生方と挨拶や会話ができる機会があったので、食事の配膳は毎回楽しみであった。

ももクラス及びぶどうクラスでもお手伝いをさせていただいたが、食器数が日によって異なることや、食器を洗浄する場所、残飯を片付ける場所をなかなか覚えられず、配膳室の方に場所を教えていただくこともあった。

３．実習の感想・学んだこと

「子どもに寄り添うと簡単に言葉にできない。」私がインターンを通して強く感じたことである。私は子どもと関わる職業に関心があり、海外の子どもたちとは日本であまり接する機会がなかったため、たんぽぽ保育園をインターン先として選択した。しかし、大きく３つの壁に直面した。

１つ目は、子どもたちと遊びながら先生方の補助をすることである。子どもたちに悪いことは目を見てしっかりと注意して伝えること、そして全員と平等に接しようと実習中に心がけていた。しかし、視野が狭かったため、子どもたちと遊んでいると、給食の配膳や教室の掃除など先生方が動き始めるのに気づくのが遅くなってしまうことがあった。そのため、周囲への配慮を課題とし、素早い行動が必要であると学んだ。

２つ目は、子どもとの接し方である。ベトナムの教育事情は、特に親子間で日本とは異なる点があったため、多様な視点を持ちながら接することが求められた。例えば、靴や洋服も保育園用ではないようなものを身に着けている子がいたことや､先生が話をしていても目が合っていなかったり、違うことをし始めてしまう子もいた。さらに、障害を持った子もいて、行動が読めないことから、どう側にいて寄り添えるのかが本当に難しかった。その理由の一つとして、親子間であまりコミュニケーションが取れていないことにあると聞き驚いた。そのため、保育園にいる間はできる限り愛情を注いで、たくさん子どもたちと触れ合えるようにしていた。しかし同時に、家ではどう過ごしているのだろうと感情が入ってしまい、悲しくなるときもあった。ゆえに、家庭環境も理解しながら、どのように子どもたちに向き合っていくかという気持ちが大切であると強く感じた。

３つ目は言語の壁である。これは特に注意しなければいけないときに感じた。普段一緒に過ごしているときはジェスチャーで通じることが多かったが、悪いことを伝えなければいけない状況で、表情では難しかった。余計に面白くなって悪化してしまうこともあり、他の先生方にお世話になることがあった。先生方が注意をすると伝わるため、そのときは自分の実力不足を感じるとともに、伝わらないことが非常に悔しかった。ジェスチャーで通じ合えることもたくさんあったが、保育園の先生として大切な、子どもの成長の手助けを言語の壁で伝わらないという経験が、今回の実習で非常に悩んだ点であった。そのため、“根気”と“忍耐”、“努力”ということが言語の壁を無くしていく上で必要であると学んだ。

４．まとめ

私にとってのたんぽぽ保育園でのインターンは“感謝”である。海外でインターンをすることは、初めてであることもあり、仕事面、生活面に不安があった。気候にも慣れず、2・3日は体調を崩してしまうこともあった。そんな時に、有本家の皆様が生活面でも精神面でもサポートして下さっ

たことは本当に救われた。おかゆを作って下さったり、悩みを打ち明けやすい環境にして下さったり、どれだけ感謝してもしきれない。保育園でも、先生方が、「無理だけはしないで、楽しんでね」と言葉をかけて下さったり、仕事でうまくいかないときは「大丈夫」と言ってフォローして下さったりと何度も助けていただいた。子どもたちも、初めて教室に行ったときから受け入れてくれた。なかなか気持ちが伝わらないときもあったが、笑顔を見せてくれたり、手を振ってくれたり、ハイタッチしてくれたりと、一つ一つの行動が可愛くて癒されて、私の心の支えであった。

インターンをするまで、将来が想像できず、何とかなるだろうと安易に考えていた。世の中にどんな職業があるかも真剣に考えておらず、自分の甘さを身に染みて感じた。しかし、たんぽぽ保育園でのインターンの日々で“働く”ということを本気で考えるようになった。

仕事は楽しいだけでは続かない。働くには責任も伴うし悩むこともたくさんあるだろう。しかし、何をするにも一人ではできないということも今回のインターンを通して学んだ。国際学部は視野を広くしようとよく言われるが、自分が見えていないところは、他の誰かが見つけて補っているのである。つまり、“働く”中で、自分には何ができるのか、また不足していることは何かを見つけることが大切であるのではないかと考える。私自身、まだまだ未熟で、大変なことから目を背けてきたことがあったと省みる。何かを成功した裏には必ず誰かの助けがあり、それに気づき感謝の気持ちを持って次のステップに進むことが大切であると考えられるようにもなった。さらに、自分の中で、“働く”ということを経験し考えられたことが、インターンでの大きな成果である。これからどんな職業選択をするか、まだ不明瞭ではあるが、自分自身としっかり向き合い、何事にも“感謝”の気持ちを持ちながら、後悔のないように将来を切り開いていきたい。

5．謝　辞

この度は、私たちを温かく受け入れてくださったたんぽぽ保育園のリン園長先生、ハン先生をはじめ、実習を担当してくださったももクラス、ぶどうクラスの先生方、そして園内及び日常生活までサポートをして下さった有本様とご家族の皆さま、大変お世話になりました。仕事の覚えや行動が遅く、たくさんのご迷惑をおかけしたのにも関わらず、丁寧にご指導くださいまして誠にありがとうございました。おかげ様で、仕事をする上での責任及び広い視野をもつ重要さを知ることができ、貴重な経験をさせていただきました。2週間という短い期間でしたが、今までの人生の中で一番濃い2週間でした。また、インターンのために様々な準備をしてくださった留学生国際交流課の長岡様、栗原様、そしてインターンをするにあたり、応援してくださったすべての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

写真 13　ももクラス集合写真

写真 14　ぶどうクラス集合写真

学部／学科：農学部　森林科学科　　学年：2 年　　氏名：野村　佐和子
実　習　先：Insar Tours & Travel Sdn.Bhd.
実 習 期 間：平成 31 年 2 月 25 日～ 3 月 8 日

1．実習先の概要

今回の実習先である Insar は、マレーシア・サラワク州にある日本人向けの旅行会社である。旅行者だけでなく、テレビ局の映像班といった一般的な旅行会社とは異なる顧客もおり、業務内容は多岐にわたる。

2．実習内容

2．1 実習スケジュール

実習中、以下のスケジュールで実習を行った。

1 日目（2 ／ 25）　業務説明、マレーシア人スタッフへ日本の観光地の紹介
2 日目（2 ／ 26）　オペレーション業務の説明、来客応対
3 日目（2 ／ 27）　アペン山国立公園内の植林活動地の視察、クチン空港からホテルチェックインまでの補助
4 日目（2 ／ 28）　日本の大学とサラワクの大学間で行われるプログラムのためのクチン周辺の観光地の案内補助
5 日目（3 ／ 1）　スリアンの小学校での植樹祭の補助、苗を育成しているトンニボン村訪問
6 日目（3 ／ 2）　アペン山国立公園における植林の補助
7 日目（3 ／ 4）　コンベンションビューローについての説明、Borneo Convention Centre Kuching（BCCK）の見学
8 日目（3 ／ 5）　Kuching Visitor Information Centre において研修
9 日目（3 ／ 6）　バス会社において業務体験、バードウォッチングツアーの日程作成
10日目（3 ／ 7）　バードウォッチングの専門家へインタビュー、作成中のツアー日程の修正
11日目（3 ／ 8）　ツアー日程作成終了、インターンシップの総括の準備・発表

2．2 実習内容詳細

⑴　事務所における業務について

事務所では業務について説明を受けたりツアーを理解するためにツアーガイド向けの教本を読んだりしていた。また、マレーシア人のスタッフに簡単な日本語を紹介した。

⑵　クチン周辺の観光地の案内について

ある日本の大学がサラワクでのプログラムを始めるということで、クチン周辺に立地する観光地の案内にアシスタントとして同行した。私が訪れたことのある観光地が多く、施設を利用した感想を伝えることで役立つことができたと感じた。

⑶　植林事業について

ボルネオ熱帯雨林プロジェクトの一環で行っている事業で、伐採で荒れた森林を原生林に戻すための植林活動である。アペン山国立公園はその活動により国立公園となった地域であり、

管理は近隣に住む村の方々が行い、指導や支援を行っている。３日目の視察は６日目に行われた植林イベントの準備の進行具合を見に行ったものである。イベントでは朝早くに出発し準備を、イベント終了後には片付けを補助した。イベントは近くの小・中学生、高校生や大学生や企業の方など、幅広い層が訪れていた。

⑷ Kuching Visitor Information Centre について

１日のみ体験という形で案内所にお世話になった。業務内容としてはセンターを訪れた旅行者の話を伺い案内やアドバイスをすること、クチン空港に設置しているパンフレット棚の管理・補充などである。旅行者への案内はクチンやサラワクについてや交通機関に詳しい必要がある仕事であったので、私は携わることができなかった。また、空港の棚にパンフレットを補充したとき、美しく見えるようにレイアウトを考えて置いているのが印象的であった。

⑸ バードウォッチングツアーの作成について

私の趣味がバードウォッチングということで、担当の方から、サラワクでのバードウォッチングのツアーの作成を打診されたため、取り組むこととなった。サラワク州は自然が豊かで鳥類の種数が多く、バードウォッチングも多く行われている。パンフレットや本を参考にしながらプランを練り、酒井社長の知り合いでバードウォッチングに詳しい方に事務所に来ていただき、詳しいお話を伺うことができた。実際にその土地でバードウォッチングの経験のある専門家の方に伺うことで、パンフレットでは分からないその土地の様子を知ることができた。

ツアーのプランを立てることは思いの外難しく、何日のツアーにするのか、どこに宿泊するのか、最も効率の良い移動の順番はどれか、どこにどの時間帯で訪れると何の鳥が見られるかなど、考慮するべき項目が非常に多く、個人の旅行を企画するのとは違うのだと実感した。また、日程表についても工夫があり、字体や書き方など学ぶことが多かった。

３．実習の感想・学んだこと

実習を通して学んだことは業務についてや精神面、学業面についてなど非常に多く、全てを書くことはできない。とくに心に残ったことは２つある。１つ目は植林事業についてである。原生林へと戻すことは熱帯で樹木の成長が早いとはいえ長い時間がかかる。この活動を成功させるにはその地域の近隣住民が自ら植林事業に取り組み森林を管理していく必要があるのだが、実際問題として利益が出ないと活動する意欲が続かないという問題がある。住んでいる人にとってはその森は利用可能な森林であり、原生林へと戻すよりもこのまま使い続けたいという気持ちがあることや、植林はお金になるわけではないために行う意味がないという考えがある。そのため、数年後利益になるような果樹を空いているスペースに植えたり、定期的に村を訪れて話を伺うなど、近隣住民に植林に参加してもらうための工夫をしていることが分かった。私は植林のネックが近隣住民であるとは想像していなかったため、非常に驚いた。諸問題について知ると、なるほど確かに原生林でない方が住民にとっては良いことであると思った。その上でどのように継続して管理してもらうかというのはとても難しい問題であると感じた。

図１　アペン山国立公園内の苗畑

２つ目は英語を話すことについてである。元々英語に苦手意識があった私は、英語を使うことにためらいを感じていた。しかし本当はそのように感じる必要はなく、発音が上手でなくても、文法が間違っていても、話して伝えようとすることが重要であると考えるようになった。これまで日本で英語を使う機会があったのは大学の入試のような間違ってはいけない場面のみであったが、会話で英語を使う時は話し相手に伝わることが重要で、必ずしも文法などが合っている必要はない。いかに伝わる英語を話すかということが課題であると理解した。

４．まとめ

今回のインターンシップの目的のひとつであった、サラワクをもっと知ることは達成することができたと思われる。また、インターンシップによって外国に住む・働くイメージが明確になり、より現実を理解できるようになったと思う。英語を使うことについても前章で記したとおりハードルが下がった。インターンシップで得た、これらの貴重な経験を今後の生活に活かしていきたい。

５．謝　辞

お忙しい中、２週間のインターンシップを受け入れていただいたこと、酒井社長を始め、Insar の社員の皆様に御礼申し上げます。また、御自宅を宿舎として提供してくださった酒井社長には業務時間外にも大変お世話になりました。また、社外での業務でお世話になりました、日本からいらっしゃった先生方、STB の皆様、バス会社の皆様、バードウォッチングの専門家の方、日本でお世話になった宇都宮大学の職員の方々、そのほかすべての関わった方に改めて深くお礼申し上げます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

学部／学科：国際学部　国際学科　　学年：2年　　氏名：山崎　香菜
実　習　先：INSAR TOURS & TRAVEL SDN.BHD.
実 習 期 間：平成31年3月11日～3月29日

1．実習先の概要

1．1 所 在 地：マレーシア　サラワク州　クチン

1．2 設　　立：1994年

1．3 事業内容：パッケージ・ツアー、手配旅行、植林ツアー、現地の中学校、高等学校、大学との文化交流・ホームステイ、国際会議やイベントのコーディネート、テレビや映画の撮影取材コーディネートなど。主に日本から来る旅行者の手配をしている。

2．実習内容

2．1 実習スケジュール

8 ：00	出　社	
～12：00	平常業務	
12：00～13：00	お昼休憩	
～17：00	平常業務	
17：00	退　社	（事務所で勤務の場合）

2．2 実習内容

3／11	日程説明、会社説明、観光産業の概略や業務の概要説明 空港↔ホテル送迎	3／21	空港↔ホテル送迎、チェックインアシスト 平常業務
3／12	平常業務	3／22	Secondary Schoolにて学生と交流 森林局表敬訪問
3／13	実地研修：バコ国立公園	3／23	休み
3／14	平常業務	3／24	植林活動 イバン族のロングハウス訪問 空港↔ホテル送迎、チェックインアシスト
3／15	平常業務	3／25	チェックアウト～送り出し 経理部研修
3／16	休み	3／26	観光案内所にて研修
3／17	修学旅行視察	3／27	Sarawak Convention Bureauに関する説明、 Borneo Convention Center Kuching訪問
3／18	修学旅行視察	3／28	平常業務　MainBazar市場調査
3／19	CSR研修：Nyelitak小学校／村にてドローン上映会、森林保全研修	3／29	スタッフへの日本語指導 インターンシップまとめの発表
3／20	車両部研修		

2．3 実習内容詳細

3週間の間、幸運なことに私は多くのツアーや文化交流に関わることができた。この期間中に来

た旅行者はもちろん皆、目的・行き先が異なっていた。そのため私の実習内容は非常にたくさんあるので、ここでは事務所で行った平常業務の内容をはじめ、実地研修のうちいくつかを抜粋して内容を説明していく。

２．３．１ 平常業務

平常業務では主に与えられた課題をおこなった。私のした課題は、サラワク州における観光プロダクト調査とそのリストの作成、集めた情報を元にツアー日程の作成、スタッフへの日本語指導用資料の作成、宇都宮観光コンベンション協会の調査である。

観光プロダクト調査では、観光スポットの場所やアクセスなどの基本情報の他、入館料や簡単な概要をまとめた。さらに周辺のホテルやレストランも調べた。日本語と英語両方で検索し、錯綜する情報の中から取捨選択するということは、時間がかかり難しかったが、情報を見極める能力が身についたように思う。

続いての日程の作成では、観光スポット、ホテル、レストラン、飛行機の便名と時間、ツアータイトルなどすべて入力して、最終的に担当者の鍋嶋さんに一人当たりのツアー料金を入力していただき、一つの旅程表を作成した。

日本語指導用の資料の作成では、日本語を初めて学ぶスタッフに向けて、簡単な自己紹介ができるように挨拶、年齢、趣味の表現の仕方をわかりやすくまとめた。

宇都宮観光コンベンション協会の調査は、Sarawak Convention Bureau に関する説明（3／27）を受ける前にまずは日本のそれについて知ろうということで、観光プロダクト調査同様、ホームページから情報を得て簡単にまとめた。コンベンション協会とは具体的に何をしているところなのかや、これまでのコンベンションの事例について調べた。

２．３．２ 送　迎

内容は主にお客さんを空港でお迎えし、ホテルまで送り、チェックインのサポートをするというものであった。私は一緒に同行して一連の流れを見学したり、荷物の運搬の補助をしたりした。ここまで丁寧なサービスは大手の会社ではあまり行わない。子会社だからこそできる手厚いサービスでる。また、お客さんが空港に到着して、外国に来て初めて信頼できる人というのが現地のガイドであるから、第一印象はとても重要で、お客さんを安心させる笑顔や態度で接しなければならない。

2．3．3．修学旅行視察

この実習では、４月に行われるクアラルンプール日本人学校の修学旅行の視察を、学校の先生と添乗員と一緒に行った。修学旅行で訪れる場所すべて（ホテル、レストラン）の下見をして、閉まっている施設はないか、食事の量は適切か、アレルギーや宗教のタブーに触れるものはないかなど細かい事項を逐一確認した。安全で楽しい修学旅行にするために視察はとても重要で、旅行産業の中でも重要な位置を占める。

２．３．４ 植林活動

「NPO ボルネオ熱帯雨林再生プロジェクト」という NPO 団体の活動の一環として、東京羽田ロータリークラブが国際交流を支援する東京の高校の２名の生徒とサバル森林保護地区にて植林活動を行った。創立 60 周年を記念して、1,000 本の植林が行われており、私たちは残りの 10 本を植

林した。実は私たちが植林する何日も前から現地の方々が植林をしていてくださり、このようなプロジェクトを継続するには現地の方々の理解と協力が必要不可欠である。

写真１　植林活動終了後

写真２　発表会終了後の集合写真

３．実習の感想

出発する前までは、一人で上手くやっていけるのか、会社に迷惑はかからないか、コミュニケーションはちゃんととれるのかなど不安をたくさん抱えていた。しかし、クチンに到着してからは会う人皆がとても親切にしてくださり、緊張もほぐれて、落ち着いて実習をすることができた。体験することすべてが新鮮で、たくさんのことを吸収でき、とても刺激的で有意義な３週間を送ることができた。

旅行会社は、一般観光（ツアー）の手続きをやっていると思っていたが、それ以外にも教育旅行やエコツアー、テレビ取材や会議のコーディネートに至るまでたくさんの事業をしていた。これほど多くの事業を展開しているのは､旅行客の観光の目的が変化しているからだという。その変化を、肌で感じることができた。これからの旅行業界には、普通の観光以外の上記のような観光を充実させることが重要になってくるのではないかと感じた。中でもコンベンション事業は、経済規模が非常に大きいので注目度が高く、私もより詳しくこの事業について調べたいと思っている。

最後に､｢貯金をして、費用をかけて足を運んでくれた旅行者に対してその費用かそれ以上のサービスを提供しなければならない｣という一人のスタッフの言葉がとても印象に残っていて、お客さんに対するサービス精神の持ち方に感銘を受けた。スタッフ一人一人の心構えが会社の印象に大きな影響を与えることを再認識できた。

４．まとめ

このインターンシップは、私にとって今後進路選択をしていく上で重要な財産となった。今まで漠然と旅行会社に興味はあったが、真剣に調べたり考えたりしたことはなく、曖昧なままであった。しかし今回の実習で多くのことを学び、経験して、やはり自分はこの業界が好きだと実感し、進路選択において非常にプラスになるものを得ることができた。また今回は海外で日本人が経営する会社で働き、様々な言語、文化が混在するという環境であった。お互いの文化や宗教を理解し、尊重し合いながら働くということを経験できて、これは日本でも応用しなければいけないと感じた。この実習で得た知識や技術、サービス精神、仕事をする上でのモチベーションや心構えを今後の生活に生かしていきたい。

５．謝　辞

今回のインターンシップに際して、担当の鍋嶋さん、酒井社長はじめ、INSAR の皆様には丁寧なご指導だけでなく、生活面まで配慮していただき、大変お世話になりました。皆様のおかげで大変充実した３週間を送ることができました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

学部／学科：国際学部　国際学科　　学年：２年　　氏名：刈屋　陽菜
実　習　先：サラワク大学（UNIMAS）言語コミュニケーション学科
実 習 期 間：平成 31 年 2 月 25 日～ 3 月 22 日

１．実習先の概要

1992 年に設立されたサラワク州内で唯一の国立大学。広大なキャンパス内にはスタジアムやカヤック、プールやテニスコートなどの施設が充実している。また、キャンパスは多くの木々や植物に囲まれており、豊かな自然を感じることができる。現在は８つの学部から成り立っており、本学との交換留学協定校でもある。また、周囲にはオラウータン保護施設や国立公園といった観光地も存在し、サラワクの大自然の中で多民族文化に触れながら、学ぶことができる。

今回私が実習させていただいたのは言語コミュニケーション学科の日本語の授業である。それぞれの学習進度に合わせてレベル１から３までの全ての授業にティーチングアシスタントとして参加させていただいた。日本語の授業は全学部共通の選択授業の一つだったため、様々な学部に所属している生徒達と共に学習させていただいた。

２．実習内容

２．１ 実習スケジュール

月曜日　午前９時～11時　Level 1 の TA11 時～３時　お昼休憩とテストや作文の添削等
　　午後３時～５時　Level 1 の TA
火曜日　午前８時～11時　授業の準備　作文の添削などを行う時も　11時～２時　level 2 の TA
　　午後２時～３時頃まで　お昼休憩　その後仕事が残っていれば終わるまで
水曜日　午前８時～11時　Level 3 の TA　11 時～２時　Level 2 の TA
　　午後２時～３時頃まで　お昼休憩　その後は仕事が残っていれば終わるまで
木曜日　午前９時出勤　この日は授業がないため次の日の日本語文化の授業の準備と先生にチェックをしていただき、終わり次第帰宅
金曜日　午前９時～11時　Level1 の TA11 時半～ 12 時頃（内容によっては 12 時半まで）日本文化紹介の授業時間　午後３時～５時　Level 1 の TA

２．２ 実習内容詳細

私の主な実習内容は授業中のペアワーク、生徒の学習補助、作文の添削、小テストなどの採点やテスト作成、週１回行われる日本文化紹介などである。大学の授業は基本的に１コマ２時間であるが、言語の授業は１コマ３時間で行われる。始めの授業（私たちの大学で例えると１コマ目）のスタートは８時からで終わりは９時までと、日本に比べてとても長い。私は１日多くても２コマ分しか、授業がなかったため、上の実習スケジュールにもある通り、授業終了後にテストの採点や作文添削、テストの作成などを行った。授業中は積極的に質問をしてくる生徒だけでなく、本当に理解しているかどうかの確認も含めて生徒全員に話しかけ、なるべく全生徒と関わるように取り組んだ。また、週１回の日本文化紹介では、実際に私が１時間だけ授業時間をいただき、俳句や和服といった日本の伝統文化についての紹介にも取り組んだ。

写真１　火曜日 level 2 のクラス

写真２　水曜日 level 3 のクラス

写真３　水曜日 level 2 のクラス

また、実習３週目から４週目はテスト週間ということもあり、個別にわからないところを聞きたいという生徒に授業時間外に教えたりなども行なった。

３．実習の感想・学んだこと

私がこの実習を通して感じたことは、日本語を教えることの喜びと難しさである。日本語を母語とする私たちにとって、日本語を教えることがどれだけ難しいのかということを、この実習を通して痛感した。特に、生徒に質問をされてうまく答えられなかった時の悔しさや、普段何気に使っている言葉だからこそいざ使い分けを説明するとなると、悩むことなどがあった。ましてや、直説法で説明できるのはレベルが上のクラスだけであるため、レベルが下のクラスの指導には英語が必要になってくる。そのため、英語というお互いにとっての第二言語を介して意思疎通を図ることにも難しさを感じた。時には私が説明できずに困っている姿を見た先生が、マレー語で説明することもあった。

しかし、それ以上に自分の説明が相手に伝わった時、そして相手が使い方を理解して作文やテストなどで正しく使えるようになっていく姿を実際に目にすることができる喜びはその大変さを上回るものであった。私も自分の説明が相手にうまく伝わらなかったことで悔しい思いをした時は、分かりやすい指導方法を考えたり、指導方法を先生に相談したりすることで、授業を通して生徒と共に私も学ぶことができた実習期間であった。正直なところ、１ヶ月で指導の仕方を学ぶのはあまりにも短すぎたが、それでも日々成長している生徒達の姿を見ることができ、日本語という言語に向き合うきっかけを与えてくれた、とても貴重な時間になった。

４．まとめ

私は今回の実習を通して自分のやりたいことは何かを見つけることができた。実際、実習に参加する前はサラワク大学のインターンシップは今年が初めてで､私たちが第１期生ということもあり、受け入れてくださる先生方とのやり取りがスムーズにいかなかったり、到着してからの動きを把握することができなかったりと、不安なことばかりであった。さらに日本語を教えることには以前から関心は持っていたが、具体的な日本語の指導方法や大学教師としての仕事の進め方など知識も経験もないままであった。実際に実習に入ってからも、本当にこれが正しいのか分からず悩む日々であった。また、先生方も初めてのことでどう対応したらよいか分からず、お互いが悩む日々であった。しかし、だんだんと月日を重ねていくにつれて、授業の中で生徒達の声を聞き、何が必要とされていて私が役に立つ仕事は何かを見極めることができるようになってからは、仕事が楽しくて、１日が長いと感じていた第１週目とは打って変わり、４週目は１日が短く感じられた。そしていつの間にか、私にとって日本語を教えるということが今自分のやりたいと思うことになっていた。日本語を指導してきたというには知識や指導方法に欠ける部分があったが、それでも自分が誰かに必要とされていて、その人たちが成長していく姿を間近で見る事が出来る素晴らしい仕事だなと感じた。あれだけ実習に参加する前は不安で自信がなかった私も、この１ヶ月を通して自分の将来を見つめて考えるとても良い期間になった。また、この２学年にインターンシップに参加することの大切さを感じることができた。もし仮にこのまま、インターンシップに参加せずに将来について決めてしまっていたら自分の本当にやりたい事が何かを見つけることができないまま、終わってしまっていたかもしれない。そういった点を含めて、大変実りのある１ヶ月であった。

５．謝　辞

この度は大変お忙しい中、私たちのことを受け入れてくださり本当にありがとうございました。特に授業に参加させていただいたロキア先生とナジャ先生には、誰もが経験することができないような貴重な経験をさせていただきました。その他、１ヶ月生活する中で関わって頂いた全てのサラワク大学の関係者の方々に感謝いたします。１ヶ月は長いようでとても短く、毎日が新しい発見と経験でいっぱいでした。この経験を糧にこれからの将来について考えていこうと思います。最後になりますが、受け入れをして頂いたサラワク大学関係者の皆様、本当にありがとうございました。

学部／学科：農学部　森林科学科　　学年：２年　　氏名：中平　恵
実　習　先：UNIMAS（サラワク大学）
実 習 期 間：平成 31 年 2 月 11 日～ 3 月 1 日

１．実習先の概要

所在地：Jalan Datuk Mohammad Musa, 94300 Kota Samarahan, Sarawak
大　学：UNIMAS（サラワク大学）
学　部：FLC（Faculty of Language and Communication）

サラワク大学は、ボルネオ島にあるサラワク州クチンに本部を置く大学で、1992 年に 2 学部から 8 学部に拡張された総合大学である。世界の大学ランキングを公表している英国 QS 社の「アジア大学ベストランキング」にも掲載されており、「UNIMAS」と通称される。総学生数は約 2 万人である。

２．実習内容

日本語クラス（選択授業）での、生徒との会話練習や、授業の合間での日本文化の紹介などにより、生徒の日本語能力向上と日本文化への理解を深めるための手助けとして働く。

２．１　実習スケジュール（一例）

月：9 － 11 日本語クラス Level 1 を見学したのち、生徒との会話練習
火：11 － 14 日本語クラス Level 2 を見学したのち、生徒との会話練習
水：8 － 11 日本語クラス Level 3 を見学したのち、生徒との会話練習
木：休　み
金：8 － 11 日本語クラス Level 1 を見学したのち、生徒との会話練習
　　11 － 13 書道の体験授業
　　14.5 － 17 日本語クラス Level 1 を見学したのち、生徒との会話練習

２．２　実習内容詳細

⑴　会話の練習

授業の間に設けられる会話練習の相手となる。ネイティブスピーカー（中平）の発音を聞かせる。会話の内容は、授業で学んだ単語や文法を使ったものである。

⑵　日本の文化や、言葉を紹介する

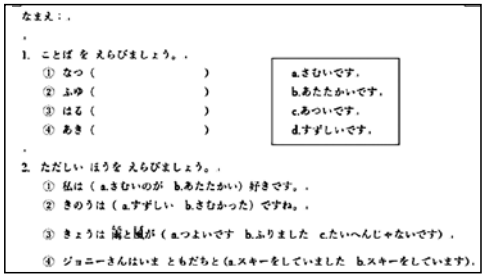
金曜日に、授業と授業の間の時間を使って日本の文化や言葉の紹介をする時間が設けられた。第一回目は書道、第二回目は折り紙、第三回目はオノマトペや、体の一部を使った慣用句の紹介を行った。

図１　書道体験の様子

図２　集合写真

⑶　小テストの採点・作成

Level 1 クラスで行われたひらがなテストの採点を行った。また、Level 2 と Level 3 クラス用の小テストを作成した。テストの内容は、教科書で勉強した範囲を総合したもので、○×問題や書き取りの問題など、いくつかの形式を含めたものである。

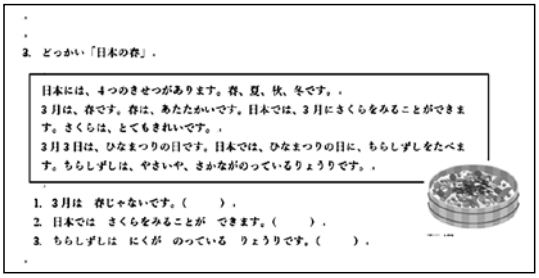

なまえ：.

1. ことば を えらびましょう。.
① なつ（　　）
② ふゆ（　　）
③ はる（　　）
④ あき（　　）

a.さむいです。
b.あたたかいです。
c.あついです。
d.すずしいです。

2. ただしい ほうを えらびましょう。.
① 私は（a.さむいのが b.あたたかい）好きです。.
② きのうは（a.すずしい b.さむかった）ですね。.
③ きょうは 暑と風が（a.つよいです b.ふりました c.たいへんじゃないです）.
④ ジョニーさんはいま ともだちと（a.スキーをしていました b.スキーをしています）.

図３　小テストの一部


2. どっかい「日本の春」.

日本には、4つのきせつがあります。春、夏、秋、冬です。.
3月は、春です。春は、あたたかいです。日本では、3月にさくらをみることができます。さくらは、とてもきれいです。.
3月3日は、ひなまつりの日です。日本では、ひなまつりの日に、ちらしずしをたべます。ちらしずしは、やさいや、さかながのっているりょうりです。.

1. 3月は　春じゃないです。（　　）.
2. 日本では　さくらをみることが　できます。（　　）.
3. ちらしずしは　にくが　のっている　りょうりです。（　　）.

図４　小テストの一部

⑷　授業の見学

実習の前半は授業の見学が主であった。その見学を通して、先生がどのように授業を進めているのか、学生の習熟度などを知ることが出来た。授業では、スマートフォンを利用した取り組みなどが見られた。

図５　スマートフォンを利用した単語ゲーム

３．実習の感想・学んだこと

今回の実習を通して、日本語教育がどのように行われているのかを知ることが出来て、とても勉強になった。日本語を母語とする自分にとって、授業で行われている内容は、日本語を使用している中で意識したことのないもの（述語の活用形など）も多々あり、学生に質問をされたときにうまく答えられなかったことがもどかしかった。日本人が日本語を教えるには、日本語を深く理解し、日本語を勉強する人が何を難しいと思うのかを考えなければならないのだと思った。

また同年代の学生が､熱心に語学を勉強している様子に刺激を受けた。授業の様子を見ていると、寝ている学生や話を聞かない学生はおらず、3時間という長い授業にも関わらず集中して授業を受けていた。同じ大学生として見習うべき点が多くあり、今回その様子を知ることが出来て良かったと感じている。

４．まとめ

実習で得られたこととして、日本語教育について少しでも触れられたこと、学生の勉強に対する意識を感じられたことなどが挙げられるが、私にとって最も印象深いのは、人との関係の築き方を学べたことである。実習が始まる前は、現地の学生とうまく交流できるのかどうか不安しかなかった。しかしいざ会ってみると､初対面の日本人に対して興味をもって話しかけてくれる学生もおり、「その人と話がしてみたい」､「興味があるから知りたい」という気持ちを持って積極的に話しかけることが、人と打ち解けるうえで大切だということを学ぶことができた。

５．謝　辞

今回、お忙しい中実習を受け入れていただき大変感謝しております。今回の実習で得られたことは、今後の学生生活を過ごすうえで必ず糧にします。3週間という短い期間ではありましたが、多くのことを学ばせていただきました。ロキア先生、ナジャ先生、本当にありがとうございました。また、実習期間中に交流した日本語クラスの学生や、寮のルームメイト、その他多くの学生にも、私と関わってくれてありがとうと伝えたいです。

学部／学科：国際学部　国際学科　　学年：2 年　　氏名：坂本　成美
実習先：サラワク大学　UNIMAS Global　国際関係課
実習期間：平成 31 年 3 月 4 日～ 3 月 29 日

1．実習先の概要

今回の実習先であるサラワク大学（通称 UNIMAS）はボルネオ島にあるマレーシア最大の州、サラワク州のコタサマラハンにある総合大学である。UNIMAS Global（国際関係事務局）は、国内外の他大学・企業からの訪問者の対応というような国際的な仕事のみならず、大学に通う学生たちからの相談を受けたり､大学内で行われるイベントの運営などを担う機関である。

2．実習内容

2．1 実習スケジュール

3 月 4 ～ 6 日　UNIMAS、UNIMAS Global 全体の見学、基礎的なマレーシア語の学習
7 日　中国からの来客の対応
8 日　久留米大学との国際交流協定（MOU：Memorandum of Understanding）締結式、宇都宮大学職員とのミーティング
11 日　日本に向けた UNIMAS のプロモーション方法を考える
12 日　カナダ政府からの来客の対応、ミーティング
13 日　大学内のサッカーの大会でのボールガールの仕事
14 日　イスラムに関しての学習
15 日　ペトロナス大学との国際交流協定（MOU：Memorandum of Understanding）締結式
17 日　Sarawak Career & Training Fair 2019
18 ～ 19 日　マレーシアの教育制度に関する調査
20 日　MAGU（Majlis Anugerah Gemilamg UNIMAS）のリハーサル
21 日　MAGU の運営補佐
22 日　大学紹介冊子、DVD へのシール貼り
23 日　IPT（大学紹介イベント）への参加
25 ～ 26 日　Deputy President へのインタビューの準備
27 日　Deputy President へのインタビュー
28 ～ 29 日　インタビューのまとめ作業

2．2 実習内容詳細

⑴　来客者の対応

UNIMAS Global には世界各地からの来客者が多く訪れる。今回の実習期間中に実際に自身も対応したのが中国、日本、カナダという 3 カ国からの訪問者であった。中国からの来客者は、河南省にある工業大学の教授らであり、私は工学部の施設内の見学に同行し写真撮影などの補助を行った。日本からは久留米大学の教授と宇都宮大学の職員という 2 組の来客があった。まず、UNIMAS は前者の久留米大学と MOU を結んだため、その締結式に参加した。後に昼食をともに取り、その際には教授らとお話をする機会も得ることが出来た。宇都宮大学からは留学生・国際交流センター職員の栗原さんがいらっしゃり、UNIMAS と宇都宮大学間の国際的な生徒の交

流についてのミーティングを行った。私も同席し、今回のインターン実習に関しての意見や改善点などを考え述べた。カナダ政府から来られた教育に関する部門専門の方々は、UNIMAS とカナダの学生とのさらなる交流を可能にするための話し合いを行った。私も同席し、勿論のこと全て英語で行われる会議の内容を理解しようと試みた。(写真 1 を参照)

⑵ イベント運営の補佐

UNIMAS ではイベントがたくさん行われる。生徒、職員が自主的に企画・運営を行うものから毎年決まって行われるものまで、その種類は多様である。大きなイベントの 1 つとして、MAGU というものがあった。これは UNIMAS に勤めている教授、スタッフ達の中で優秀な働きをしたと認められた者たちを表彰する年に一回の大きなセレモニーである。私は表彰の際の賞状渡しの補助を行った。表彰者の数は大変多く、全ての表彰を終えるのにかかった時間は 2 時間強であった。(写真 2 を参照)

UNIMAS 内でのイベントの他にも、大学入学を目指す子供たちやその親向けの 2 つの大きな説明会にも参加した。1 つ目は Sarawak Career & Training Fair 2019 というもので、大学だけでなく、ホテルや伝統工芸屋などマレーシアの様々な企業もプロモーションを行っていた。それに対し 2 つ目は IPT というイベントで、こちらはマレーシアにある全ての Public University がプロモーションのために集まったものだった。私は UNIAMS ブースに訪れた人々の対応だけでなく、自身も他のブースを見て回り、マレーシアの教育機関や企業について学んだ。

⑶ SNS を介した UNIMAS のプロモーション

UNIMAS では世界各国からの留学生がそれぞれの興味のある分野で学んでいる。その中には日本人も含まれている。しかしその数は 4 名程度と、他国からの留学生に比べては少ないようだった。私はその理由がプロモーション量の不足という点にあるのではないかと考え、日本という国に対しての効果的なプロモーションは何かというのを見つけ出すことを提案した。実際に行ったのは Facebook と Instagram 上で UNIMAS に関する写真を、わかりやすく短い説明文と共に投稿することである。日本人に UNIMAS に興味をもってもらうため、日本の大学にはない UNIMAS の良さを伝えようとした。(写真 3 を参照)

写真 1　カナダからの来客

写真 2　MAGU での賞状渡しの様子

写真 3　UNIMAS 内で行われたフードバザール

３．実習の感想

日本との働き方の違いを学びたいというのが今回の国際インターンシップに参加するうえでの一番の大きな理由だったが、あまりにも異なる点が多すぎて、終始驚きの連続だった。まず、良い意味でマレーシアの職場はルーズであった。アットホームな雰囲気の UNIMAS Global のオフィスでは、笑い声や歌声がよく聞こえた。最初はいかがなものかと思っていたが、そう思ってしまう時点で自身がストレスに溢れた日本の労働環境を当たり前のものだと思っていることに気が付いた。UNIMAS で働いていた人の中には誰一人として暗い顔をしてだんまりと仕事をしている人がいなかったのだ。ストレスレスなあの労働環境を目の当たりにし、過労死という問題を抱えている日本がいかに危ない状況に置かれているかを再確認することができた。

職場で飛び交う言語はマレーシア語が主であったが、皆英語ができるためコミュニケーションの際に困ったことはあまりなかった。しかしマレーシア語が現地の第一言語ということで彼らが扱う書類や会議での会話がほとんどマレーシア語であったのを目の当たりにし、やはり言語の壁は感じざるを得なかった。マレーシア語が分からないということで、私に任せられる仕事には限度があるということを伝えられ、なんとももどかしい気持ちになったが、仕方のないことである。

そして、実習期間中に何度も聞かれたことがある。それは、宗教は何かという質問であった。マレーシアで生きる人々にとって皆が何かしらの宗教を信じていることは当たり前のことであるからだ。私は実習開始前に宗教についての下調べをしていったため、宗教は何かという問いに対して自分は無宗教であるという返答をすることが良いことではないということを知っていた。日本人は特定の宗教を持つ人は少なく、いわばフリーシンカー（Free thinker）がほとんどであるとの説明をしたが、彼らにニュアンスが伝わったかは定かではない。実際のところ日本において何かしらの宗教の信者は特別視されがちであるが、マレーシアでは逆にそんな日本人である自分が特別視される存在になった。きっとこれは他の国でも同じであろう。そういったことを経験し、宗教というものに関する見方が変わったこともこの実習の収穫であった。

４．まとめ

大学生のうちに海外のオフィスでの仕事を体験できたのは自分にとって大きな収穫であるといえる。マレーシアは日本に比べてストレスフリーであったが、だからと言ってマレーシアの労働環境や労働条件が日本のそれらより優れている、だから日本は劣っているとは言い難い。繊細で真面目すぎるというのは悪く聞こえるかもしれないが、日本の良さであるとも言えることに気が付いた。仕事は仕事、プライベートはプライベートというように割り切って仕事ができる日本人はそこを誇りに思うべきだと思う。日本人だからこその強みがあることを外に出てみて初めて知り、将来海外で働くことも本格的に視野に入れたいと思うようになった。いま一度、卒業後に自分がやりたいことはどんなことなのかをじっくり考えたい。

５．謝　辞

宇都宮大学からのインターン生として初めての UNIMAS Global での実習ということに加え、1 か月という短い期間の中でお互いに分からないことが多く、探り探りの状態が続き苦戦した面が多々ありました。しかし今回の実習を中身の濃いものにすべく様々な提案をしてくださったり、反対に私が企画したことを受け入れて手助けしてくださったりと、何にでも挑戦する機会を与えてくださったことに大変感謝しております。渡航前は少し長いかなと感じていた 1 か月という時間は実際にはとても短く、やり残したと思うことが多いままでの帰国となったのが 1 つの心残りですが、何らかの形で UNIMAS のためになるようなことを続けていこうと考えています。この度は本当にありがとうございました。

学部／学科：地域デザイン科学部　社会基盤デザイン学科　　学年：2年

氏名：村上　遥佳

実　習　先：NPO 法人 APCAS

実 習 期 間：平成 31 年 2 月 18 日～ 3 月 15 日

1．実習先の概要

住所：27/12, Rosmead Place, Colombo 7, Sri Lanka

NPO 法人アプカス（Non Profit Organization APCAS）は、北海道函館市に事務所をもつ NPO 法人で、2004 年の 12 月に発生したインド洋大津波のスリランカ人被災者を支援するために結成された。「対話・自立・持続」をテーマに、そこに暮らす人々の生き方を大切にしながら、災害への緊急復興支援、僻地農村の子ども教育支援、障がい者の支援、環境保全の活動、家庭菜園や持続的な農業技術の普及、衛生向上や水資源の安定確保、現地アーティストとの商品開発等の活動を行っています。[1] アプカスは、現在指圧マッサージサロン「Thusare トゥサーレ」の運営と視覚障がい者の雇用促進を目指した体制強化、バウラーナ長屋再生プロジェクト、オーガニック野菜等販売店「kenko1st」の運営と小規模農家の支援などの事業を行っている。

2．実習内容

2．1 実習スケジュール

1 週目：kenko1st での野菜販売・デリバリーの準備の手伝い、ヒルトンホテルのスタッフの方に向けての指圧サービスの手伝い（木曜日）、Good market への出店（土曜日）

2 週目：kenko1st での野菜販売・デリバリーの準備の手伝い、キャンディ・バウラーナの農場見学（水～金曜日）、Good market への出店（土曜日）

3 週目：kenko1st での野菜販売・デリバリーの準備の手伝い、kenko1st のミーティング（金曜日）、good market への出店（土曜日）

4 週目：kenko1st での野菜販売・デリバリーの準備の手伝い、Good market への出店（土曜日）

2．2 実習内容詳細

⑴ kenko1st での野菜販売・デリバリーの準備の手伝い

まず朝市場から持ってきた野菜の計量をして計量をしたものから売り場に並べていく。お客さんが来たらお客さんの対応をして、それ以外の時間でデリバリーの注文が入っているお客さんのために必要な野菜の準備をする。大体 14 時～ 15 時くらいにはデリバリーの準備が終わるのでデリバリーの車が出発したら店内の清掃や整理整頓をする。

⑵ Good market への出店

朝 6 時にお店に集合して市場から持ってきた野菜の計量を始める。計った野菜は Good market に持っていく分と違う場所に出荷する分とで分ける。野菜を計り終わったら必要なものと一緒にどんどん車に積み込んでいく。Good market についたらテントの下に持ってきた野菜を並べて出店開始。日中の仕事内容は kenko1st の店での仕事内容とほぼ同じだが、お金のずれが出ないようにこまめにお金を数えて売り上げと照らし合わせることが必要。また、長時間外にいるため野菜の元気がなくならないようにこまめに霧吹きで水をかけてあげることが必要。大体 18 時くらいに Good market が終了し、その後片付けをしてお店に帰宅。残った野菜や持って行ったものをお店で整理整頓して 1 日の業務が終了する。

３．実習の感想・学んだこと

毎日割とやることが多くて忙しかった。特に毎週土曜日の Good market は朝が早いし一日中外にいなければいけないので体力的にも大変だったがマーケットの空気感とか他の店の様子を見ていると楽しかったので一日中しっかり仕事できたと思う。日々の仕事では全体的に受け身になって指示を待つことが多くなってしまったのが反省点だった。もう少し自分から仕事を探したり、日本人ならではの目線で提案したりすればよかったと思う。また、仕事中に仕事のことでもう少し現地の皆さんとコミュニケーション取りたかったとも思った。

この実習で学んだことの 1 つ目は、ものを仕入れて、それをお客さんに売るのがどれだけ大変かということである。仕入先の農場の見学にも行ったが確かに野菜を育てるということも大変だし根気のいる作業だと思うが、その野菜を売るということもとても大変だった。Good market での出店でそれが顕著に分かった。野菜が全く売れない時間も 1·2 週目は多くあったし、野菜の値段だけ聞いて帰ってしまう人もいた。自分たちが日本で普段買っているものを売っている人たちにも全く同じではないかもしれないが､似たような苦労があるということについて初めて考えさせられた。2 つ目は、海外の人々と働くということである。私はこれまで旅行以外で海外に行ったことがなく今回いきなり海外のインターンシップに参加することに正直不安の方が大きかった。コミュニケーションは取れるのかとか、安心して生活できるのかとか。やはりスリランカについて数日間は緊張してなかなか話せないでいたが、1 週間もたてばどんどんコミュニケーション取れるようになって仕事も少しずつできるようになってきた。海外の人と働くうえで英語力は変わらなくても、コミュニケーションをとろうという気持ちがまず大切なのかもしれないと思った。

４．まとめ

私は将来どんな風に働きたいかとかどうなりたいかなどまだ決められていなくて、新しい考え方や仕事の仕方がちょっとでも見られればいいなと思ってこのインターンシップを希望した。石川さんのお話を聞かせてもらって、自分が目標とするビジネスをやり抜くことがいかに大変かということが分かった。今の kenko1st の収支とかを見て楽に稼ぐ方法はたくさんあるが、それだと目標としていることは達成できないから他の道を通っていくという話を聞いたとき本当に石川さんはかっこいい大人だと思った。今回の実習で具体的な将来の働き方とかは見えてこなかったが、それでも仕事についたときや今後の生活の中である程度自分の中で目標を立てて、その目標に向かい楽な道にあまり逃げないようにして進んでいきたいと思った。

５．謝　辞

NPO 法人 APCAS 様をはじめ kenko1st の皆様。1 か月のインターンシップの間お世話になりました。英語もろくに話せずに、たくさんのご迷惑をおかけしたと思います。しかし、皆さんがとても仲良くしてくださり、石川さんもたくさんためになるお話もしてくださり、充実した実習生活が送ることができました。また、私が体調をくずして寝込んでいるときも忙しい中皆さんが気にかけてくれて本当に自分は周りの人に恵まれていると心から思いました。あの時はほんとうにありがとうございました。これからも皆さんお元気でいてください。せっかくできたご縁なのでこれを絶やすことなく、またスリランカに行こうと思います。本当にお世話になりました。ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

参考文献

1）NPO 法人 APCAS ホームページ http：//www.apcas.jpn.org/info.html

学部／学科：地域デザイン科学部　社会基盤デザイン学科　　学年：２年

氏名：遠藤　里桜

実　習　先：NPO 法人アプカス

実 習 期 間：平成 31 年 2 月 18 日～ 3 月 15 日

１．実習先の概要

主に 2 カ所 organic vegetable shop「kenko1st」(27/12 Rosmead Place Colombo7 Srilanka) スリランカでは未だに organic vegetable というものは日本ほど広まっていない。そこでお客様に高価ではあるが、健康に良い有機野菜を販売する。毎週 2 日間はデリバリーサービスも行っている。天候に左右されやすい農家の収入を安定させることを最大の目的としている。儲からないと言われる農業の分野を発展させ、若者の農業参加を促す。

指圧マッサージ店「Thusare」(103/12 Dharmapala Mawatha Colomobo7 Srilanka)

スリランカでは唯一の視覚障害者が行う指圧マッサージ店。日本人の佐々田先生監修のもと指圧の勉強をして国家資格を取得した者がセラピストになれる。視覚障害者の支援といずれは彼らが実家や田舎で自店舗を展開していくことを望んでいる。“Talking with hands” シャイな人達が多いスリランカで手を使ってお客様をもてなす。

２．実習内容

２．１ 実習スケジュール

・毎週月曜、木曜日：農村部から新鮮な野菜が入荷され、野菜の品揃えが多く、客も多くなる。
・毎週土曜日：kenko1st Good Market にて販売
・2 月 20 日から 2 月 22 日：「Thusare」出張サービス（Hilton ホテル）
・3 月 2 日午前中「Thusare」お手伝い
・3 月 6 日から 3 月 8 日：農場見学（Bawlana, Mulberry farm）

２．２ 実習内容詳細

⑴ kenko1st shop 野菜の販売のお手伝い

・PC に品名、重さを入力し値段を割り出す。測り終えた野菜の袋詰め。
・デリバリーのお客様用の野菜のピッキングと袋詰め
・夕方あたりにお店の清掃、整理整頓
・商品の陳列並び替え（どうすればお客様に見えやすくなるか）
・デリバリーサービスに同行（お客様の家の玄関まで行き、野菜を渡し、お代をもらう）
・野菜やその他商品のプライスタグ作り
・お客様の email、電話番号を PC に入力
・kenko1st とその他スーパー、市場の売上高のグラフ、表作り（kenko1st との差を見える化）
・お店付近の学校で広告配り
・kenko1st の領収書入力
・Good Market にて野菜の販売お手伝い
・Good Market 用のプライス作り（店頭販売用とは値段が異なる）
・市場から来た野菜の重さ計測（Good Market 用、店に置いておく用等分ける）
・農場見学（Bawlana, Mulberry farm）
・農場者インタビュー（お客様に農場者の顔が分かるように、写真付きで）
・セロリの収穫のお手伝い
・お客様用アンケートの作成

⑵ Thusare お手伝い

・セラピストのサポート（タオルや布を渡す、アルコール消毒をする、使い捨てをもらう）
・セラピストを誘導（次は誰にやってもらうか等）

・Thusare 清掃
・お客様の誘導、案内（マッサージの種類、時間を聞く）
・Thusare 領収書入力（誰がどのマッサージを何分やったかを入力）

３．実習の感想・学んだこと

私は甘い気持ちでこのインターンに参加してしまった。働きに行っているということを頭の片隅に入っていたが、いつも遊びたい、観光したいという思いが強かった。インターンに参加しているという自覚が足りなかったことはまず初めに反省したい。私の今回の最大の目的である海外に住む、働くという事の厳しさを知る事はこの１か月で少しは知ることができた。そもそも働くとなると責任が一人一人に伴ってくるので一人一人の自覚が重要となってくる。人が１日休んでしまっただけで大ダメージとなる。スリランカ人は穏やかでマイペースな人が多く、自分の気分や都合で時間に遅れたり、休んでしまったりということが多いという。注意をするにも加減が必要となるわけで、そんなスリランカ人を上手くコントロールするのもまた苦労だと感じた。そして kenko1st が一番に目指している、変動しやすい農家の収入を安定させるということについて、日本でも農家は儲からないというイメージが少しはある。だからこそ若者が就きたがらず、高齢化が深刻化している原因になっている。実際にグラフや表を作り、kenko1st に売っている農家と他の市場に出している農家との１年間の収入の差はおよそ２倍であった。その分 kenko1st のオーダーも販売野菜に偏りが出ないように注文する。農場見学の際にお宅を見学させてもらったが、通常の２倍の収入をもらっている人達の暮らしのようには見えなかった。正直なところ他の市場に売り出している農家のお宅はもちろん訪問していないし、日本でさえ農場見学したことがないので、収入の差を暮らしなんて目で見て感じられることはなかなかないが。ともかく、農業者の収入を安定させて若者の農家の参入を促す。ただスリランカでは珍しい有機野菜を販売しているだけでなく、奥にこんなに深い意味があるということに驚いた。また「Thusare」がなぜこんなに人気になったのか不思議でならなかったが、そこには石川さんや佐々田先生とセラピストの努力によって成し得たものだと考えるととても感慨深い。一般的に視覚障害者が指圧のマッサージをすると聞いて、不安に感じる人の方が圧倒的に多い。差別は良くないと思いつつも、心の中でハンデの事を気にしてしまう。私が思う以上に世間はハンデとか気にしない時代になっているのかもしれないが。そんな「Thusare」も今度バングラデッシュに進出するかもしれないと聞き、ビジネスは苦しい事も多々あるが、次のステップに踏み出せた時には達成感を味わうことができるのだろうなと感じた。

４．まとめ

今回最も興味を持ったのは「ソーシャルビジネス」に関してである。聞いたことは何回かあったが、実際にどんなものなのか知らなかった。貧困や環境問題などの社会問題の解決を目指して事業を展開し、事業収益を上げながら、社会貢献をしていく。ただ利益を上げていく事、自社のブランドを上げる事を目標としているビジネスとは異なり、社会貢献に携わるという点でマイペースな私にもむいているかもしれないと感じた。今回の１ヶ月で日本とスリランカの経済格差や、働くということについて様々なことを考えさせられた。私はただ単に海外に住みたいと考えていたが、実際には私の身体が拒絶反応を示してしまったり、コミュニケーションの問題がたくさんあり、そんなに容易ではないということを身にしみて感じた。それでも、私はもっと英語を勉強して海外で働きたいと強く思ったインターンシップだった。たくさんの苦労がある方が、やりがいがあるのかもしれないから。本当にスリランカに行って良かったと心の底から思った。と同時に、関わって下さった全ての人に感謝したい。

５．謝　辞

１ヶ月大変お世話になりました。私が思っていた以上に色々な事を深く考え、様々な経験をすることができました。日々知識不足の私にあらゆる情報を教えて頂き、本当にうれしかったです。今ではもう Good Market の為に早起きしたのもとても懐かしく感じます。この１ヶ月の経験を元に私は海外で働く事に挑戦してみようと思います。お世話になる一方で何の恩返しができるか分かりませんが、いつかまた成長した姿を石川さんにお見せできるように日々精進します。本当にお世話になりました。感謝の言葉でいっぱいです。ありがとうございました。

学部／学科：国際学部　国際学科　　学年：2 年　　氏名：荒井　寿美
実　習　先：ケラニア大学
実 習 期 間：平成 31 年 3 月 18 日～ 3 月 29 日

1．実習先の概要

スリランカのケラニア大学にある人文学部現代言語学科。日本文学、日本ビジネス、教授法、漢字、翻訳、音声学、言語学などの授業が開講されている。二年生からは、Special コースと General コースに分かれており、Special コースは日本語のみを専攻とする。

2．実習内容

ケラニア大学人文学部現代言語学科の日本に関する授業に参加し、日本人としての意見や考えを述べる。また、事前課題でアンケート調査の実施、そのアンケート結果についての発表、日本文化の紹介をする。

2．1 実習スケジュール

3 月 18 日　インターンシップについての説明
3 月 19 日　授業参加（異文化、文法、文化）
3 月 20 日　ポヤデー祝日
3 月 21 日　授業参加（文学、読解、作文）
3 月 22 日　授業参加（教授法、日本文化紹介、読解）
3 月 23 日　休日
3 月 24 日　休日
3 月 25 日　授業参加（ビジネス、文化）
3 月 26 日　授業参加（異文化、文法、文化、アンケート結果についての発表）
3 月 27 日　授業参加（音声学、ビジネス）
3 月 28 日　授業参加（文学、読解、作文）
3 月 29 日　授業参加（教授法、日本の遊び発表、読解）

2．2 実習内容詳細

⑴　異文化の授業
　日本の恩と品の文化、スリランカと日本のありがとうの違いについて
⑵　文法の授業
　スリランカと日本それぞれにあることわざについて
⑶　文化の授業
　日本の縁起物について
⑷　文学の授業
　『夢十夜』についての生徒の発表
⑸　読解の授業
　読解の基礎となるもののカテゴリー分けについて

⑹　作文の授業
　　書式について
⑺　教授法
　　絵や文字、体を使った授業のやり方について
⑻　ビジネスの授業
　　正式なメールの書き方や手紙の書き方について
⑼　音声学の授業
　　イントネーション、撥音、促音、長音、拗音について
⑽　日本文化紹介
　　Power Point を利用し、今までに自分が体験した日本文化を発表する
⑾　アンケート結果についての発表
　　先方が準備したアンケートを実施・集計し発表する
⑿　日本の遊びについての発表
　　日本語を使い伝言ゲームをする

３．実習の感想・学んだこと

今回の実習では多くの学びがあった。まず、事前課題であるアンケートの集計を行ったことで、パワーポイントとエクセルの使い方に少し慣れることが出来た。次に、授業での日本文化紹介、アンケート結果についての発表、日本の遊びについての発表をする時間を設けて頂いたことにより、分かりやすく説明する力、発表する力、時間配分を考える力がついたように感じる。最後に、日々の授業では日本人でも分からない日本のことや、スリランカについて学ぶことができ、改めて日本人としての意識していなかった部分が見えた。

４．まとめ

ケラニア大学人文学部現代言語学科でのインターンシップは非常に有意義であった。八日間の授業参加であったが、ここでのインターンシップは社会人として、日本人としての振る舞いを学び、表現することが出来たように思う。このインターンシップの経験を生かし、今後自分はどのような人生を送りたいか、どんな人間になりたいかを考えていきたい。

５．謝　辞

この度は、約二週間にわたり大変貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。ティーチングアシスタントとしてのインターンシップでは、責任を持つことの大切さ、困難や急な変化に自分はどのように対応していくべきか、コミュニケーションの難しさを学び、授業に参加させていただいたことで、日本人として日本を再確認するきっかけともなり、二週間で非常に多くのことを学ぶことができました。この学びを通し、これから自分は何をするためにどのようなキャリアを積んでいくか、社会人になる前に何を身につけるべきか、身につけていきたいか、考え行動したいと思いました。お忙しい時間を割いて大変貴重な経験をさせていただき、心より感謝しております。ありがとうございました。